

昆 虫 類

概 説

ある地域の生物相の多様度は、その地域の自然環境の豊かさと相関する。多様性の尺度は単純にみるならば、そこに生息する昆虫の種数といえることができる。そして、その種数はその地域の面積と相関し、環境の多様度が関連し、島であれば陸地からの距離と一定の関数が成立する。ただし、この種数というのは、そこに生息するすべての昆虫がリストアップされて、はじめて可能なものであり、したがって調査精度が常に問題となる。環境評価の基礎となる福井県の昆虫相の調査は、1973年～75年度に行われ、1976年、「福井県自然環境保全基礎調査報告書」として刊行された。次いで、昆虫相は、「福井県昆虫目録」(1985年)において6544種であった。さらに1993～95年度現地調査、96年集約、1997年刊行の「福井県昆虫目録(第2版)」において、7862種である。その後も調査は継続され、公刊されたものと印刷中の文献データを加えると約8100種となる。これらの増加は福井県に生息する昆虫の種数が増加したわけではなく、それまで未発見または同定できなかったものが判明したにすぎない。

生物地理学的観点から福井県の昆虫相を概観すると、本格的な高山性昆虫は、富山県・石川県・岐阜県に比べて大幅に少なくなるが、奥越や南越の山地を中心に北方系昆虫の分布が見られる。その中には日本海側における分布南限となっているものも少なくない。一方、若狭湾・島嶼およびその周辺の半島部は照葉樹林に覆われ、暖地性昆虫が多く、特に島嶼は閉鎖的な生態で、構成される種が限られている代わりに、特有の種の個体数がやたらと多いという傾向が見られる。福井県の昆虫相を包括的に見た場合、本州のほぼ中央にあり、日本海に面する位置関係から、日本の平均的昆虫相を示すことは容易に理解されるが、敦賀湾から伊勢湾にかけの柳ヶ瀬断層を境界とする植物分布の区系地理学的区分が昆虫においても認められる。このような福井県の昆虫相は、旧北区系昆虫を基本にしながら、東洋区系昆虫の分布が混入しているという日本列島の昆虫相の縮図ともいえる。

福井県では、環境省(当時環境庁)が1997年に発表したカテゴリーを福井県域に置き換えて、評価、分類を次のように行うこととした。

- 県域絶滅(2種) 福井県内では野生では絶滅したと考えられる種。
ゴマシジミ(中部地方亜種) ヒメヒカゲ

- 県域絶滅危惧 類(34種) 絶滅の危機に瀕している種。

ヒラサナエ フタスジサナエ カトリヤンマ トラフトンボ キイロヤマトンボ カオジロトンボ
タガメ カワムラナベブタムシ ヤシャゲンゴロウ コガタノゲンゴロウ シャ-ブゲンゴロウモドキ
シナノキチビタマムシ ミヤマツヤセイボウ コツノアリ ツノアカヤマアリ アケボノベッコウ
アジアキタドロバチ ハグロフタオビドロバチ ヤドリホオナガスズメバチ カラトイスカバチ シモ
ヤマギングチ ムロタギングチ タイセツギングチ アギトギングチ カワラアワフキバチ キアシ
ハナダカバチモドキ マエダテツチスガリ ミドリコハナバチ コガタホオナガヒメハナバチ タイリ
クハキリバチ ナガマルハナバチ ホシチャバネセセリ クロシジミ オオウラギンヒョウモン

- 県域絶滅危惧 類(33種) 絶滅の危険が増大している種。

ホソミイトトンボ グンバイトンボ ホンサナエ オグマサナエ ネアカヨシヤンマ イトアメンボ
コオイムシ ゴミアシナガサシガメ ミヤマツヤハダクワガタ カワラハンミョウ ハラビロハンミョウ
ナカイケミヒメテントウ ザウターカギバラバチ オキナワシリアゲコバチ ヤマトセイボウモドキ
ウチダハラナガツチバチ ケブカツヤオオアリ アメイロオオアリ エゾアカヤマアリ アカヤマアリ
フカイオオドロバチ チャイロスズメバチ シモヤマジガバチモドキ タケウチギングチ ニトベギ
ングチ キュビギングチ ニッコウツヤアナバチ コムカシハナバチ エサンキマダラハナバチ ゴマ
シジミ(白山亜種) ツマジロウラジャノメ ツマグロキチョウ ウラナミジャノメ

- 県域準絶滅危惧(34種) 存続基盤が脆弱な種。現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によって「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの。

ムスジイトトンボ ルリイトトンボ アオハダトンボ キイロサナエ タベサナエ アオヤンマ
カラカネトンボ エゾエンマコオロギ ヤマトバツタ ハネナガクモマヒナバツタ カワラバツタ
ヒメハルゼミ エサキアメンボ オオコオイムシ シロヘリツチカメムシ コカスリウスバカゲロウ
ゲンゴロウ オオクワガタ オオチャイロハナムグリ サビナカボソタマムシ オシマヒメテントウ

セアカオサムシ ツネキアリバチモドキ フクイアナバチ フジジガバチ ニッポンハナダカバチ
 イカズチキマダラハナバチ クロアシエダトビケラ スジグロチャバネセセリ ヒサマツミドリシジミ
 ヒメシジミ オオムラサキ ベニヒカゲ アオモンギンセダカモクメ

●要注目(78種) 評価するだけの情報が不足している種。どの生息地においても生息密度が低く希少である。生息地が局限されている。生物地理学上、孤立した分布特性を有する。

ムカシトンボ マダラヤンマ エゾトンボ ハッチョウトンボ キトンボ マイコアカネ ナカジ
 マシロアリ セッケイカワゲラ ミネトワダカワゲラ *Calineuria jezoensis* ミヤマノギカワゲラ
 クチキコオロギ カワラスズ マツムシモドキ アカハネバッタ オマガリフキバッタ アカエゾゼ
 ミ モンシロミズギワカメムシ トゲミズギワカメムシ ヨコツナツチカメムシ マガタマハンミョウ
 ハクサンクロナガオサムシ ハクサンホソヒメクロオサムシ マスゾウメクラチビゴミムシ アスワメク
 ラチビゴミムシ マルガタゲンゴロウ コオナガミズスマシ マダラクワガタ ルリクワガタ マグ
 ソクワガタ オオムツボシタマムシ アオナガタマムシ サシゲチビタマムシ ガマクスイ イノウ
 エホソカタムシ クロジュウニホシテントウ アミダテントウ ヒゲブトナガクチキ ミスジナガクチ
 キ ワモンオビハナノミ フタイロカミキリモドキ クチナガチビキカワムシ モンシロハネカクシダ
 マシ ベーツヒラタカミキリ ヒラヤマコブハナカミキリ ホクリクヒメハナカミキリ ムナコブハナ
 カミキリ オガサワラチャイロカミキリ ニッポンモモトコバネカミキリ スネケブカヒロコバネカミ
 キリ キュウシュウチビトラカミキリ ヤノトラカミキリ ヤツボシシロカミキリ クロオビトゲムネ
 カミキリ イチモンジハムシ ナガフトヒゲナガゾウムシ チャバネホソミツギリゾウムシ ホソミツ
 ギリゾウムシ タカハシトゲゾウムシ キンケツツヒメゾウムシ ワモントゲトゲゾウムシ ハクサン
 シリアゲ ハマダラハルカ アルプスニセヒメガガンボ アヤヘリガガンボ ウスキシマヘリガガンボ
 ヒメハスオビガガンボ キバラガガンボ クモガタガガンボの一種 トワダオオカ オオバヒメアミカ
 ヒゲブトルリミズアブ オオヒゲナガハナアブ モトドマリクロハナアブ スズキナガハナアブ ミカ
 ドハマダラミバエ ハイイロボクトウ ムモンアカシジミ

以上に掲げたそれぞれの種のカテゴリーは、分類群によっては評価の基準が均一でないものがある。それは調査の精度や環境の変化の影響の受け方に差があるため、たぶん客観化できないからである。

参考文献

福井県自然環境保全調査研究会昆虫部会(編). 1985. 福井県昆虫目録. 405頁, 福井県.

福井県自然環境保全調査研究会昆虫部会(編). 1998. 福井県昆虫目録(第2版). 555頁, 福井県.

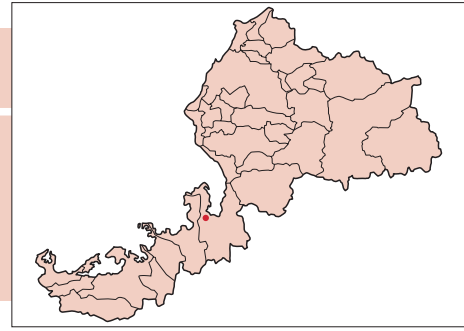
福井県自然環境保全調査研究会(編). 1999. 福井県のすぐれた自然, 動物編. 452頁, 福井県.

(佐々治寛之)

ゴマシジミ(中部地方亜種)

チョウ目シジミチョウ科
Maculinea teleius kazamotoi Druce

福井県カテゴリー 県域絶滅種
環境省カテゴリー 絶滅危惧 類



● 種の特性

ゴマシジミの中では大型で黒化傾向の強い亜種。幼虫はワレモコウ（バラ科）を食す。年1回，8月上～中旬に発生する。

● 生息状況

本州中部には飛騨山脈の高地に飛騨山脈亜種 ssp. *hosonoi* Takahashi が，その周辺の新潟，長野県，群馬県から富士山麓には中部地方亜種 ssp. *kazamotoi* Druce が分布する。県内では丸岡町東山から1頭の記録があり，その特徴は中部地方亜種に酷似する。中部地方亜種の分布域と離れているので検討の余地があるが，とりあえず中部地方亜種に含めておく。東山の採集地点は，その数年後に北陸自動車道の建設で消滅している。

● 存続を脅かす要因

県域では，生息の可能性はないと考えられる。

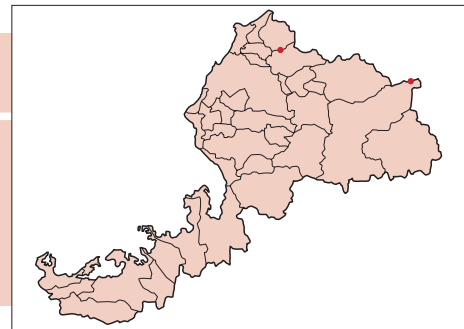
● 参考文献

下野谷豊一．1976．福井県未記録の蝶並びに異常型の蝶について．福井県博物同好会会報（23）31-35．
福井市立郷土自然科学博物館．
川副昭人．1976．原色日本蝶類図鑑．保育社．大阪．

ヒメヒカゲ

チョウ目ジャノメチョウ科
Coenonympha oedippus Fabricius

福井県カテゴリー 県域絶滅種
環境省カテゴリー 絶滅危惧 類



● 種の特性

茶褐色の地色に眼状紋を有し，湿原に（ときには乾いた湿原にも）生息する。年1回，暖地では5月下旬～6月下旬に，寒冷地では7月上旬から下旬に発生する。幼虫はヒメカンスゲ（スゲ科），シバ（イネ科）などを食す。幼虫で越冬する。

● 生息状況

広域分布種でヨーロッパ中部から中国，朝鮮半島に分布，国内では本州の中部以南に分布するが，生息地は局限される。県内では敦賀市花城からただ一度採集されているだけで，これ以外の記録はない。記録された地点は改変され，生息の可能性はなく。県域ではすでに絶滅したものと考えられる。

● 存続を脅かす要因

土地の改変により全国各地で生息地が消滅している。

● 参考文献

井崎市左工門．1955．福井県の蝶．福井県博物同好会．（2）：45-55．福井市郷土自然科学博物館．
川副昭人ほか．1976．原色日本蝶類図鑑．保育社．

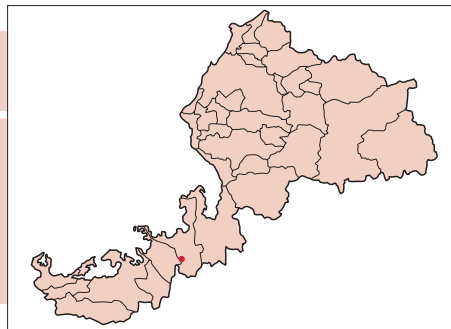
ヒラサナエ

トンボ目サナエトンボ科

Davidius moiwanus taruii Asahina et Inoue

福井県カテゴリー 県域絶滅危惧 類

環境省カテゴリー ——



● 種の特性

丘陵地から山地にかけての湿原を流れる細流に生息する小型のサナエトンボで、北海道から本州東北部にかけて分布する日本特産種モイワサナエの北陸～中国地方亜種である。丘陵地の廃棄水田内の細流にもしばしば生息する。成虫は県内では5～7月に記録されている。

同属のダビドサナエやクロサナエに類似するが、雄は尾部付属器、雌は後頭孔上縁の突起の形状などにより区別できる。

● 生息状況

富山、石川、福井、滋賀、京都、兵庫、岡山の各府県に局地的に分布する。

県内では美浜町の1カ所で記録されているに過ぎない。生息地はハンノキなどの疎林を流れる砂底の細流で、幼虫は水際などの緩流部に堆積した砂泥に浅く潜り込んでいるのが観察される。同地での個体数は多いが、成虫は生息地の細流の周辺に限って見られる。

● 存続を脅かす要因

県内では、現在1カ所しか記録されておらず、今後調査が進んだとしても、生息地が多く見つかるとは限らないので、同地の埋立てや細流の護岸、周辺林の伐採などが本種の県内の生息状況に大きな影響を与える。

● 参考文献

杉村光俊・石田昇三・小島圭三・石田勝義・青木典司．1999．原色日本トンボ幼虫・成虫大図鑑．xxv + 917pp．北海道大学図書刊行会，札幌．

和田茂樹．2000．福井県からヒラサナエを初記録．Tombo (42): 69-70．

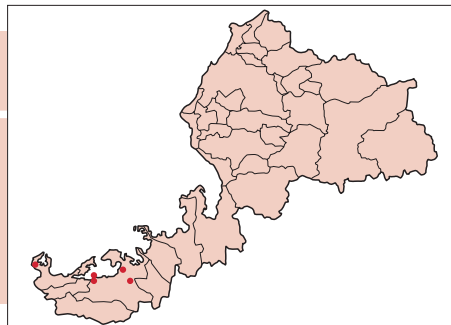
フタスジサナエ

トンボ目サナエトンボ科

Trigomphus interruptus Selys

福井県カテゴリー 県域絶滅危惧 類

環境省カテゴリー ——



● 種の特性

平地や、丘陵地の挺水植物が繁茂する池沼や、水田、畦間の溝川に生息している。

幼虫は、水底の泥の中に浅く潜って生活している。

● 生息状況

日本特産種であり、本州、四国、九州に分布している。淡路島、奄岐などの離島にも分布が見られる。

本県では、小浜市、高浜町から記録がある。近年では、小浜市からの記録が見られなくなった。高浜町下地区の灌漑溜池にわずかに生息しているだけになった。成虫は、5月上旬～6月中旬にかけて見られる。

● 存続を脅かす要因

幼虫は、泥の中に潜って生活するため、溜池や溝川内の豊富な泥土の堆積が必要となる。休耕田の増加に伴い、水田からの泥の供給が止まり、溝川内での生息環境が狭められている。

水田周辺に生息域があるため、農薬の影響を受けやすい。

灌漑溜池の改修工事や、コイ、フナ、ブルーギル、ブラックバス等の雑食・肉食魚の放流により、幼虫が捕食され、個体数維持ができなくなる状況がみられる。

● 参考文献

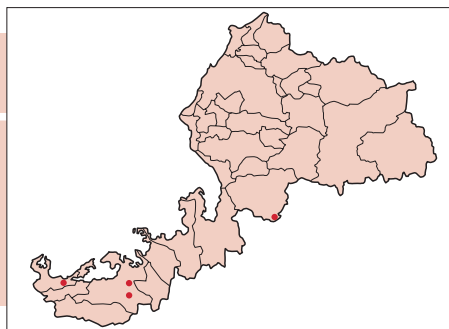
福井県．1999．福井県のすぐれた自然 動物編．452pp．福井県．

カトリヤンマ

トンボ目ヤンマ科
Gynacantha japonica Bartenef

福井県カテゴリー 県域絶滅危惧 類

環境省カテゴリー —



● 種の特性

平地から丘陵地の木陰の多い池，水田，畦間の緩やかな流れに生息する．日中は暗い林で休息し，早朝と夕方に活発に摂食活動を行う．成熟雄は，日中に林内で休息中の雌を探し出し，交尾する．雌は接泥静止産卵を行う．

成虫は，腹部が著しくくびれた黄緑色の細い中型のヤンマで，6～11月にかけて見られる．

早朝と夕方に飛翔するため，通常のトンボ調査ではあまり記録されない．

● 生息状況

北海道南部から沖縄まで，広く分布しているが，最近では減少している．

県内における最近の記録は，1992年に高浜町で数頭の記録しかなく，たいへんまれなトンボである．

● 存続を脅かす要因

本種が，最近減少傾向にあるのは，湿田の乾田化が原因の一つであるといわれている．

● 参考文献

浜田康・井上清．1985．日本産トンボ大図鑑．371pp．講談社．東京．

石田昇三・石田勝義・小島圭三・杉村光俊．1988．日本産トンボ幼虫・成虫検索図説．140pp．東海大学出版会．

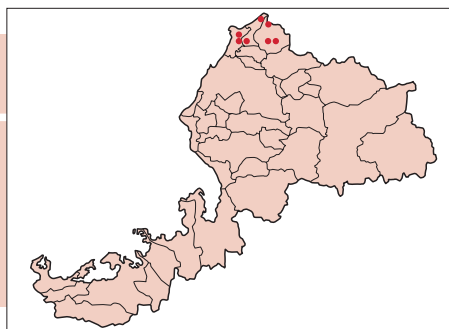
福井県自然環境保全調査研究会昆虫部会編．1998．福井県昆虫目録(第2版)．556pp．福井県．

トラフトンボ

トンボ目エゾトンボ科
Epiheca marginata Selys

福井県カテゴリー 県域絶滅危惧 類

環境省カテゴリー —



● 種の特性

平地や丘陵地の，挺水植物や，ヒシ，コウホネ，ヒルムシロ，ジュンサイ等の浮葉植物が繁茂する，池沼に生息している．

幼虫は，水底の沈積物の陰や泥の中に，浅く潜って生活している．

● 生息状況

日本，中国，朝鮮半島に分布している．国内では，本州，四国，九州に分布している．淡路島，壱岐などの離島にも見られる．

本県では，北潟湖周辺や三国町の灌漑用溜池で記録されているが，個体数の少ないまれな種である．成虫は，4月下旬から5月中旬にかけて見られる．

● 存続を脅かす要因

幼虫は，比較的大きな池沼を生息域としている．灌漑溜池の改修工事等により，これらの水域から泥土の浚渫をしたり，水生植物の除去等を行うことは，生活環境を狭めることになる．

ブルーギル，ブラックバス，ライギョ，コイ，フナ等の肉食・雑食魚により幼虫の捕食の影響が，近年大きくなってきた．芦原町の福良池では，個体数が激減し，最近ではほとんど見る事ができなくなった．

● 参考文献

福井県．1999．福井県のすぐれた自然 動物編．452pp．福井県．

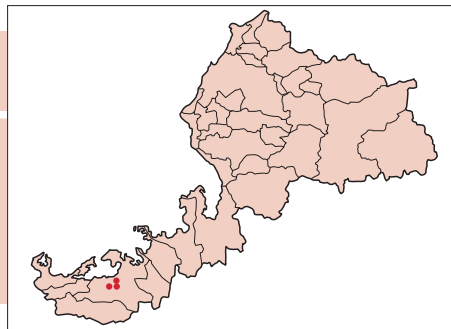
石田昇三・石田勝義・小島圭三・杉村光俊．1988．日本産トンボ幼虫・成虫検索図説．140pp．東海大学出版会．

キイロヤマトンボ

トンボ目エゾトンボ科
Macromia daimoji Okumura

福井県カテゴリー 県域絶滅危惧 類

環境省カテゴリー 絶滅危惧 類



● 種の特性

平地や丘陵地の砂底の河川中流～下流に生息する大型種で、同属のコヤマトンボに類似するが、腹部第3節側面の黄色斑が黒条により途切れることなどで区別できる。

● 生息状況

国内では福島県以南の本州、四国、九州に分布し、東海、近畿、中国地方では比較的多くの産地が知られているが、それ以外では著しく局地的となる。日本海側では福井県嶺南地方が分布東限となっている。

県内では小浜市の南川中流～下流の限られた範囲で記録されているに過ぎない。幼虫は緩流部に堆積した砂底に浅く潜っているのが観察される。成虫の縄張り飛翔、産卵なども幼虫の生息地周辺に限って観察されている。成虫は6～7月の短期間に見られ、個体数は多くないものと思われる。

● 存続を脅かす要因

礫底を基調とした南川では、本種の生息に適した砂底の緩流部の範囲はかなり限られており、生息環境を消失する工法による河川改修や水質汚濁が本種の生息状況に大きな影響を与える。また、成虫の生殖行動は流畔に樹林のある水域で行われることが多いため、周辺林の伐採も脅威となる。

● 参考文献

杉村光俊・石田昇三・小島圭三・石田勝義・青木典司．1999．原色日本トンボ幼虫・成虫大図鑑．xxxv + 917pp．北海道大学図書刊行会，札幌．

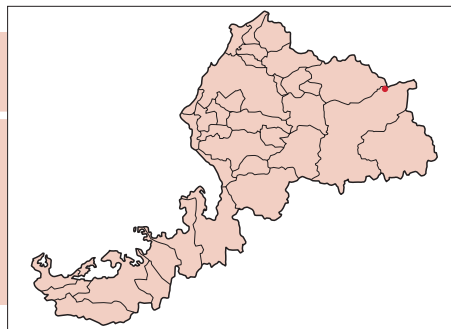
和田茂樹．2001．福井県からキイロヤマトンボを初記録．Tombo．(43): 37-38．

カオジロトンボ

トンボ目トンボ科
Leucorrhinia dubia orientalis Selys

福井県カテゴリー 県域絶滅危惧 類

環境省カテゴリー —



● 種の特性

高層湿原などの寒冷地の湿地に生息する。成熟した雄は、湿地の開けた水面近くに静止し、なわばりを構える。雌が近づくと連結し交尾する。雌は単独打水産卵をする。

成虫は6～9月に記録があるが、7月に多い。体はアカトンボを黒っぽくした小型のトンボで、顔面は鮮やかな乳白色である。

● 生息状況

北海道と本州中部以北に分布し、産地は限られる。特に本州では、山岳地帯に点在的に生息するに過ぎない。県内では、大野市赤兎山の赤池の7月の記録があるだけで、個体数もたいへん少ない。

● 存続を脅かす要因

県内唯一の生息地である赤池の保全が必要不可欠である。最近の登山ブームで、赤兎山への登山客が増加しており、赤池の環境悪化が懸念される。

● 参考文献

浜田康・井上清．1985．日本産トンボ大図鑑．371pp．講談社．

福井県自然環境保全調査研究会昆虫部会編．1998．福井県昆虫目録（第2版）．556pp．福井県．

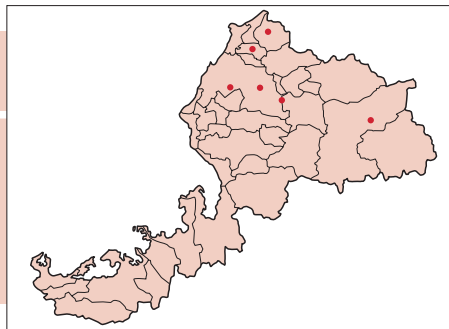
石田昇三・石田勝義・小島圭三・杉村光俊．1988．日本産トンボ幼虫・成虫検索図説．140pp．東海大学出版会．

タガメ

カメムシ目コオイムシ科
Lethocerus deyrollei (Vuillefroy)

福井県カテゴリー 県域絶滅危惧 類

環境省カテゴリー 絶滅危惧 類



● 種の特性

体長48～65mmの日本最大の水生カメムシ類で、小魚、オタマジャクシ、カエルなどの水生生物を捕食する。6月頃に雌雄はペアになり、水面から突き出た杭や抽水植物の茎などに60～100個程度の卵を産み付ける。産み付けられた卵塊は雄により保護される。

● 生息状況

北海道を除く日本全国と中国、朝鮮半島に分布し、池沼、穏やかな流れの小川、水田などに生息する。止水域生態系の頂点に立つ本種は、生物濃縮や水田環境の変化により急速に分布を狭めつつあり、山間部のため池や農薬の影響のきわめて少ない水田周辺に局所的に見られるだけとなってしまった。

福井県での記録は緑のデータバンク調査（1978）では5カ所。現在最も新しい確かな記録は1982年の大野市勝原（1雌）の記録である。しかし、福井市合谷町、大野盆地一帯、南川流域において未確認ではあるが目撃情報があり、今後の調査での確認が期待される。

● 存続を脅かす要因

止水域生態系の頂点に立つ本種は、そのえさとなる豊かな水生昆虫相を有する環境が不可欠であり、農薬等の影響も甚大である。このまま水辺環境の悪化が進めば、本種が絶滅する可能性は高い。

● 参考文献

福井県．1999．福井県のすぐれた自然 動物編．452pp．福井県．

福井県自然環境保全調査研究会昆虫部会．1998．福井県昆虫目録（第2版）．556pp．福井県．

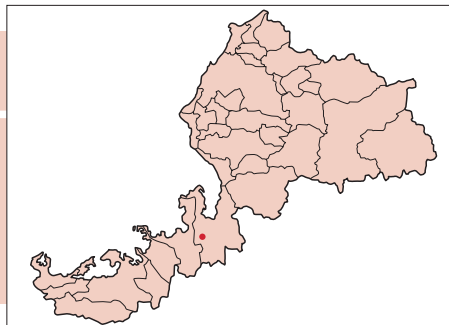
都築裕一．2000．水生昆虫 完全飼育・繁殖マニュアル．255pp．データハウス．

カワムラナベブタムシ

カメムシ目ナベブタムシ科
Aphelocheirus kawamurai Matsumura

福井県カテゴリー 県域絶滅危惧 類

環境省カテゴリー 絶滅危惧 類



● 種の特性

体長8mmの小型の黒いナベブタムシで、頭部、脚は鮮黄色の美麗種。頭部は他の種よりも長く、前方に突出し、前縁と側縁は濃褐色。

● 生息状況

琵琶湖と琵琶湖疎水からのみ知られている珍しいナベブタムシである。

福井県では1938年の「福井県昆虫図譜」に敦賀市栗野からの記録があるだけで、その後の記録はない。

● 存続を脅かす要因

用水路等のコンクリート三面張り化によりナベブタムシ類の個体数、分布域は年々減少しているものと思われる。また、農薬等の影響も懸念される。

● 参考文献

福井県自然環境保全調査研究会昆虫部会．1998．福井県昆虫目録（第2版）．556pp．福井県．

宮本正一．1965．半翅目．原色昆虫大図鑑：75-112．北隆館．東京．

日浦勇．1993．半翅目．原色日本昆虫図鑑（下）：95-174．保育社．大阪．

都築裕一．2000．水生昆虫 完全飼育・繁殖マニュアル．255pp．データハウス．

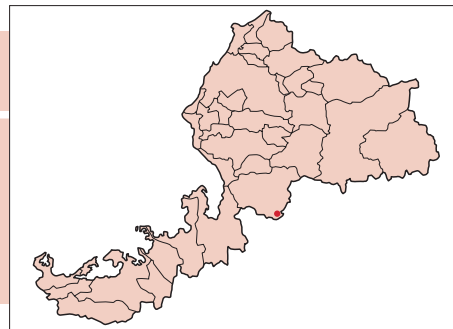
ヤシャゲンゴロウ

コウチュウ目ゲンゴロウ科

Acilius kishii Nakane

福井県カテゴリー 絶滅危惧Ⅰ類

環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅰ類



● 種の特性

体長約15mm前後．ややきゃしゃなイメージの中型ゲンゴロウ．頭部と前胸は黄褐色で，それぞれ黒帯がある．東日本に分布するメススジゲンゴロウに極似し，雄はほとんど区別出来ない．雌は鞘翅に毛の生えた溝を欠く．1963年にメススジゲンゴロウの亜種として記載され，後に独立種に昇格した．

生態については詳しい報告が出ている．成虫は降雪直前まで活動しており，初夏には岸辺の浅瀬で休む個体が多い．夜叉ヶ池には魚はおらず，恐らく本種は食物連鎖の頂点に立っていると思われる．

● 生息状況

ごく近縁のメススジゲンゴロウは北海道から富山・石川の県境までの高地に分布しているが，白山山塊や大野市刈込池では確認されていない．本種はこの種の世界の分布圏末端に位置し，種分化から見ても興味深い．

今庄町夜叉ヶ池の固有種で，近くの湿地や池にも生息していない．

● 存続を脅かす要因

この世界唯一の集団を育む夜叉ヶ池は僅か面積36aという，山頂近くの極めて閉鎖された状態であり，僅かな変化で食物連鎖は崩れる恐れがある．本種は，「絶滅の恐れのある種の保存法」によって捕獲や損傷が禁止されているが，マニア等による密猟の恐れがある．

● 参考文献

福井県．1999．福井県のすぐれた自然 動物編．452pp．福井県．

奥野宏・窪田寛・中島麻紀・佐々治寛之．1996．ヤシャゲンゴロウの生活史．福井昆虫研究会特別出版物．(1)．53pp．

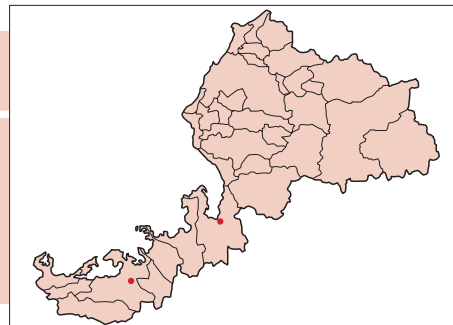
コガタノゲンゴロウ

コウチュウ目ゲンゴロウ科

Cybister tripunctatus orientalis Gschwendtner

福井県カテゴリー 県域絶滅危惧 類

環境省カテゴリー 絶滅危惧 類



● 種の特性

体長約30mmの中型のゲンゴロウで，体の表面は光沢のある黒褐色，側縁に黄色帯を有する．溜め池のような止水域や流れの緩やかな水路に生息し，溜め池では時に多数の個体が発生する．また，灯火に飛来することがある．

● 生息状況

広域分布種でアジア，オーストラリア，アフリカの熱帯～温帯に7亜種が分布する．国内では本州，四国，九州，小笠原諸島，南西諸島に分布し，八重山諸島など南西諸島では比較的普通に見られる．四国や九州では現在でも局所的ではあるが安定した生息地がある．県内では過去に小浜市遠敷からの記録があるほか，1993年に敦賀市榎曲の中池見で1雌が採集されている．中池見ではその後も昆虫類の調査が継続されているが再確認されておらず，中池見の記録は偶産の可能性が高い．

● 存続を脅かす要因

県内からの記録がきわめて少ないのは調査不足のほか本県が分布端に位置することが第一の要因と考えられる．

● 参考文献

森正人・北山昭．1993．図説日本のゲンゴロウ．文一総合出版．

福井県．1999．福井県のすぐれた自然 動物編．452pp．福井県．

シャ - プゲンゴロウモドキ

コウチュウ目ゲンゴロウ科
Dytiscus sharpi validus Regimbart

福井県カテゴリー 県域絶滅危惧 類

環境省カテゴリー 絶滅危惧 類

● 種の特性

体長28～33mm，胸部背面と鞘翅の地色は緑色をおびた茶褐色で，外縁は黄色帯で縁どられる．本州に2亜種が分布し，福井県のは新潟県 - 愛知県以西に分布する♀の鞘翅に深い条刻のある亜種ssp.validusに含まれる．成虫はほぼ年中見られ，新成虫は8月下旬から9月に羽化する．羽化した成虫が生息地を離れ，かなりの距離を移動することが知られている．

● 生息状況

千葉県，東京都，神奈川県，新潟県，富山県，石川県，福井県，愛知県，滋賀県，大阪府，島根県からの記録がある．県内では原色福井県昆虫図譜の記録以外は小浜市遠敷からの不確実な記録があるだけであったが，1993年に新たな生息地が確認された．見つかった生息地は周囲を林に囲まれた湧き水のある3カ所の浅い池で，多数の成虫を観察している．しかし，その後，宅地造成等により埋め立てられるなど生息環境が著しく改変されたため，1998年～1999年に行った数回の調査では1頭も確認できていない．

● 存続を脅かす要因

生息地の池やその周囲の改変が，存続を脅かす最大の要因である．マツクイムシ防除の薬剤散布も生息環境を悪化させる要因と考えられる．

● 参考文献

森正人・北山昭．1993．図説日本のゲンゴロウ．217pp．文一総合出版．

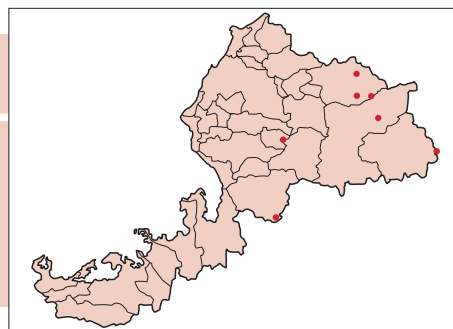
下野谷豊一（1993）福井県産ゲンゴロウ類の分布記録．福井市自然史博物館研究報告．(40): 83-89．

シナノキチビタマムシ

コウチュウ目タマムシ科
Trachys auriflua Solsky

福井県カテゴリー 絶滅危惧 類

環境省カテゴリー —



● 種の特性

体長5mm前後の，大型美麗種．頭部と前胸部は金色，鞘翅は赤銅色で，後方に不明瞭ながら白毛による強く湾曲した横帯を2本持つ．多雪地帯のブナ林に特有で，食草はオオバボダイジュとシナノキである．

● 生息状況

北陸を中心とした東日本の日本海側に分布する．海外でも朝鮮北部，中国北東部，シベリア東部に分布し，環日本海型分布と見られる．

本県では勝山市，大野市，和泉村，今立町，今庄町で記録されている．採集できる木は決まっており，その木では毎年採集される．本県は本種の分布西限である．

● 存続を脅かす要因

食草のオオバボダイジュとシナノキはブナ林に点在するが，優勢な種ではない．食草を含むブナ林が失われると生息できなくなる．

● 参考文献

福井県．1999．福井県のすぐれた自然 動物編．452pp．福井県．

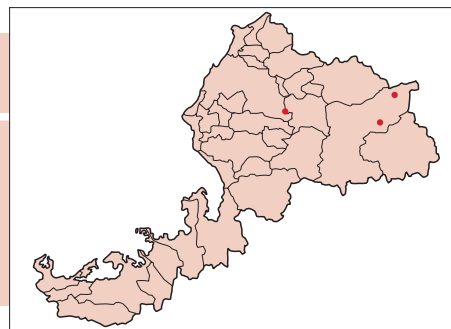
ミヤマツヤセイボウ

ハチ目セイボウ科

Philoctetes monticola (Tsuneki)

福井県カテゴリー 県域絶滅危惧 類

環境省カテゴリー —



● 種の特性

1975年に山形県産の標本により記載されたハチである。

体長7～10mm、ツヤセイボウ類の中では大型で、体全体が緑色を帯びた金属光沢を持つ美しい寄生蜂である。アリマキバチ類やイスカバチ類を宿主としている。

● 生息状況

青森、山形、宮城、福井県にしか記録されていない希少種である。

県内の分布は大野市赤兎山、谷山、福井市一乗谷だけである。北方系のハチで、現在福井市一乗谷が分布の南限である。

初夏の6～7月ごろ発生し、アリマキの甘露や落葉広葉樹の梢や若葉に飛来する。

● 存続を脅かす要因

宿主であるアリマキバチ、イスカバチ類の営巣する落葉樹が、スギの植林などで減少し、生息地は狭められ、本種の生息も困難になりつつある。また、薪や丸太などの置き場の減少も存続を脅かす要因の一つと考えられる。

● 参考文献

羽田義任．1987．福井県蜂類分布資料．福井虫報，(1)：18-19．福井昆虫研究会．

室田忠男．1977．福井県の蜂類分布資料．蜂友通信，(5)：5-7．日本蜂類研究会．

Tsuneki, K. 1975. New cuckoo wasps found in Japan. Kontyû, 43 (1)：29-35.

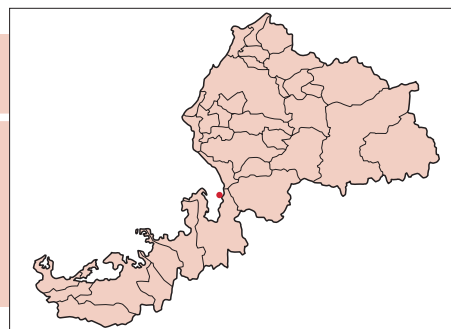
コツノアリ

ハチ目アリ科

Oligomyrmex sauteri Forel

福井県カテゴリー 県域絶滅危惧 類

環境省カテゴリー —



● 種の特性

本種の働蟻の体長は1mmと小さく、体色は赤褐色で土の色によく似ている。動きが鈍いこともあって肉眼での発見はかなり困難で、往々にしてその生息を見落とす場合がある。兵蟻は2mm、頭部の色は暗褐色、頭部の長さは幅の1.3倍、頭頂部に明瞭な1対の突起があり、後縁部中央は窪んでいる。

● 生息状況

本州、四国、九州、南西諸島に分布する。本州における分布の北限は、日本海側は富山県、太平洋側は関東地方である。

本県における生息地域は、前回の調査地域より広い範囲で確認されたものの、敦賀市岡崎周辺に限られている。平素は照葉樹林の林床の石の下や朽ち木の中、土中に営巣をしている。

● 存続を脅かす要因

小道の路肩などを生息場所としているため、頻繁な自動車往来による排気ガスの放出や、車寄せに因る営巣地の破壊等が存続を脅かす。

● 参考文献

日本蟻類研究会．1992．日本産アリ類の検索と解説（ ）．93pp．日本蟻類研究会．

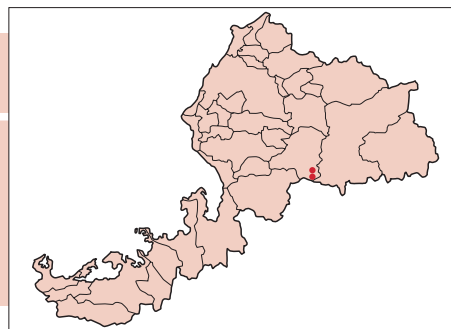
ツノアカヤマアリ

ハチ目アリ科

Formica fukaii Wheeler

福井県カテゴリー 県域絶滅危惧 類

環境省カテゴリー —



● 種の特性

働蟻は体長4.5～6.5mm。体色は、頭部、胸部、腹柄部は赤褐色が基調で、頭部、胸部背面はやや暗褐色である。頭部後縁は窪んでいることが、近縁種との大きな違いである。

● 生息状況

北海道から本州まで分布する。赤色型のヤマアリの中では最も西方まで生息域を広げている種で、広島県、鳥取県でも記録されている。本県の生息地域は、今立町冠山の頂上近く、海拔700mのミズナラ林で、樹間が広く林床まで陽が入り、地面がよく乾燥した状態の場所である。この一帯で5箇所に巣を認めた。近年の調査により、この生息域から1500m離れた地域に3箇所の巣を確認した。本種の生息地域は、上記の地域以外にも広範囲に存在すると考えられるが、生息するための環境条件がかなり限られるようである。

● 存続を脅かす要因

生息域は、よく整備された登山道に沿って広がっていた。林道等の大規模な補修、舗装や車の乗り入れが、本種の生存を脅かしている。一方登山道の整備が放棄され、藪化して湿気を帯び、本種の生息に適さない環境となり、生息範囲が少なくなっている。

● 参考文献

日本蟻類研究会．1991．日本産アリ類の検索と解説（ ）．56pp．日本蟻類研究会．

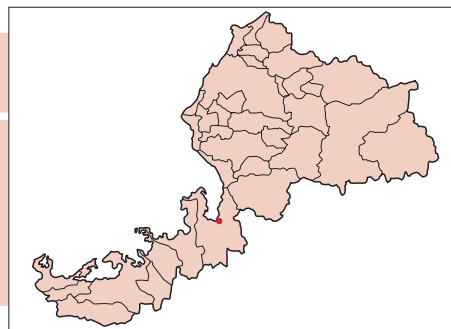
アケボノベッコウ

ハチ目ベッコウバチ科

Anoplius eous Yasumatsu

福井県カテゴリー 県域絶滅危惧 類

環境省カテゴリー —



● 種の特性

体長約2cmで、クロベッコウ属の中では大型のほうである。全身真っ黒で翅の曇りも強い。脚（特に前脚で顕著）の肘節の下面が偏平で両側に短い毛が生えている。水辺に住み、獲物のハシリグモを水面を滑走しながら運ぶことが知られている。肘節下面の偏平は水面で浮力を得るための適応であろう。

● 生息状況

九州（福岡、鹿児島県）、本州の中部以西（埼玉、福井、大阪、兵庫、広島県）に分布するが、各地とも個体数の少ない珍しい種である。本県では、敦賀市中池見で記録され、クモをくわえて水面を滑走することが、2回にわたって観察されている。種名は確認できなかったが、大野市笹生川ダムでも、水上を滑走してクモを運ぶベッコウバチが観察されており、他の池沼の水辺にも本種が生息することが予測される。

● 存続を脅かす要因

本種は水辺の朽ち木や土の中に巣を作るので、池沼環境が改変されると生息できなくなる。現存する湿地、池沼の生息環境改変は本種の存続を脅かすこととなる。

● 参考文献

羽田義任．1992．水面を滑走して獲物を運ぶベッコウバチ．福井虫報，(11)：50．福井昆虫研究会．

岩田久二雄．1978．蜜民生活者アケボノベッコウ．昆虫を見つめて五十年（ ），27-37．朝日新聞社．

長田勝．1994．水面を滑走してクモを運ぶハチ．福井虫報，(14)：16．福井昆虫研究会．

Yasumatsu, K. 1936. Über einige neue oder seltene Mordwespen aus Japan. Mushi. (9) : 23-29. 福岡むしの会．

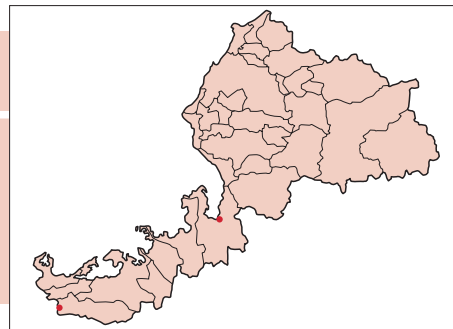
アジアキタドロバチ

ハチ目ドロバチ科

Allodynerus mandshuricus Blüthgen

福井県カテゴリー 県域絶滅危惧 類

環境省カテゴリー —



● 種の特性

キタドロバチ属は日本からアジアキタドロバチとアトボシキタドロバチの2種が知られる小型のドロバチである。体長9.0～10.5mm、全身黒色で顔面に小さな黄斑を持ち、腹部第1節と第2節の後縁にそれぞれ1本の黄色の細い横帯斑紋がある。

● 生息状況

本種は、1953年に現在の中国東北部産の標本により記載され、朝鮮にも分布する。

日本では、埼玉、福井、滋賀、兵庫、島根県から記録されている。

県内では、名田庄村の頭巾山及び敦賀市より記録されている。

本種の生態については、細い竹筒に巣を作ることしか分かっていないが、母蜂は幼虫の餌として小型のガ類の幼虫を狩り集めるとされる。

● 存続を脅かす要因

樹木の伐採が進み森林環境が急激に変化すると餌となる小型のガ類の個体数は減り、ドロバチ類も生息できなくなるおそれがある。

● 参考文献

田埜正．1991．福井県昆虫目録（膜翅目）の訂正と追加．福井虫報，（8）：46．福井昆虫研究会．

Yamane, Sk. & Tano, T. 1987. Studies on Japanese Eumenidae. Trans. Shikoku Ent. Soc., 18 (3-4) : 327-345 .

Yamane, Sk. 1990. A revision of Japanese Eumenidae. Insecta Matsumurana, n.s. 43 : 1-189 .

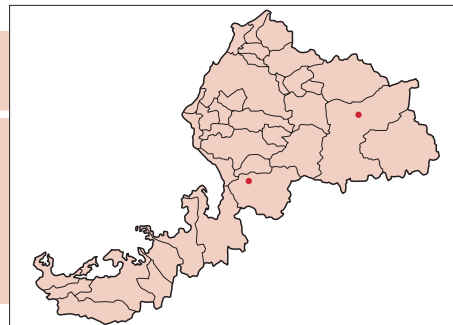
ハグロフタオビドロバチ

ハチ目ドロバチ科

Anterhynchium melanopterum Sk. Yamane

福井県カテゴリー 県域絶滅危惧 類

環境省カテゴリー —



● 種の特性

フタオビドロバチ属には、日本からオオフタオビドロバチとハグロフタオビドロバチの2種が知られている。

本種は、体長16mm前後、翅は大変黒ずんでおり、頭盾上の黄紋と前胸背板上の2小黄紋のほかは、頭胸部はほとんど黒色である。胸部後半部は広く窪み、腹部に2本の橙黄色をした帯状紋を有する。

● 生息状況

1981年に鹿児島産の標本により記載され、その後栃木、茨城、東京、新潟、福井、広島、山口、香川、高知、愛媛、福岡、宮崎県と対馬から記録されている。

本県では大野市、今庄町から記録されている。

福井県で本種が採集されたのは、大野市真名川の河原と今庄町日野川の川沿いで、竹筒やコウチュウ類が作った朽ち木の坑道内に、ガ類の幼虫を蓄えて巣を作っていると思われる。

● 存続を脅かす要因

河川域の改修や里山近辺の土地造成などにより存続が脅かされる。

● 参考文献

田埜正．1983．蜂の新分布資料．蜂友通信，（16）：24．日本蜂類研究会．

Yamane, Sk. 1990. A revision of Japanese Eumenidae. Insecta Matsumurana, n.s. 43 : 1-189 .

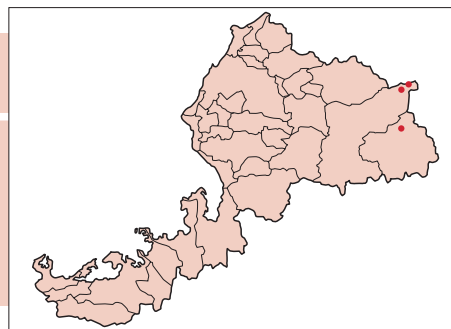
ヤドリホオナガスズメバチ

ハチ目スズメバチ科

Dolichovespula adulterina montivaga Sk. Yamane

福井県カテゴリー 県域絶滅危惧 類

環境省カテゴリー —



● 種の特性

ホオナガスズメバチ属のものは、複眼後端と大顎基部との間の距離が長い（ホオナガ）ことで、他のスズメバチ類と区別される。

本種は体長が雄は13～17mm、雌は16～18mmで、象牙色～白色の斑紋を持つ。雌の頭盾上の黒斑が頭盾上縁に達しないこと、雄の後胸背板の白紋は退化して2小点であることなどから、近似種と識別できる。

● 生息状況

北海道と本州の山岳地帯に分布する。

ニッポンホオナガスズメバチに社会寄生する。越冬した女王は春になっても巣を作らず、働き蜂が羽化した宿主の巣に侵入し、その巣の女王を殺して巣を乗っ取る。宿主の働き蜂に自分の子を養育させるので、本種の働き蜂はいない。

福井県では、大野市や和泉村の山中での採集記録がある。本県ではシロオビホオナガスズメバチに社会寄生すると推測される。

● 存続を脅かす要因

この種は池田町と奥越地方の高山帯に生息する数少ない種で、環境の微小な変化にも影響されやすい。林道の開発や森林の伐採などが脅威となる。

● 参考文献

田埜正．1985．日本産スズメバチ亜科について．福井県高等学校理科研究会会誌，(28)：31-38．福井県高等学校理科研究会．

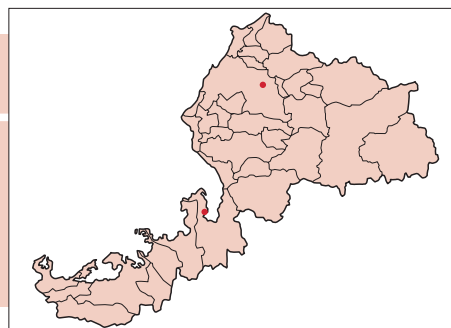
カラトイスカバチ

ハチ目アリマキバチ科

Passaloecus koreanus Tsuneki

福井県カテゴリー 県域絶滅危惧 類

環境省カテゴリー —



● 種の特性

本種は1976年にメリスオ博士が *Passaloecus iwatai* の学名で記載したが、1982年に常木勝次博士により *Passaloecus koreanus* のシノニムとされた。

体長5～6mmの小型の狩り蜂で、近似種のワモンイスカバチとは、後頭部の形態や雄の触角の黒色斑紋の違いで区別される。

朽ち木の虫孔や細い竹筒に巣を作り、1つの育室に30～40匹のアリマキを狩り入れて、針葉樹の樹脂で部屋を仕切る。

● 生息状況

本州（埼玉，東京，静岡，石川，福井，兵庫県）と朝鮮半島に分布する。

本県では福井市町屋町，開発町，敦賀市常宮から記録され、いずれも木造家屋の柱や根太の虫孔に営巣していた。古い木造の神社，寺院に生息することが推測される。

● 存続を脅かす要因

木造家屋の減少が第一の要因である。最近古くなった神社仏閣がコンクリート製に建て替えられ、住家性蜂類が生息地を失いつつある。

● 参考文献

羽田義任．1993．ミシマイスカバチ福井・石川県に分布する．福井虫報，(13)：60．福井昆虫研究会．

岩田久二雄．1979．パッサレクスの樹脂利用．昆虫を見つめて五十年（ ），84-123．朝日新聞社．

Merisuo, A.K. 1976. *Passaloecus iwatai* sp. n. (Hym., Sphecoidea). Ann. Ent. Fenn., 42 (1) : 21-26.

Tsuneki, K. 1982. List of the species of the Sphecidae known from the Korean peninsula. SPJHA, (20) : 14-19. 日本蜂類研究会.

Tsuneki, K. 1990. A new species of *Passaloecus* from Japan, with its biology (Hym., Pemphredoninae). SPJHA, (36) : 102-105. 日本蜂類研究会.

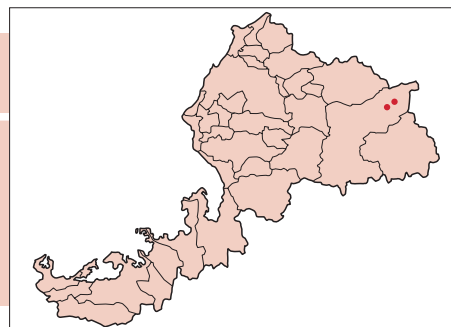
シモヤマギングチ

ハチ目ギングチバチ科

Ceratocrabro shimoyamai (Tsuneki)

福井県カテゴリー 県域絶滅危惧 類

環境省カテゴリー —



● 種の特性

1958年に青森県産の雌の標本に基づき *Ectemnius* (*Nesocrabro*) の属名で記載されたが、1970年に新設した *Ceratocrabro* 亜属に移された。1983年に雄の標本が採集されて、ようやく属所属の問題が解決し、常木博士は *Ceratocrabro* を亜属から属に昇格された世界でも注目のハチである。

雌の体長は約10mm、頭部が非常に発達した全身黒色のハチである。雄は複眼の内縁が強く下方に狭まり、これが属の特徴の一つになっている。

● 生息状況

青森県から2頭の雌と、福井県から雌雄各1頭の標本しか採集されていない全くの希少種である。

本県では大野市中洞と鳩ヶ湯で、8月下旬と9月下旬に、アブラムシのついたクルミ林の林床に生えた小雑木の葉上に飛来したものが採集された。付近の枯れ木に営巣している可能性が強い。本種が中洞、鳩ヶ湯で採集されてから10数年が経過しているが、その後目撃すらされていない。

● 存続を脅かす要因

打波川流域はスギの植林が進み、蜂類の生息環境が悪化したとはいえ、まだ、ブナ、ミズナラ、クルミをはじめとする落葉広葉樹林が残っており、このような樹林帯の改変は本種の存続を脅かす。

● 参考文献

室田忠男. 1983. 福井県の蜂類分布資料. 蜂友通信, (16):1-10. 日本蜂類研究会.

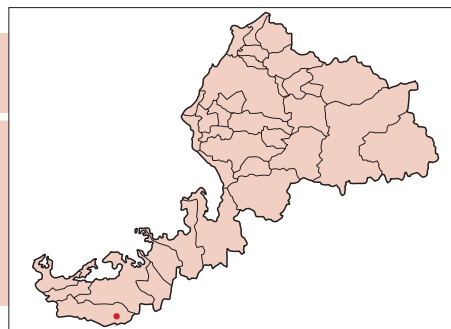
Tsuneki, K. 1958. On the discovery of *Nesocrabro* in Japan, with the description of a new species. Kontyû, 26(4):197-199.

Tsuneki, K. 1983. Discovery of the male of *Ceratocrabro shimoyamai* (Tsuneki). SPJHA, (27):29-32. 日本蜂類研究会.

ムロタギングチ

ハチ目ギングチバチ科
Crossocerus murotai Tsuneki

福井県カテゴリー 県域絶滅危惧 類
環境省カテゴリー —



● 種の特性

1992年に新種記載された体長約6mmのヒメギングチバチである。蜂の調査では全国トップクラスの本県でもたった2個体の雌しか採集されていないという希種である。本種は、南川支流に位置する虫谷の林道周辺に生息している。スギの植林が進んでいるにもかかわらず、落葉広葉樹が現存している。つまり、スギの植林には不適当な場所であることが幸いしている。

● 生息状況

県外ではまだ発見されていない。

県内の生息地は名田庄村虫谷だけで、8月中旬～下旬にかけて記録されている。2001年は5月～9月下旬までに15回採集調査を実施したが採集することができなかった。

奥越地方に比べ、昆虫相が貧弱と思われる嶺南地方から本種が発見されたことは特筆すべきことである。営巣習性も全く未知でどのような環境が本種に適しているか不明である。

● 存続を脅かす要因

ヒメギングチバチ類の多くは広葉樹の枯木などに営巣するので、そのような生息環境の改変が存続を脅かすこととなると考えられる。

● 参考文献

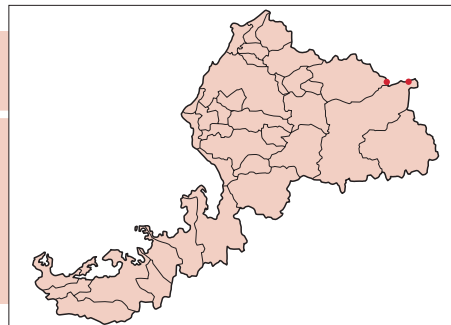
室田忠男．1994．福井県蜂類分布資料．福井虫報, (15): 49-50．福井昆虫研究会．

Tsuneki, K. 1992. Two new species of *Crossocerus* found in Japan. SPJHA, (38): 50-53. 日本蜂類研究会．

タイセツギングチ

ハチ目ギングチバチ科
Crossocerus pusillus Lepeletier et Brulle

福井県カテゴリー 県域絶滅危惧 類
環境省カテゴリー —



● 種の特性

本種は欧州北部、朝鮮半島、千島及び日本に分布する体長約6mmの全身黒色の北方系のハチである。

赤土の露出したU字型の登山道の斜面に営巣する。そこはブナ、ミズナラをはじめとする落葉広葉樹林の木漏れ日がさしこみ、乾き過ぎも湿り過ぎもしない、程良い場所である。

● 生息状況

北海道と、宮城、栃木、群馬、埼玉、新潟、長野、富山、石川、福井県など本州の中部地方以北の山地に生息する。福井県はわが国における分布の南限である。

県内では、大野市の標高1,450mの六本松と勝山市の標高1,350mから1,500mの小原峠において、8月から10月にかけて登山道に営巣している。

● 存続を脅かす要因

山地の中で小さなハチが営巣できる裸地はごく限られている。これまで登山道の拡張工事によって営巣地が消失した事例が確認されている。営巣地周辺のブナ、ミズナラ林の改変や、地表環境を大きく改変するような方法による歩道整備が存続を脅かす要因となる。

● 参考文献

羽田義任．1993．タイセツギングチ福井県に分布する．福井虫報, (12): 45．福井昆虫研究会．

室田忠男．1998．福井県蜂類分布資料．福井虫報, (23): 9-16．福井昆虫研究会．

野坂千津子．1996．福井県蜂類分布資料．福井虫報, (19): 39-40．福井昆虫研究会．

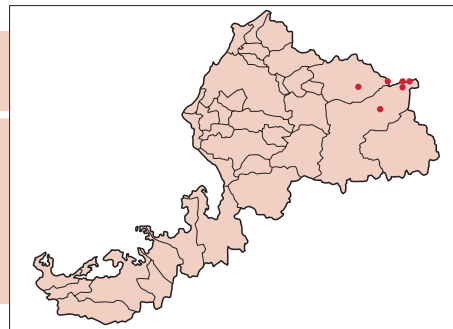
アギトギングチ

ハチ目ギングチバチ科

Ectemnius martjanowii (F. Morawitz)

福井県カテゴリー 県域絶滅危惧 類

環境省カテゴリー —



● 種の特性

体長 9 ~ 14mm, 雄は大型になるに従って, 独特の顕著な下頬突起をもつこと, 大顎が異常なまでに伸長することを特徴とする。しかし, 雌ではこのような変形は全く見られない。

習性は全く不明であるが, 本州では山岳地帯に生息している。

● 生息状況

シベリア, サハリン, 朝鮮, 千島および本州から発見されているが, 奇妙なことに北海道からはまだ発見されていない。北海道は調査が不十分とは考えにくく, 生物地理学的に興味のある話題を提供している。

本州では青森, 宮城, 福島, 栃木, 群馬, 埼玉, 新潟, 長野, 山梨, 静岡, 富山, 石川, 岐阜, 福井県の山岳地帯から記録されている。

本県では勝山市法恩寺山, 小原峠, 大野市小池, 嵐, 六本峠など標高1,000m以上の高地で, 7月から9月にかけて記録されている。本県は分布の南限である。

● 存続を脅かす要因

本種の習性は不明であり, 県内の分布調査もまだ不十分であるが, 豊かな生態系でなければ本種の生存は不可能と思われる。特に高地の落葉広葉樹林の改変は本種の存続を脅かす。

● 参考文献

羽田義任. 1997. 福井県蜂類分布資料. 福井虫報, (20):3-8. 福井昆虫研究会。

常木勝次. 1956. アギトギングチバチの種名, 分布及び雄の多形等について. 昆虫, 24(3):128-132。

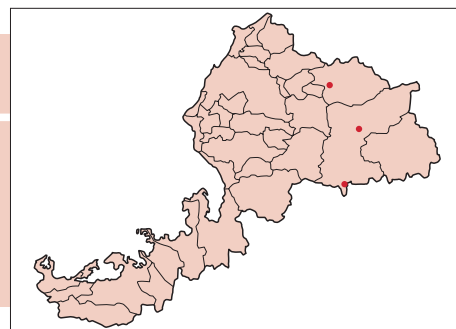
カワラアワフキバチ

ハチ目ドロバチモドキ科

Harpactus tumidus japonensis (Tsuneki)

福井県カテゴリー 県域絶滅危惧 類

環境省カテゴリー 情報不足



● 種の特性

1963年にヨ - ロッパでは普通種の *tumidus* の亜種 *japonensis* として記載された。小さいが美しいハチである。体長 6 mm前後, 第 1, 2 腹節が赤色で, 顔面や腹部に黄白色紋がある。

カメムシ目のアワフキを狩る。少し草のある河原の砂地に, 10cm以下の短い穴を掘り営巣する。

● 生息状況

大阪, 岡山, 福井, 石川, 新潟県の記録があるが個体数は極めて少ない。

県内の採集地は, 九頭竜川, 真名川の河川敷で, 勝山市発坂, 大野市佐開, 温見。発坂は1986年以後, 生息は確認されていない。温見は標高700mの上流で, 堰堤工事の後, 自然が戻り天然の砂地が僅かながら形成されている。生息地は河川敷の泥の少ないさらさらした粗めの砂地である。

● 存続を脅かす要因

生存を脅かす第一の要因は, 流水に洗われる清潔な砂が河原からなくなったことである。

今日多くの河川において, 上流の森林の状態が良好でなく, 護岸工事も進み, 本種の生息に適する上記のような河原の減少があげられる。

● 参考文献

羽田義任. 1987. ハナバチ・アナバチ類3種の分布について. 蜂友通信, (27): 1 - 2. 日本蜂類研究会。

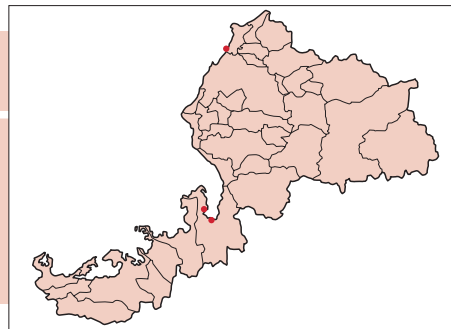
室田忠男. 1986. カワラアワフキバチ, 勝山市発坂に生息する。あられがこ, (24): 57. 福井生物研究会。

Tsuneki, K. 1963 The tribe Gorytini of Japan and Korea (Hymenoptera, Sphecidae). Etizenia, (1): 8 - 9. 福井大学学芸学部。

キアシハナダカバチモドキ

ハチ目ドロバチモドキ科
Stizus pulcherrimus (F. Smith)

福井県カテゴリー 県域絶滅危惧 類
環境省カテゴリー 情報不足



● 種の特性

体長約23mm内外．黒色の体に黄色の斑紋と赤褐色の脚を持つ美麗種である．松林の中の廃道となった車道で，日当たりの良い，良く固まった砂の裸地を選んで営巣する．大型のイナゴ，バッタ類を狩り，最初の獲物に産卵し，次々と狩った獲物をずらせ重ねて貯蔵する．繭は幼虫が内壁の糸の隙間に，砂粒を口からの粘液で付着して作る．

● 生息状況

中国から記載された種でモンゴル，朝鮮半島，日本に分布する．わが国では本州，四国，九州の海岸や，河川下流に生息する．福井県では敦賀市常宮，花城，三国町三里浜で記録されている．この中で三里浜は個体数も多く，詳しい生態が報告されたが，1977年以降は急速に生息数は減少している．2001年は，気象も原因してか，前年に比べて激減した．

● 存続を脅かす要因

以前はどの海岸も，海岸から少し入ったところに防風林があり，人の手で適度に管理され，ここが砂地性蜂類のよい生息地になっていた．近年はコンクリート製の防波壁が作られたり，防風林は徹底した管理で除草や除草剤散布が行われるなどして，砂地環境が悪化し本種の存続を脅かしている．

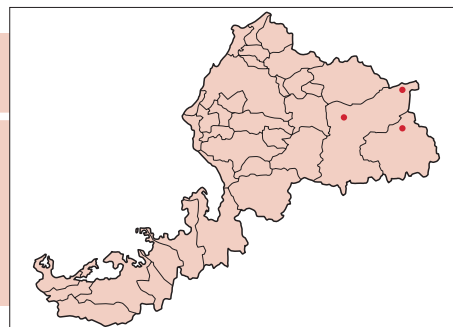
● 参考文献

羽田義任．1964．キアシハナダカバチモドキ敦賀に産す．生物研究，8(4)：57．福井生物研究会．
Tsuneki, K. 1965．The nesting biology of *Stizus pulcherrimus* F. Smith (Hymenoptera, Sphecidae) with special reference to the geographical variation. Etizenia, (10)：1-21．福井大学教育学部．
奥野宏・黒川秀吉．1976．キアシハナダカバチモドキの生態．蜂友通信，(4)：1-16．日本蜂類研究会．
奥野宏．1977．キアシハナダカバチモドキの生態．蜂友通信，(6)：7-14．日本蜂類研究会．

マエダテツチスガリ

ハチ目フシダカバチ科
Cerceris pedetes Kohl

福井県カテゴリー 県域絶滅危惧 類
環境省カテゴリー —



● 種の特性

1887年に朝鮮半島産の雌の標本に基づき Kohl が記載した．雄は1963年に大野市菖蒲池（真名川河岸）で採集されたのが最初である．

体長9～16mm，黒地に黄色紋の多い美麗種である．マエダテという名の通り，雌の頭盾付属片は60度ほどの角度で突起し，兜（かぶと）の前立に似ている．

本種の詳しい生態観察はなされていないが，他のツチスガリと同様，河川域の砂地に掘った土中の坑道に，2～3室分の獲物のゾウムシ類を狩り仮貯蔵し，その後育房を作り獲物を運び込むと考えられる．

● 生息状況

東シベリア，中国東北部，日本に分布し，わが国では青森，山形，埼玉，石川，福井の諸県から記録されている．本県では大野市小池，菖蒲池，和泉村朝日前坂で採集されている．20年あまり前の朝日前坂は，河原を地ならしただけのキャンプ場で，多くの砂地性昆虫に混じってマエダテツチスガリが生息していたが，大がかりな整地とともに，姿を消してしまった．その後どこからも生息が確認されていない．

● 存続を脅かす要因

ツチスガリ類は，海岸，河川の砂地，切り通しの小さい崖，山道の裸地，神社の縁下などに営巣する．それらの営巣可能な地表環境が，掘り返され，大規模舗装，護岸工事等で無くなることが大きい原因である．

●参考文献

- Tsuneki, K. 1961. Studis on *Cerceris* of North Eastern Asia (Hymenoptera, Sphecidae). Mem. Fac. Lib. Arts. Fukui Univ. (11): 1-72. 福井大学教育学部.
- 常木勝次. 1961. 蜂類研究手引き(14)(4) ツチスガリ(*Cerceris*)属. 生物研究, 5(3-4): 57-63. 福井生物研究会.
- Tsuneki, K. & Haneda, Y. 1964. On *Cerceris pedetes* Kohl of Japan, with a description of the male. AKITU, 11(4): 35-47. 京都昆虫同好会.

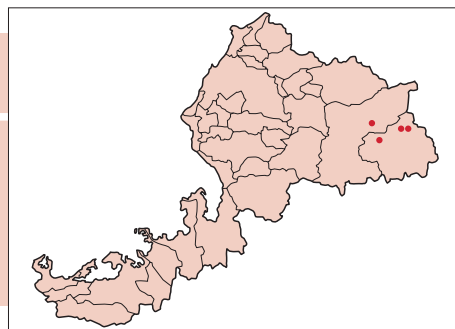
ミドリコハナバチ

ハチ目コハナバチ科

Halictus tumulorum higashi Sakagami et Ebmer

福井県カテゴリー 県域絶滅危惧 類

環境省カテゴリー —



●種の特性

旧北区に広く分布する *Halictus tumulorum* の亜種として, 1979年に北海道産の標本に基づいて記載された。体長約7mm, 体はやや黒みがかった銅色光沢をもつ。近似種のアカガネコハナバチとは, 後頭部の形状から容易に区別できる。

7月から10月にわたり河川域に姿を現し, 河原の砂地に穴を掘って巣を作り, 花粉を集めて幼虫を育てる。

●生息状況

沿海州, サハリン, 中国東北部, 北朝鮮, 日本に分布する。

日本では北海道には普通に見られるが, 南へ行くほど数が少なくなる。詳細な調査はないが, 本州中部では極めてまれな種となり, 福井県は分布の南限である。

本県では大野市勝原, 和泉村谷戸口, 前坂, 小谷堂など, 九頭竜川の中上流の河川敷に生息している。

●存続を脅かす要因

営巣地である河川敷の改変が第一の要因である。従来の生息地のうち, 谷戸口は他所から運び込まれた土砂で埋め立てられ, 前坂はキャンプ地になり本種の生息が認められなくなった。自然の砂地が残る河川敷の減少は本種の存続を脅かす。

●参考文献

- 羽田義任. 1989. 福井県蜂類分布資料. 福井虫報, (5):18-21. 福井昆虫研究会.
- Sakagami, S. & Ebmer, A. 1979. *Halictus (Seladonia) tumulorum higashi* ssp. nov. from the Northeastern Palaearctics. Kontyû, 47(4):543-549.

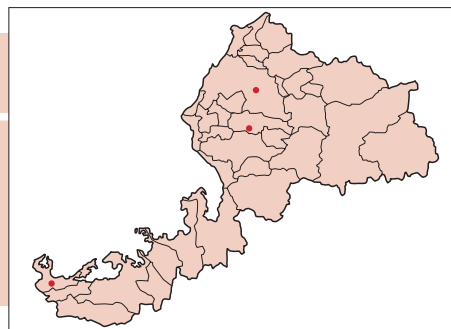
コガタホオナガヒメハナバチ

ハチ目ヒメハナバチ科

Andrena lonicerae Tadauchi et Hirashima

福井県カテゴリー 県域絶滅危惧 類

環境省カテゴリー —



● 種の特性

体長約 1 cm, 磨縁部が長くしたがって顔が大変細長く見えるハナバチである。近似種のホオナガヒメハナバチとは、やや小型であること、磨縁部がより長いことなどで識別できる。

早春発生し、地中に巣を作って、ウグイスカグラの花に訪れ花粉を集めるとされている。

● 生息状況

本州の太平洋側と山陰地方、四国、九州に分布する。従来、訪花するウグイスカグラの分布と一致するとされている。本県においては高浜町青郷、江市西山公園、福井市足羽山で採集されている。ウグイスカグラは高浜町から三方町まで分布するが、嶺北地方には生えていない。西山公園ではツクバネウツギに飛来したものを採ったし、足羽山では嶺南地方から移植したヤマヒョウタンボクの花で採集された。ウグイスカグラの分布とは必ずしも一致しないことが明らかになった。

● 存続を脅かす要因

本種の訪花植物の一つであるツクバネウツギは、海岸近くの丘陵地から低山帯まで、雑木林の林縁に見られる低木である。里山を開発したり、また反対に放置して藪化するとツクバネウツギは育たなくなり、本種の存続を脅かすこととなる。

● 参考文献

羽田義任. 1997. コガタホオナガヒメハナバチをツクバネウツギの花で採集. 福井虫報 (21) 39. 福井昆虫研究会.
高橋秀男. 1994. ウグイスカグラヒメハナバチを福井県で採集. 福井虫報 (15): 60. 福井昆虫研究会.

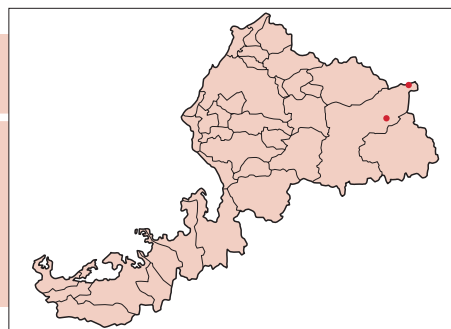
タイリクハキリバチ

ハチ目ハキリバチ科

Megachile ligniseca (Kirby)

福井県カテゴリー 県域絶滅危惧 類

環境省カテゴリー —



● 種の特性

1802年に欧州から記載され、1924年にはシベリア、1939年には中国東北部から知られている。日本では1953年ごろの記録が最初である。

雄は体長12～14mm、雌は体長15～17mmで、体の点刻は全体的に弱く、特に腹背節の点刻は浅くて疎である。生態については、欧州で朽ち木に営巣することが分かっている。日本でも恐らく同様であり、他のハキリバチのように木の葉を切り取って育室を作るものと考えられる。

● 生息状況

北海道、本州中部以北に分布する。北海道ではかなり多いが、本州ではまれな種となる。栃木、群馬、長野、山梨、石川、福井県など中部山岳地帯から記録されている。

本県では大野市谷山、六本桧しか採集記録のない希少種である。福井県は分布の南限である。

● 存続を脅かす要因

造巣場所が朽ち木であるから、高山地の森林環境が改変されると生存が危うくなる。

● 参考文献

羽田義任. 1996. 福井県蜂類分布資料. 福井虫報 (18): 67-68. 福井昆虫研究会.

Hirashima, Y. & Maeta, Y. 1974. Bees of the genus *Megachile* Hokkaido and Tohoku district of Japan. Kontyû, 42(2): 157-173.

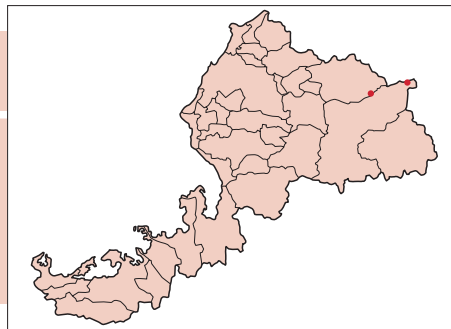
ナガマルハナバチ

ハチ目ミツバチ科

Bombus consobrinus wittenburgi Vogt

福井県カテゴリー 県域絶滅危惧 類

環境省カテゴリー —



● 種の特性

普通種のトラマルハナバチに似ているが、磨縁部はより長く、腹背節の毛は長く、明色毛が全節に生える（トラマルは先端の3節は黒色毛が優先する）ことから区別できる。

木の根や岩の隙間、ネズミの穴などに巣を作る。腹部から分泌する口ウで幼虫を育てる部屋や花粉を貯蔵する壺を作り、1匹の女王蜂と多数の働き蜂による社会性生活を営む。

● 生息状況

旧北区に分布し、アジア極東部、ウスリー、サハリン、朝鮮半島、日本から知られている。

高山性のハチで、日本では東南部から中部山岳地帯に生息する。

本県は分布の南限で、大野市経ヶ岳（頂上）、小池（六本桧）で採集されている。

● 存続を脅かす要因

生息場所は標高1,500m以上の限定された地域であり、コロニーも小さいので、僅かな環境の変化にも存続が左右される。高山地の樹木の伐採は脅威となり、また場所によっては登山道の整備が、生息環境の改変につながる可能性もある。

● 参考文献

羽田義任. 1992. ナガマルハナバチ福井県にも産する. 福井虫報, (10): 36. 福井昆虫研究会.

羽田義任. 1992. 福井県蜂類分布資料. 福井虫報, (11): 48. 福井昆虫研究会.

伊藤誠夫. 1991. 日本産マルハナバチの分類・生態・分布. マルハナバチの経済学, 258-291. 文一総合出版.

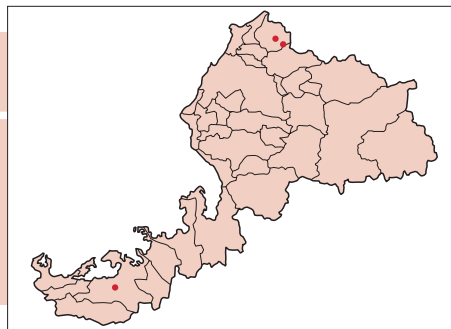
ホシチャバネセセリ

チョウ目セセリチョウ科

Aeromachus inachus Ménériès

福井県カテゴリー 県域絶滅危惧 類

環境省カテゴリー 絶滅危惧 類



● 種の特性

茶褐色の地色に白色小斑を有する小型のセセリチョウで、食草オオアブラススキの生えた草地に生息する。年2回、6月と8月に発生するが、季節による変異は殆ど認められない。

● 生息状況

国内では本州と対馬に、国外では中国中北部、アムール、朝鮮、台湾に分布する。県内での生息地は限定され、金津町鎌谷、清滝の2カ所と小浜市からの記録があるのみ。過去には金津町細呂木からの記録があるが再確認されていない。金津町では丘陵地と水田に挟まれた狭い草地に生息するが、生息範囲はきわめて狭く個体数も少ない。

● 存続を脅かす要因

生息範囲がきわめて狭く個体数も少ないので、生息地の僅かな改変でも消滅の危険性がある。さらに、成虫の行動範囲が限られるため、採集圧も脅威となる。

● 参考文献

福井県. 1999. 福井県のすぐれた自然 動物編. 452pp. 福井県.

福井県博物館. 1938. 原色福井県昆虫図譜. 福井県博物館.

下野谷豊一. 1995. 金津町にてホシチャバネセセリを採集. 福井市自然史博物館研究報告, (42): 96. 福井市自然史博物館.

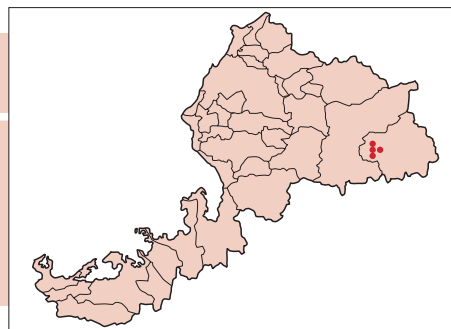
クロシジミ

チョウ目シジミチョウ科

Niphanda fusca Bremer

福井県カテゴリー 県域絶滅危惧 類

環境省カテゴリー 絶滅危惧 類



● 種の特性

雌雄異形で雄の翅表は青藍色、雌は全体が黒褐色のものから白色や青色斑のあるものなど色彩の変異に富む。2 齢以後の幼虫はクロオオアリの巣の中で育つことが知られている。年 1 回、6 月下旬から出現し 8 月まで見られる。成虫の飛翔は速いがヒメジオンなどの花に吸蜜に来るため観察は容易。

● 生息状況

中国中北部、朝鮮から国内では本州、四国、九州に分布する。県内では和泉村下大納からの記録があるが、さらに数カ所から見つかっている。大野市南六呂師からの情報もある。生息地は溪流沿いに点在し、一部の地点で伐採等の影響で減少したところがある。

● 存続を脅かす要因

和泉村では発見当初から村の「自然風物保護に関する条例」で保護対象（第 3 条に基づく「保護物件」）に指定されており、採集禁止の立て看板が設置されているが、生息地の保護策はとられていない。生息環境は比較的安定した状態にあるが、森林伐採等、生息地の改変は脅威となる。

● 参考文献

福井県．1999．福井県のすぐれた自然 動物編．452pp．福井県．

川副昭人ほか．1976．原色日本蝶類図鑑．保育社．大阪．

西村義信．1980．福井県よりムモンアカシジミとクロシジミを発見．だんだら(1)：14-15．

福井むしの会．

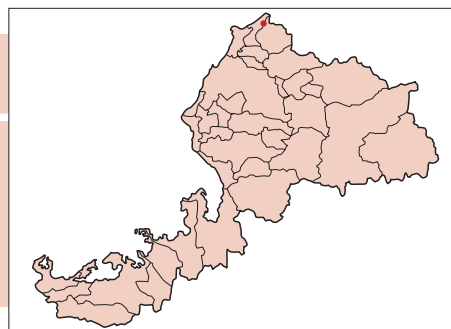
オオウラギンヒョウモン

チョウ目タテハチョウ科

Fabriciana nerippe C.& R.Felder

福井県カテゴリー 県域絶滅危惧 類

環境省カテゴリー 絶滅危惧 類



● 種の特性

日本に生息するヒョウモンチョウ類の最大種で、草原への依存度の高い種である。幼虫は各種のスミレを食し、幼虫で越冬する。年 1 回、6 月下旬から 7 月に出現し、盛夏には一時休眠し秋に再び活動する。

● 生息状況

全国的に著しく減少している種で、福井県も例外ではない。中国、朝鮮に分布し、国内では本州、四国、九州に分布するが、安定した生息地は九州の一部など僅かしかない。県内では過去に古い記録があるが、現在、確かな生息地はない。十数年前に小浜市で 1 頭 雄 採集されているが、これは偶産のようでその後の記録はない。絶滅した可能性が高い。

● 存続を脅かす要因

陽当たりの良い草原の保全が重要であるが、本県には生息に適した草原はほとんど消滅している。

● 参考文献

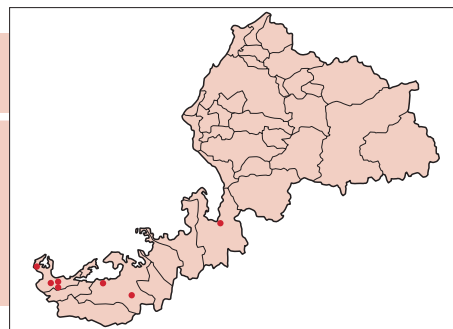
福井県．1999．福井県のすぐれた自然 動物編．452pp．福井県．

川副昭人．1976．原色日本蝶類図鑑．保育社．大阪．

ホソミイトンボ

トンボ目イトトンボ科
Aciagrion migratum (Selys)

福井県カテゴリー 県域絶滅危惧 類
環境省カテゴリー —



● 種の特性

平地や丘陵地の池沼、湿地に生息する成虫越冬種で、夏の終わりから秋にかけて越冬型と呼ばれるやや大型の個体群が羽化し、越冬後に成熟して生殖行動を行う。7～8月頃にはやや小型の夏型と呼ばれる個体群が出現する。

● 生息状況

国内では関東以西の本州、四国、九州および対馬、種子島などの離島に分布する。日本海側では石川県、新潟県、青森県でも単発的な記録がある。

県内では敦賀市、小浜市、高浜町の限られた池沼、湿地で記録されているに過ぎない。小浜市荒木の溜池では成虫・幼虫ともに比較的安定して生息している。高浜町子生の溜池は個体数が少ない。2001年には敦賀市檜曲の中池見湿地でも確認されたが、生息状況は不明である。

● 存続を脅かす要因

生息地である溜池の改修は本種の生息に致命的な影響を与え、肉食魚による捕食圧も懸念される。未熟成虫の生活場所となる周辺の樹林や草地の消失も脅威となる。

● 参考文献

福井県自然環境保全調査研究会編．1999．福井県のすぐれた自然 動物編．452pp．福井県．

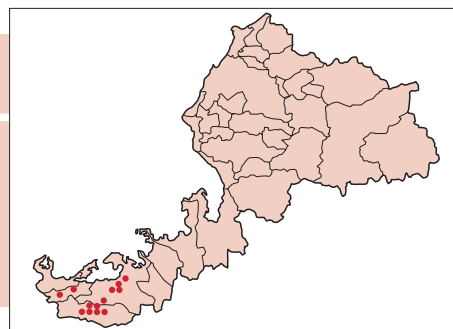
杉村光俊・石田昇三・小島圭三・石田勝義・青木典司．1999．原色日本トンボ幼虫・成虫大図鑑．xxxv + 917pp．北海道大学図書刊行会，札幌．

和田茂樹．2001．福井県におけるトンボ類の生息地の現状．Ciconia．(9)：37-42．福井県自然保護センター．

ゲンバイトンボ

トンボ目モノサシトンボ科
Platycnemis foliacea sasakii Asahina

福井県カテゴリー 県域絶滅危惧 類
環境省カテゴリー 絶滅危惧 類



● 種の特性

平地や丘陵地の植生豊かな清流に生息し、流れの緩やかな河川中流のほか、湧水に関わる流れにもしばしば生息する。雄は中・後脚の脛節が白く大きく広がる。成虫は5～8月に出現し、初夏の頃に多い。

● 生息状況

日本特産亜種で、宮城県以南の本州、四国、九州に分布するが、産地は局地的で近年急速に生息地が減少している。日本海側では福井県嶺南地方が分布東限となっている。

県内では小浜市、名田庄村の南川流域と、大飯町の佐分利川流域で生息が確認されている。

● 存続を脅かす要因

南川や佐分利川では、岸にツルヨシなどの繁茂する清流に生息しているため、植生の除去、水質の汚濁を伴う工事は、本種の減少、絶滅につながる。

● 参考文献

福井県自然環境保全調査研究会編．1999．福井県のすぐれた自然 動物編．452pp．福井県．

杉村光俊・石田昇三・小島圭三・石田勝義・青木典司．1999．原色日本トンボ幼虫・成虫大図鑑．xxxv + 917pp．北海道大学図書刊行会，札幌．

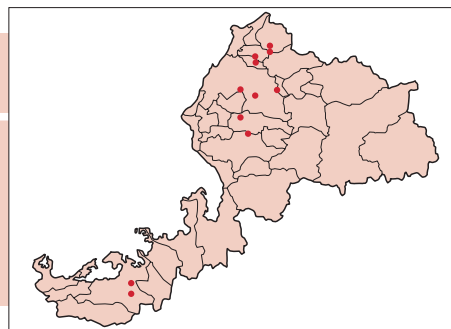
武藤 明．2000．石川・福井のトンボ資料(1999)．Tombo．(42)：63-64．

ホンサナエ

トンボ目サナエトンボ科
Gomphus postcularis Selys

福井県カテゴリー 県域絶滅危惧 類

環境省カテゴリー —



● 種の特性

平地や丘陵地の河川中流～下流に生息する中型で太身のサナエトンボで、幼虫は水深のある緩流部の泥底に浅く潜って生活する。成虫は4～6月に出現する。

● 生息状況

日本特産種で、北海道、本州、四国、九州および佐渡島に分布する。近年都市周辺を中心に激減しており、近隣の石川県、富山県では近年全く確認されていない。

県内で現在も生息が確認されているのは、金津町、丸岡町の竹田川中流、坂井町、春江町の兵庫川、福井市、江市、武生市の日野川中流などに過ぎない。

● 存続を脅かす要因

本種は平野部の河川中流～下流に生息するため、生息環境を消失させる工法による河川改修や、水質汚濁の進行が幼虫の生息に悪影響をもたらす。

● 参考文献

福井県自然環境保全調査研究会編．1999．福井県のすぐれた自然 動物編．452pp．福井県．

石川県野生生物保護対策調査会．2000．石川県の絶滅のおそれのある野生生物 動物編 - いしかわレッドデータブック - ．石川県．

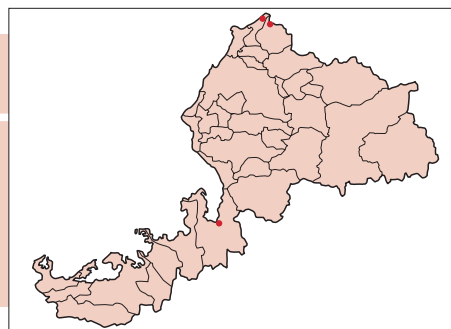
杉村光俊・石田昇三・小島圭三・石田勝義・青木典司．1999．原色日本トンボ幼虫・成虫大図鑑．xxv + 917pp．北海道大学図書刊行会，札幌．

オグマサナエ

トンボ目サナエトンボ科
Trigomphus ogumai Asahina

福井県カテゴリー 県域絶滅危惧 類

環境省カテゴリー —



● 種の特性

平地、丘陵地の池沼や水田、溝川に生息している。

幼虫は、沈積物の中や、水底の泥の中に潜って生活している。

● 生息状況

日本特産種であり、本州、四国、九州に分布している。長野県、愛知県、岐阜県、福井県の以西から、鹿児島県までの各地に分布している。

本県では、金津町、芦原町、敦賀市から記録されている。成虫は、4月下旬～5月下旬にかけて見られる。

● 存続を脅かす要因

幼虫の生息環境が、水田の周辺になるため農薬の影響を受けやすい。また、溜池や農地の改修工事、整地等により生息地が狭められてきている。

芦原町の、福良池では、ブルーギル、ブラックバス、ライギョの増加に伴い、近年では、ほとんど見られなくなった。また、コイ、フナ等の雑食魚が放流された池でも、個体数の減少がみられる。

● 参考文献

福井県．1999．福井県のすぐれた自然 動物編．452pp．福井県．

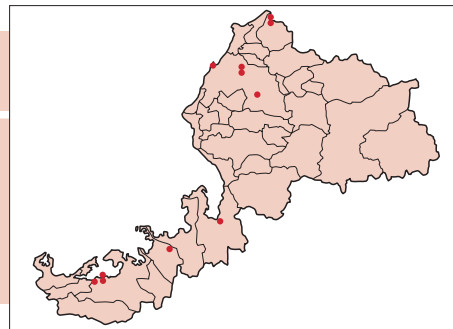
ネアカヨシヤンマ

トンボ目ヤンマ科

Aeschnophlebia anisoptera Selys

福井県カテゴリー 県域絶滅危惧 類

環境省カテゴリー —



● 種の特性

平地や丘陵地のヨシやマコモ、ガマが繁茂した沼池に生息し、特に周辺に森林がある丘陵地の沼を好む傾向が強い。

成虫は6～9月にかけて見られる中型のヤンマで、未熟成虫は日中に発生地周辺の谷間などを高飛して摂食し、成熟成虫は黄昏時に活発に飛翔して摂食する。雌は単独で水際の朽ち木などに産卵する。

● 生息状況

本州中部以南、四国、九州にかけて分布するが、産地は限られている。

県内では、金津町、福井市、敦賀市、三方町、小浜市などで6月下旬から9月上旬にかけて成虫が観察されるが、生息地はかなり限られている上に偶産記録が多い。

● 存続を脅かす要因

産地が少ない上に、植生の遷移などによってほとんど見られなくなった生息地など、これまでの記録地の多くで記録がされなくなり、現存する生息地は1カ所しかない。

● 参考文献

福井県自然環境保全調査研究会昆虫部会編、1998．福井県昆虫目録(第2版)．556pp．福井県．

浜田康・井上清、1985．日本産トンボ大図鑑．371pp．講談社．

石田昇三・石田勝義・小島圭三・杉村光俊、1988．日本産トンボ幼虫・成虫検索図説．140pp．東海大学出版会．

和田茂樹、2000．中池見湿地のトンボ相．中池見湿地(福井県敦賀市)学術調査報告書 - 第二次学術調査結果の報告 - : 18-50．

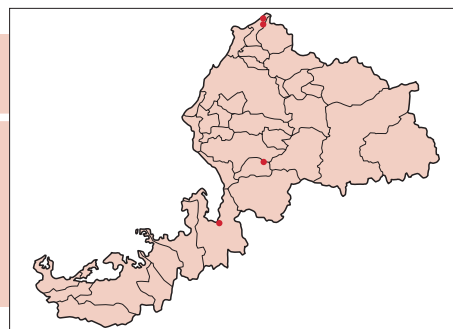
イトアメンボ

カメムシ目イトアメンボ科

Hydrometra albolineata Scott

福井県カテゴリー 県域絶滅危惧 類

環境省カテゴリー 絶滅危惧 類



● 種の特性

体長11～14mmで、体は細長く、頭の先端部は膨大している。体色は暗褐色。

池沼、水田、河川などの水際の雑草間に住み、水面を走ることもできる。

● 生息状況

本州以南の日本全土に分布するが、環境の悪化により急速に分布域、個体数を減少させている。

福井県での記録は芦原町北潟、南条町武周ヶ池、敦賀市中池見の3カ所である。近縁種のヒメイトアメンボに比べ、個体数も少なく、分布域も狭い。

また、本種は微小な種であり、近縁種であるヒメイトカメムシともよく似ており、混同される可能性もある。

● 存続を脅かす要因

水田、河川の整備による水辺環境の悪化。

● 参考文献

福井県自然環境保全調査研究会昆虫部会、1998．福井県昆虫目録(第2版)．556pp．福井県．

日浦勇、1993．半翅目、原色日本昆虫図鑑(下): 95-174．保育社．大阪．

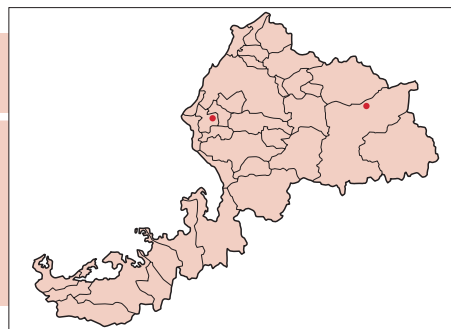
宮本正一、1965．半翅目、原色昆虫大図鑑 : 75-112．北隆館．東京．

コオイムシ

カメムシ目コオイムシ科
Diplonychus japonicus Vuillefroy

福井県カテゴリー 県域絶滅危惧 類

環境省カテゴリー 準絶滅危惧



● 種の特性

体長17～20mm。雄が背中に卵を背負い、孵化するまで保護する。本種は、近縁種のオオコオイムシと比べて、淡色で体がやや小さく、細形であること、脚がより長く、前腿節のふくらみが弱いことで識別される。水生植物の繁茂した池や休耕田、水田わきの堀上などに見られる。

● 生息状況

本州から九州に分布し、オオコオイムシが山間部に多いのに対し、本種は平野部に多い傾向がある。福井県での最近の記録は織田町桜谷と大野市六呂師の大池の2カ所であり、県内における本種の貴重な生息地である。

● 存続を脅かす要因

平野部に多い本種は農業の影響や水辺環境の悪化により、急速に分布域を狭めている。本県での生息場所である上記の2カ所も、人間生活に隣接した場所であり、環境の悪化が懸念される。

● 参考文献

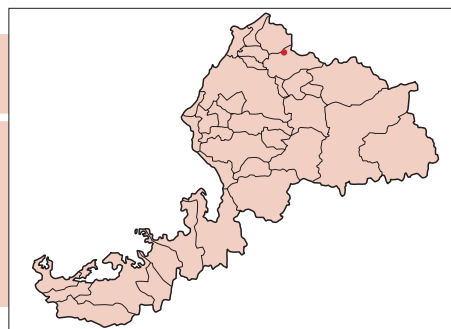
福井県．1999．福井県のすぐれた自然 動物編．452pp．福井県．
福井県自然環境保全調査研究会昆虫部会．1998．福井県昆虫目録(第2版)．556pp．福井県．
宮本正一．1965．半翅目．原色昆虫大図鑑：75-112．北隆館．東京．
日浦勇．1993．半翅目．原色日本昆虫図鑑(下)：95-174．保育社．大阪．
都築裕一．2000．水生昆虫 完全飼育・繁殖マニュアル．255pp．データハウス．

ゴミアシナガサシガメ

カメムシ目サシガメ科
Myiophanes tipulina Reuter

福井県カテゴリー 県域絶滅危惧 類

環境省カテゴリー 絶滅危惧 類



● 種の特性

体長16～17mmで、淡褐色の地に濃淡の斑紋があり、非常に長い毛でおおわれている。特に中、後脚の長軟毛は著しい。家屋内外で発見されることが多い。

● 生息状況

本州、四国、九州に分布するが、個体数は少ない。福井県での記録は、「原色福井県昆虫図譜」(1938)以降では丸岡町川上(1975、佐々治)の1頭だけである。

● 存続を脅かす要因

大型のサシガメではあるが、個体数が少なく発見されにくいので、分布、生息状況の全容ははっきりしない。

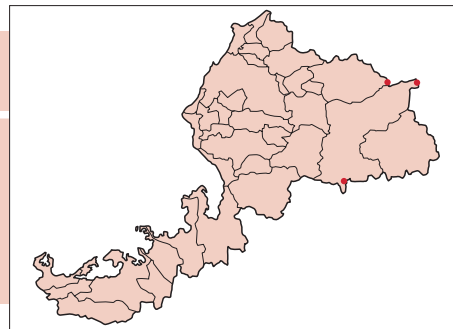
● 参考文献

福井県自然環境保全調査研究会昆虫部会．1985．福井県昆虫目録．404pp．福井県．
日浦勇．1993．半翅目．原色日本昆虫図鑑(下)：95-174．保育社．大阪．
宮本正一．1965．半翅目．原色昆虫大図鑑：75-112．北隆館．東京．

ミヤマツヤハダクワガタ

コウチュウ目クワガタムシ科
Ceruchus lignarius monticola Nakane

福井県カテゴリー 県域絶滅危惧 類
環境省カテゴリー —



● 種の特性

山地に生息する。幼虫はブナやカツラなどの広葉樹およびコメツガなどの針葉樹の朽ち木に生息し、特に褐色に腐朽した朽ち木によく見られる。成虫は秋に羽化し、新成虫はそのまま朽ち木の中で過ごし、翌年の晩春から初夏にかけて出現する。夏には朽ち木外活動も行い、灯火に飛来することもある。

● 生息状況

ツヤハダクワガタは本州・四国・九州・北海道に広く分布し、そのうちの1亜種ミヤマツヤハダクワガタは本州中部から紀伊半島にかけて分布する。

本県では、Araya (2001) が大野市と勝山市で本種の分布を確認したばかりであり、詳細な分布状況は一切不明。

● 存続を脅かす要因

森林の伐採や、自生している樹木とは異なる樹種（スギやヒノキなど）の植林行為、林道の建設による乾燥化など、個体数の多くない地域における採集圧も脅威となる。

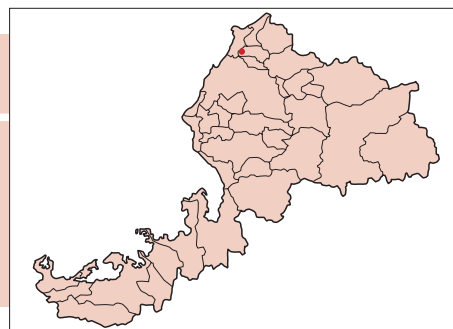
● 参考文献

Araya, K. 2001. New records of *Ceruchus lignarius monticola* Nakane, 1978 (Coleoptera, Lucanidae) from Fukui Prefecture, Central Japan, with the reference to Lucanid fauna of Fukui Prefecture. Sukunahikona : 271-273.

カワラハンミョウ

コウチュウ目ハンミョウ科
Cicindela (Chaelodera) laetescrpta Motschulsky

福井県カテゴリー 県域絶滅危惧 類
環境省カテゴリー —



● 種の特性

河川の中下流域の河川敷や、海岸の砂丘などに生息する。成虫・幼虫ともに捕食性で小昆虫などを捕らえる。

● 生息状況

日本・サハリン・朝鮮半島・シベリア・モンゴルなどに分布する。日本国内では、かつては北海道から九州まで広く分布していたが、近年急速に減少している。

本県では、三国町・福井市・大野市などから報告があるが、現在の詳細な分布状況は不明。

● 存続を脅かす要因

河川改修などによる河川敷の改変や海岸の砂浜の消失による生息地の減少。オフロード車の乗り入れも脅威となる。海岸林内で越冬するため、良好な海岸林の改変も存続を脅かす要因となる。

● 参考文献

福井県．1985．福井県昆虫目録．404pp．福井県．

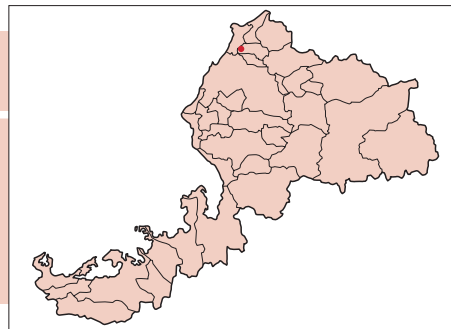
ハラビロハンミョウ

コウチュウ目ハンミョウ科

Cicindela (Lophyridia) sumatrensis niponensis Bates

福井県カテゴリー 県域絶滅危惧 類

環境省カテゴリー —



● 種の特性

海岸の河口部など湿潤な砂泥地や砂丘に生息する。
成虫・幼虫ともに捕食性で小昆虫などを捕らえる。

● 生息状況

日本特産亜種で、基亜種は中国南部・台湾・東南アジアなどに広く分布する。日本特産亜種の分布地は、新潟県以西の本州（主に日本海側と和歌山県）と佐渡、九州の東南海岸、種子島、屋久島である。
本県では、三国町からの報告があるのみで、詳細な分布状況は不明。

● 存続を脅かす要因

護岸工事などによる自然海岸の改変や消失。オフロード車の乗り入れも脅威となる。

● 参考文献

福井県自然環境保全調査研究会昆虫部会。1985。福井県昆虫目録。404pp。福井県。

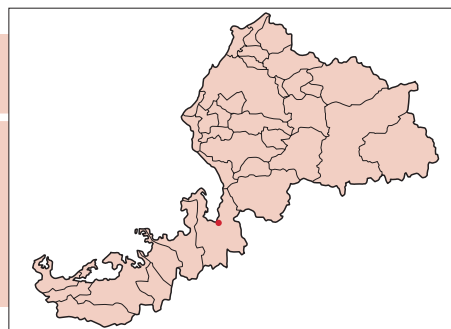
ナカイケミヒメ TENTOU

コウチュウ目テントウムシ科

Scymnus nakaikemensis Sasaji et Kishimoto

福井県カテゴリー 県域絶滅危惧 類

環境省カテゴリー —



● 種の特性

体長1.7～2.0mm。小型で美しいヒメテントウである。クロスジヒメテントウに酷似するが、亜属が異なり、腹部第1節の腿節線が完全なことで区別できる。
1996年、敦賀市中池見湿地を基準産地として新種記載された。
湿原のヨシに生息するという特殊な生態を持つ。分布上も生態学的にも非常に重要な種である。

● 生息状況

敦賀市中池見（6月）、栃木県渡瀬遊水池より記録されている。

本県の敦賀市中池見湿地が分布北限である。

中池見は水田の広がる湿地であり、そこに生育するヨシをスレーピングすることによって採集されることが多い。

● 存続を脅かす要因

本県唯一の産地である敦賀市中池見湿地は、25haの湿地であるが、その地形は袋状埋積谷のいわゆるおぼれ谷で、通常の近代水田耕作を困難にしている。そのため、かつては日本列島各地に普遍的であったであろう自然環境の遺存を見ることができ。しかし、現在はLNG備蓄基地計画のため一部の保全エリアを残して埋め立てが進んでいる。そのことにより、厳しい環境に遺存してきたであろう中池見湿地の本種地域個体群の存続が脅かされる危険がある。

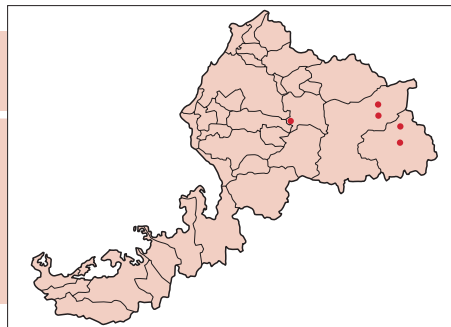
● 参考文献

福井県。1999。福井県のすぐれた自然 動物編。452pp。福井県。

ザウターカギバラバチ

ハチ目カギバラバチ科
Taeniogonalos sauteri Bischoff

福井県カテゴリー 県域絶滅危惧 類
環境省カテゴリー —



● 種の特性

体長は8～11mmで、体に黄・赤褐色のまだら模様を持つ美麗種である。
生活史は不明な点が多いが、卵はヤナギやネムなどの葉に産み付けられ、この卵が葉を食べるチョウ目の幼虫の体内に入り、チョウ目の幼虫はスズメバチ類の餌となる。そして、カギバラバチの幼虫がスズメバチの幼虫の体内で成長するという複雑な生活をする寄生蜂である。

● 生息状況

本州、四国、九州、南西諸島、台湾に分布する。
県内では、和泉村、大野市、美山町で、9月中旬～10月中旬にかけて採集されている。
アリマキのついたクルミやナシの木の葉に甘露を求めて飛来するが、詳しい生息場所などは不明である。

● 存続を脅かす要因

農山村の過疎化が進み木造家屋が少なくなって、宿主であるスズメバチの営巣場所が狭まったことや、除草剤、農薬の空中散布などが存続を脅かしている。

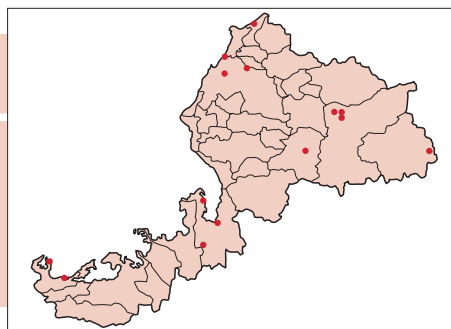
● 参考文献

田埜正・室田忠男．1998．足羽川流域のハチ目．足羽川流域の生物調査，57-85．福井県高等学校生物研究会．
Tsuneki, K. 1991. Revision of the Trigonalidae of Japan and her adjacent territories. SPJHA, (37) : 1-68. 日本蜂類研究会．

オキナワシリアゲコバチ

ハチ目シリアゲコバチ科
Leucospis sinensis Walker

福井県カテゴリー 県域絶滅危惧 類
環境省カテゴリー —



● 種の特性

体長約10mm．雌は産卵管を背面に背負っている．近似種のシリアゲコバチに比べ、体の横紋の赤みが強く産卵管は短い．
ハキリバチ類の巣の外から、産卵管を挿入して繭の中に産卵する．

● 生息状況

本州、四国、九州、南西諸島、中国に分布する．
県内の分布は三国町、芦原町、福井市、大野市、和泉村、敦賀市、高浜町である．
ハキリバチ類の天敵で、ハキリバチが造巣している薪積みや材木置き場で見られる．6～9月にかけて活動するが個体数は少ない．

● 存続を脅かす要因

家庭における燃料革命が原因の一つである．薪はプロパンガスに変わり、山村でも薪積みが見られなくなった．造巣場所を失ったハキリバチ類は減少し、それに寄生するシリアゲコバチも減少している．

● 参考文献

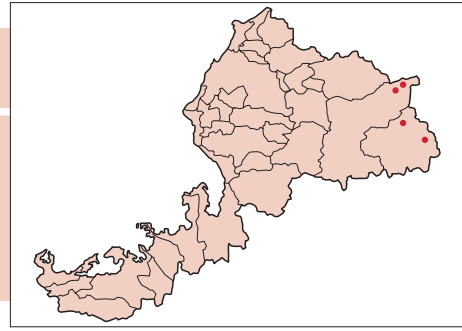
野坂千津子・黒川秀吉．2001．2000年に天筒山で採集した有剣蜂類．福井虫報，(28)：9-17．福井昆虫研究会．

ヤマトセイボウモドキ

ハチ目セイボウ科
Cleptes japonicus Tosawa

福井県カテゴリー 県域絶滅危惧 類

環境省カテゴリー —



● 種の特性

1940年に長野県浅間産の標本に基づいて記載された比較的珍しい種である。

体長は6mm内外，雄は頭胸部が青緑色で腹部は黒色，雌は頭胸部は黒みを帯びた青銅色で腹部基部が赤褐色をしている。

本種の生態は明らかではないが，他のセイボウモドキと同じように，ハバチの幼虫に寄生すると考えられる。

● 生息状況

青森，栃木，長野，石川，福井県から記録されている。

県内では大野市小池，赤兎山，和泉村油坂，田茂谷で記録されており，生息場所が限られている。

6～9月にかけ，アリマキの甘露が落ちて黒ずんでいるクマザサなどの葉上に見られる。

● 存続を脅かす要因

奥山の落葉樹が伐採され，スギ，ヒノキなどの針葉樹が植林され，宿主のハバチ類の個体数が激減することが要因と考えられる。

● 参考文献

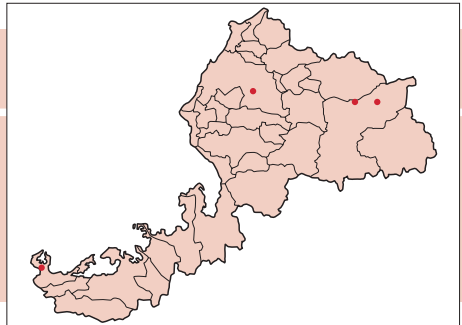
Tsuneke, K. 1959. Contributions to the knowledge of the Cleptinae and Pseninae faunas of Japan and Korea. Mem. Fac. Lib. Arts, Fukui Univ., (9) : 1-78.

ウチダハラナガツチバチ

ハチ目ツチバチ科
Megacampsomeris uchidai (Betrem)

福井県カテゴリー 県域絶滅危惧 類

環境省カテゴリー —



● 種の特性

体長15～20mm．キンケハラナガツチバチによく似ているが，体の毛色はより赤みが強く，上額部，単眼域の点刻はより密であり，前伸腹節の点刻はより疎であることで区別される。

生態の詳細は明らかではないが，地中で植物の根を食害するコウチュウ目の幼虫に外部寄生する。

● 生息状況

国外では韓国，台湾に分布する．国内では九州，四国（高知県），本州（広島，三重，福井，神奈川，埼玉県）から記録されているが，各地とも個体数は極めて少ない。

県内では福井市足羽山，大野市嵐，南六呂師，高浜町青葉山で採集されているに過ぎない希少種である。

● 存続を脅かす要因

本種は地中に棲むコウチュウ類の幼虫の天敵である．過度な農薬撒布や，農地の改変等が本種の生存を脅かす。

● 参考文献

羽田義任．1994．福井県蜂類分布資料．福井虫報，(14) : 21-24．福井昆虫研究会．

田埜正・室田忠男．1982．福井県産ツチバチ科の分布について．福井県高等学校理科研究会会誌，(25) : 24-27．福井県高等学校理科研究会．

Tsuneke, K. 1972. Studies on the Scoliid wasps of Eastern Asia. Etizenia, (62) : 1-41. 福井大学教育学部．

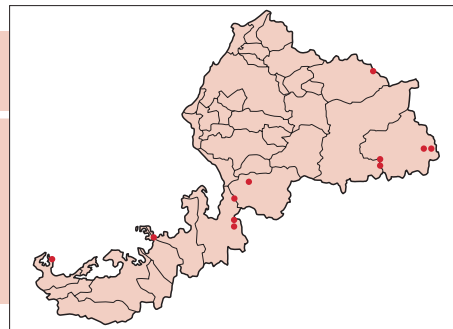
ケブカツヤオオアリ

ハチ目アリ科

Camponotus nipponensis Santschi

福井県カテゴリー 県域絶滅危惧 類

環境省カテゴリー —



● 種の特性

働蟻の体長は4～5mmである。体色は黒褐色から褐色で、頭盾前縁中央部は凹んでいる。胸部背面にしっかりした20本以上の鞭毛の長い立毛を持つ。働蟻の大きさに個体差が顕著である。

● 生息状況

本州の中部地方から東北地方にかけて生息しているが、比較的まれな種とされている。

しかし、本県では、山麓・河岸・湿地帯等の枯れ木を営巣場所として、かなり広範囲に分布している。本県は、本種に関しては、全国的にみて重要な地域といえる。

● 存続を脅かす要因

本種の生息域は山麓・河岸に多い。河川の改修工事や山麓の道路建設・改修工事が本種の盛衰に大きな影響を及ぼしている。

● 参考文献

日本蟻類研究会．1991．日本産アリ類の検索と解説（ ）．56pp．日本蟻類研究会．

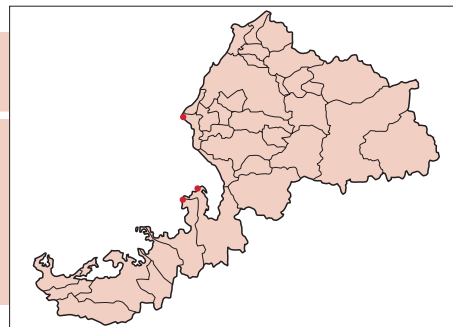
アメイロオオアリ

ハチ目アリ科

Camponotus devestivus Wheeler

福井県カテゴリー 県域絶滅危惧 類

環境省カテゴリー —



● 種の特性

働蟻の体長7～10mmの大型種。頭部・腹部は褐色から黒褐色，胸部・腹柄部は黄褐色で，かなり濃淡に差はある。体毛の少ない種で，前胸にはまったく立毛はなく，中胸にも一対の立毛を見るのみである。

● 生息状況

四国，九州に多く生息し，本州では中部以南の太平洋岸に記録がある。

本県では越前町，敦賀市，美浜町の海岸沿いの林の中にかなり広く生息している。竹・朽ち木に巣穴を掘り生息している。

● 存続を脅かす要因

近年海岸周辺の自然林が開発のため大幅に消失している。この状況が更に進むと本種の存続にも影響が及ぶと考えられる。

● 参考文献

日本蟻類研究会．1991．日本産アリ類の検索と解説（ ）．56pp．日本蟻類研究会．

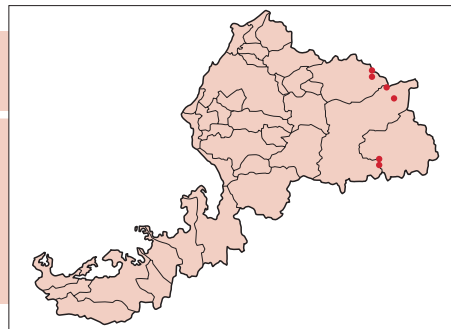
エゾアカヤマアリ

ハチ目アリ科

Formica yessensis Forel

福井県カテゴリー 県域絶滅危惧 類

環境省カテゴリー —



● 種の特性

働蟻は体長4.5～8mm。頭部・胸部・腹柄節・脚などは黄褐色。ただし頭部・胸部・脚はやや暗褐色、腹部は黒色だが基部はやや赤褐色である。

アカヤマアリより棲息範囲は広く山地・平地に及び、比較的明るいところに営巣し、枯葉や茎を巣口近くに積み上げ蟻塚を作る。ただし蟻塚の大きさはさほど大きいものではなく、直径50cm、高さ10cm程度のものが多い。

● 生息状況

本州の中部以北から北海道に分布する。

本県では大野市・勝山市・和泉村の北部に生息し、この地域以南では認められていない。従って現在のところこの地点が分布の南限と考えられる。しかしこの種はこの地域一帯にはかなり生息しているので、詳しい調査を行えば分布範囲は更に広がるものと考えられる。

● 存続を脅かす要因

本種は、山麓から山地の平野部に多く生息しているが、このような地域は近年道路工事等で、路面の拡幅・舗装、法面の掘削や法面のモルタル吹付工事等により生息地を失いつつある。

● 参考文献

日本蟻類研究会．1991．日本産アリ類の検索と解説()．56pp．日本蟻類研究会．

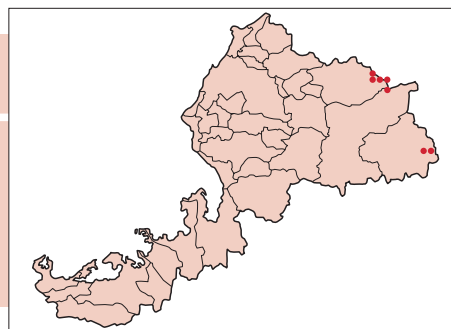
アカヤマアリ

ハチ目アリ科

Formica sanguinea Latreille

福井県カテゴリー 県域絶滅危惧 類

環境省カテゴリー —



● 種の特性

働蟻は体長6～7mm。頭部は黒みがかった暗赤色、腹部はほぼ黒褐色、胸部・腹柄節・脚は赤みのある褐色である。頭盾前縁中央部が窪んでいる。

蟻塚は作らない。単独で営巣することもあるが、多くはクロヤマアリなどを奴隷狩りして混棲する。

● 生息状況

北海道、本州中部以北に分布する。

県内では、大野市・勝山市の北部山地に生息する。エゾアカヤマアリより生息地域は狭い地域に限られている。これはクロヤマアリ等の力を借りる半寄生的な生活習性によるものと考えられる。この地域以西南では現在のところ未発見なので、本県が日本海側の分布の南限と考えられる。

● 存続を脅かす要因

本種の生息域は、異種の蟻類が数多く生息しており、生存競争の激しい所である。わずかな環境の変化でも本種の活動状況に大きな影響を与えられられる。

● 参考文献

日本蟻類研究会．1991．日本産アリ類の検索と解説()．56pp．日本蟻類研究会．

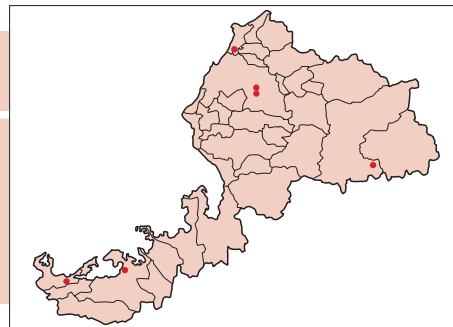
フカイオオドロバチ

ハチ目ドロバチ科

Rhynchium quinquecinctum fukaii Cameron

福井県カテゴリー 県域絶滅危惧 類

環境省カテゴリー —



● 種の特性

日本産ドロバチ類の中では大型の種で、体長20mm 前後、体は黒色だが、頭部、胸部の大部分、腹部各節の後縁、脚の大部分は赤褐色である。

● 生息状況

中国北部、シベリア東部、朝鮮、日本に分布する。わが国の南西諸島からは多くの亜種が知られている。

茨城、埼玉、神奈川、新潟、長野、福井、京都、和歌山、兵庫（淡路島）、島根、山口、高知、長崎、鹿児島
の各県で記録されているが、南方系のハチで北へ行くほど分布密度は低い。

本県では三国町、小浜市、高浜町の海岸域、大野市真名川上流域と福井市八幡山、足羽山から記録されている。

● 存続を脅かす要因

本種は海岸沿いから河川地、低山帯の泥や粘土層の多い環境に分布を広げているが、これらの地域の著しい環境の変化で、個体数は減少傾向にある。

● 参考文献

羽田義任．1992．フカイオオドロバチの記録．福井虫報，(10)：38．福井昆虫研究会．

野坂千津子．2001．足羽山の有刺蜂類追加．福井虫報，(29)：37-38．福井昆虫研究会．

Yamane, Sk. 1990. A revision of Japanese Eumenidae. Insecta Matsumurana, n.s.43：1-189.

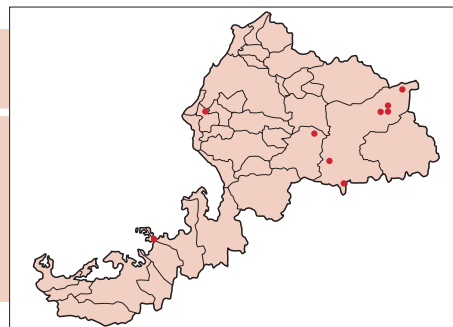
チャイロスズメバチ

ハチ目スズメバチ科

Vespa dybowskii Andre

福井県カテゴリー 県域絶滅危惧 類

環境省カテゴリー —



● 種の特性

体長は雄が26mm 前後、女王蜂が29mm 前後、働き蜂が18～24mm である。頭胸部は主として赤褐色で、腹部は全体が黒褐色である。

本種はモンズズメバチやキイロスズメバチの一時的社会寄生者として知られる。春、女王蜂はしばしば働き蜂の羽化した宿主の巣に侵入して巣を乗っ取り、働き蜂にわが子を育てさせる。しばらくは両種の働き蜂が共存するが、やがて宿主の働き蜂は死に絶えて、巣はチャイロスズメバチだけのものになる。

● 生息状況

北方系の種でウスリー、中国大陸、日本に分布する。

わが国では北海道から東北、中部地方の山地に生息し、特に日本海側からの記録が多い。

福井県は分布の西南限である。県内では大野市、池田町の山地、丹生山地のほか三方町の海岸近くからも記録されている。

スズメバチ類は他の昆虫を狩り幼虫の餌とするので、植物を食害する他の昆虫の異常な増加を防ぐ大切な役割をになっている。

● 存続を脅かす要因

生態系のバランスが崩れると本種の生存も危うくなるので、急激な自然環境の改変は存続に影響する。

● 参考文献

羽田義任．1991．大野市小池でチャイロスズメバチを記録．福井虫報，(9)：18．福井昆虫研究会．

羽田義任．1995．酒カップで採集したチャイロスズメバチ．福井虫報，(16)：49．福井昆虫研究会．

羽田義任・野坂千津子・飯田忠嗣・黒川秀吉・室田忠男．2001．福井県越知山の有刺蜂類．福井虫報，(29)：7-16．福井昆虫研究会．

室田忠男．1994．福井県蜂類分布資料．福井虫報，(15)：49-50．福井昆虫研究会．

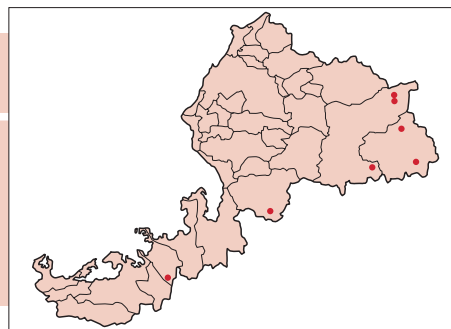
シモヤマジガバチモドキ

ハチ目ケラトリバチ科

Trypoxylon shimoyamai Tsuneki

福井県カテゴリー 県域絶滅危惧 類

環境省カテゴリー —



● 種の特性

1958年に青森県産の標本により記載された。

雄は体長7mm, 雌は9mm 前後の黒色の小型種である。

竹筒やその他の既存坑を利用して巣を作り, 泥で仕切った数個の独房を連ねる。幼虫の食べ物として, カニグモ類やハエトリグモ類などを狩り入れる。

● 生息状況

青森, 埼玉, 石川, 福井県などから記録されている北方系のハチである。

県内では大野市赤兎山, 上秋生, 和泉村角野前坂, 荷暮, 今庄町夜叉ヶ池, 三方町三十三間山から記録されているが, 各地とも個体数は少ない。

夏から秋にかけて, 山間部の出作り小屋や民家付近の薪や竹などの置き場の, やや薄暗い所に生息している。

● 存続を脅かす要因

小さなハチなので僅かな環境の変化に左右される。造巣場所の竹や幼虫の餌のクモがたくさんあっても, 湿度, 明るさなどが変わると生息しなくなる。山仕事の出作り小屋や藁葺きの人家など, 本種の生息に適した環境が失われていくことが第一の要因である。

● 参考文献

室田忠男. 1980. 赤兎山の注目すべき蜂類. 蜂友通信, (12): 11-15. 日本蜂類研究会。

野坂千津子. 1997. 福井県蜂類分布資料. 福井虫報, (20): 9-12. 福井昆虫研究会。

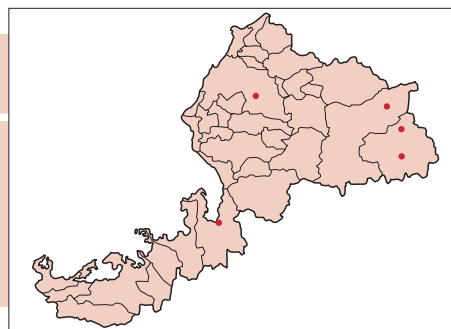
タケウチギングチ

ハチ目ギングチバチ科

Crossocerus takeuchii Tsuneki

福井県カテゴリー 県域絶滅危惧 類

環境省カテゴリー —



● 種の特性

竹内吉蔵博士が採集した北朝鮮産の雌の標本に基づいて1957年に記載された。その後, 日本国内で初めて福井県和泉村三面から記録されたが, 県外からの記録はまだない非常に珍しいハチである。

体長約6mm, 黒色で脚に黄色部の多いアムールギングチに近似の種である。

9月から10月に, アブラムシのついたクルミ林の下草や立ち枯れ木に飛来する。

● 生息状況

本県では従来, 大野市上打波, 和泉村角野前坂, 三面, 米俵など奥越地方の山地から知られていたが, 最近福井市足羽山や敦賀市天筒山の低山にも分布していることが分かった。今まで未知の雄も天筒山で数頭採集された。個体数は極めて少ないが, 天筒山では確実に生息している。それは国有林でシイをはじめとする照葉樹林が良好に保存されているからであると思われる。

● 存続を脅かす要因

本種の習性は確かめられていないが, 照葉樹林の中の立枯れ木に営巣すると推定されており, そのような森林の改変が本種の存続を脅かす。

● 参考文献

羽田義任. 1988. 福井県蜂類分布資料. 福井虫報, (3): 40. 福井昆虫研究会。

羽田義任. 1989. 福井県蜂類分布資料. 福井虫報, (5): 18-21. 福井昆虫研究会。

羽田義任. 1995. 福井県蜂類分布資料. 福井虫報, (16): 31-36. 福井昆虫研究会。

室田忠男. 1989. タケウチギングチを採る. あられがこ, (27): 8. 福井生物研究会。

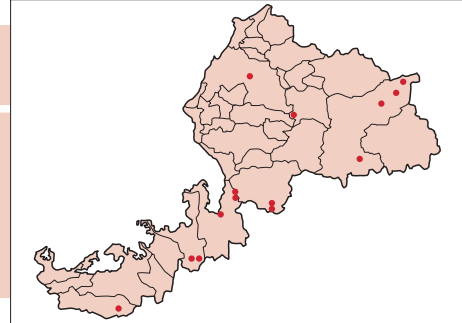
野坂千津子. 2001. 足羽山の有刺蜂類追加. 福井虫報, (29): 37-38. 福井昆虫研究会。

野坂千津子・黒川秀吉．2000．2000年に天筒山で採集した有剣蜂類．福井虫報, (28) : 13-17．福井昆虫研究会．
Tsuneki, K. 1957．Verzeichnis dervon Herrn Dr.K.Takeuchi in Korea gesammelten Crabroninen．AKITU, (6) : 59-62．京都昆虫同好会．

ニトベギングチ

ハチ目ギングチバチ科
Spadicocrabro nitobei (Matsumura)

福井県カテゴリー 県域絶滅危惧 類
環境省カテゴリー —



● 種の特徴

日本産ギングチバチの中でも大型に属し体長は18mmに及ぶ．また，一見キボシアシナガバチに似た異色のギングチバチである．朽ち木の虫孔に営巣し，幼虫の餌にゴマシオキシタバ，エゾシロシタバ，オニベニシタバやヤガ類の成虫を狩り入れる．

● 生息状況

インド(シッキム)，台湾，日本に分布する．

わが国では青森，山形，新潟，長野，富山，石川，三重，福井県など本州の低山から中山地に至る広い範囲に生息する．

県内の分布地は大野市，美山町，今庄町，敦賀市，美浜町及び名田庄村で，7月から9月下旬にかけて，主に枯れ木，花，アブラムシの落とした甘露に飛来したところを採集された．

● 存続を脅かす要因

最近の調査では，以前の生息地からの記録はなく，わずかに敦賀市天筒山が加わったに過ぎない．少なくなった原因の一つにスギの植林のため雑木林が伐採され，営巣場所となる立枯れ木の減少があげられる．

● 参考文献

羽田義任．1960．ニトベギングチを採る．生物研究, 4(1) : 14-15．福井生物研究会．

室田忠男．1994．福井県蜂類分布資料．福井虫報, (15) : 49-50．福井昆虫研究会．

野坂千津子・黒川秀吉．2000．天筒山で採集した有剣蜂類．福井虫報, (26) : 37-46．福井昆虫研究会．

奥野宏．1975．ニトベギングチバチの観察．蜂友通信, (2) : 8-10．日本蜂類研究会．

下山健作．1987．青森県のニトベギングチ採集・巣の観察．蜂友通信, (27) : 46-56．日本蜂類研究会．

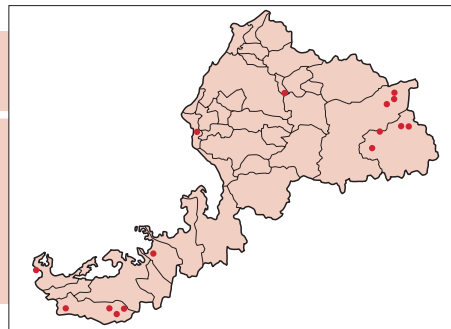
常木勝次．1967．ニトベギングチバチを小池で採集．生物研究, 11(3-4) : 51．福井生物研究会．

キユビギングチ

ハチ目ギングチバチ科
Towada flavitarsus (Tsuneki)

福井県カテゴリー 県域絶滅危惧 類

環境省カテゴリー —



● 種の特性

ヒメギングチバチ類は体色が黒っぽい種類が多いが、本種は前胸、小盾板や脚を黄色で装っているおしゃれな5mm足らずの美麗種である。

営巣習性も際だっており、ギングチバチ類で巣穴の閉鎖にスギの樹脂を使うのは本種だけである。

Towada 属に所属するが、形態的には南方に生息する *Piyumoides* 属に似ている貴重な種である。

● 生息状況

北海道と本州（青森、栃木、埼玉、福井、広島県）の山地から低山帯に広く分布するが、個体数は少なくややまれな種である。

県内の生息地は従来大野市鳩ヶ湯、中洞、和泉村前坂、大納、下山、小谷堂など奥越山地のみであったが、近年の調査で、低山帯の松岡町吉野ヶ岳、越前町城山、三方町田井、名田庄村拳野、虫谷、尼来谷、虫鹿野、高浜町山中にも生息することが分かってきた。

発生時期は虫谷では6～7月をピークに、5月10日頃から8月の終わりまでであるが、奥越地方では10月にも活動している。

● 存続を脅かす要因

ギングチバチ類の多くは雑木林の枯れ木や薪積みに営巣し、ハエ目を幼虫の餌に狩る。極端なスギの人工林化は貧弱な生態系を招き、これらのハチの造巣場所を奪うことになる。

● 参考文献

羽田義任．1997．松岡町吉野ヶ岳で採集したアナバチ4種．福井虫報, (20)：64．福井昆虫研究会．

羽田義任．2001．福井県蜂類分布資料．福井虫報, (29)：29-30．福井昆虫研究会．

室田忠男．1990．福井県名田庄村の蜂類分布資料．福井虫報, (7)：11-12．福井昆虫研究会．

室田忠男．1994．福井県蜂類分布資料．福井虫報, (15)：49-50．福井昆虫研究会．

室田忠男．1998．福井県蜂類分布資料．福井虫報, (23)：9-16．福井昆虫研究会．

室田忠男．2001．厨城山の注目すべき蜂類について．福井虫報, (29)：43-44．福井昆虫研究会．

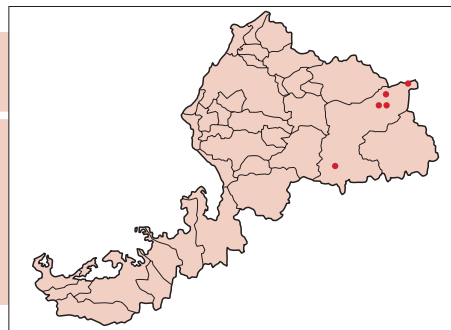
常木勝次．1973．キユビギングチ福井県第2の記録．生物研究, 17(3-4)：62．福井生物研究会．

ニッコウツヤアナバチ

ハチ目ドロバチモドキ科
Alysson monticola monticola Tsuneki

福井県カテゴリー 県域絶滅危惧 類

環境省カテゴリー —



● 種の特性

1977年、埼玉県雁坂峠産の標本に基づき記載された。栃木県奥日光の金精峠で多く採れ、和名をニッコウと命名された。近似種のハクサンツヤアナバチより、やや小型で体の黄色紋が発達している。より高地（標高約2,000m）まで分布する。ヨコバイ類を狩り、腹合わせで大顎で獲物の頸部をくわえ、脚を使わず空中運搬する。涼しい登山道を選び土中に営巣する。

● 生息状況

本県では、1978年大野市嵐採集が初記録である。1980年には赤兎山登山道で多数採集できた。1998年の調査では、大野市六本松、中洞、巢原（平家平）で採集された。中洞は標高600m未満であるが、その他の産地は1,000m以上の亜高山地帯である。

● 存続を脅かす要因

本種は、比較的涼しくやや湿った感じの裸地に営巣し、奥越地方の亜高山地帯の登山道付近に生息する。かつては、このような山道が各地にあり、人々の生活と密接に結びついていた。過疎化し車社会になった今日、そ

これらの山道は荒れ果て、本種の生息できる環境は極端に減り始めている。

●参考文献

Tsuneki, K. 1977. Two new species of the genus *Alysson* Panzer (Hymenoptera, Sphecidae) in Japan. Kontyû. 45 (1) : 26-32.

室田忠男. 1978. 福井県の蜂分布資料. 蜂友通信. (7) : 12-14. 日本蜂類研究会.

黒川秀吉・室田忠男. 1980. 福井県の蜂分布資料. 蜂友通信. (12) : 22-24. 日本蜂類研究会.

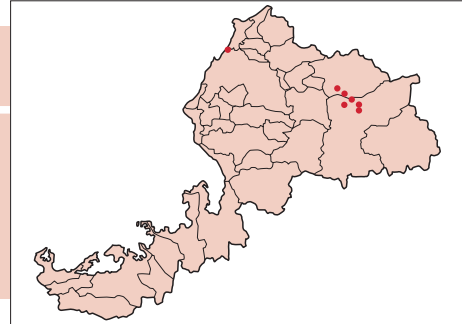
コムカシハナバチ

ハチ目ムカシハナバチ科

Colletes vogti Pérez

福井県カテゴリー 県域絶滅危惧 類

環境省カテゴリー —



●種の特性

体長 1 cm ならずで日本産のムカシハナバチの中では最も小型である。胸部は黄褐色の毛でおおわれ、腹背節の後縁には白色の毛帯があり、スマートで美しいハチである。

9月中旬から10月にかけて河川域に姿を現し、砂混じりの地中に穴を掘って巣を作り、花粉や蜜を集めて幼虫を育てる。

●生息状況

本州(宮城, 長野, 石川, 福井県), 九州(熊本, 宮崎, 鹿児島県), 対馬に分布する。

本県では三国町三里浜, 勝山市中島, 下荒井, 大野市花房, 森目, 麻生島, 唯野など海岸地域と九頭竜川中流の河川域に生息する。他県ではかなり上流の河川域からも記録されているが, 本県では大野市唯野より上流では見つからない。

●存続を脅かす要因

海岸, 河川敷の開発が第一の要因である。三里浜は臨海工業地帯として開発されて, 本種の生息地が極端に狭まっている。九頭竜川の河川敷はまだ比較的本種の生息環境に適した自然が残されているが, 今後改変が進むと本種の存続を脅かすこととなる。

●参考文献

Ikudome, S. 1989. A revision of the family Colletidae of Japan. Bull. Inst. Minamikyushu Reg. Sci., (5):43-314. 鹿児島女子短期大学.

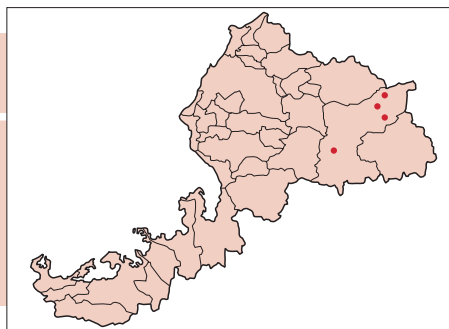
エサンキマダラハナバチ

ハチ目コシブトハナバチ科

Nomada esana Tsuneki

福井県カテゴリー 県域絶滅危惧 類

環境省カテゴリー —



● 種の特性

1973年に北海道恵山産の雌の標本に基づき記載された。雄は分かっているがまだ正式に記載されていない。体長8～10mm。アイヌキマダラハナバチ群に属し、体の大部分が黒色で黄色紋がありナミギングチバチ類に似ている。また、前伸腹節の心形域は全面が微細彫刻され指紋状の条刻があるなど、春発生する他の多くのキマダラハナバチとは違った形態的特徴を持つ。

夏秋に発生し、大型のコハナバチ類に寄生するのではないかとされているが確証はない。

● 生息状況

全国的にもまれな種で、北海道以外は埼玉県と福井県の記録しかない。

本県では大野市赤兎山、嵐、下打波（谷山）、中島（大雲谷）、巢原（平家平）で、山中の登山道の路面を飛んでいたりと、路傍の花にきたものが採集されている。

● 存続を脅かす要因

1980年頃多くの雌雄が生息していた大野市中島大雲谷林道は、その後の堰堤工事に伴う道路改修で本種を見かけなくなった。林道や登山道の大幅な整備拡張や舗装などが本種の生存を危うくする要因である。

● 参考文献

羽田義任. 1975. ハチあれこれ. 蜂友通信, (2): 6-8. 日本蜂類研究会.

羽田義任. 1977. キマダラハナバチ3題. 蜂友通信, (5): 4-5. 日本蜂類研究会.

Tsuneki, K. 1973. Studies on *Nomada* of Japan. Etizenia, (66): 1-141. 福井大学教育学部.

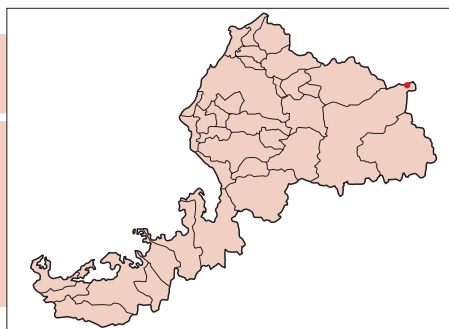
ゴマシジミ（白山亜種）

チョウ目シジミチョウ科

Maculinea teleius hakusanensis Fujioka

福井県カテゴリー 県域絶滅危惧 類

環境省カテゴリー 絶滅危惧 類



● 種の特性

幼生期の後半をアリの巣の中で生活する特異な生態の種で、地域により若令幼虫の食草が異なり、白山亜種ではカライトソウ（バラ科）を食する。年1回、7月下旬から8月上旬に発生する。

● 生息状況

北海道、本州、九州に分布するが、白山亜種は白山山塊の高地に崖や岩場にのみ生息する。県内からは大野市三ノ峰の剣ヶ岩付近（標高1400m）で1頭採集されているだけである。この付近には食草のカライトソウもあり、この周辺で発生しているものと予想されるが、追加記録はまだない。

● 存続を脅かす要因

確認された地域一帯は国立公園の特別保護地区で、生息環境の保全は図られている。

● 参考文献

川副昭人. 1976. 原色日本蝶類図鑑. 保育社. 大阪.

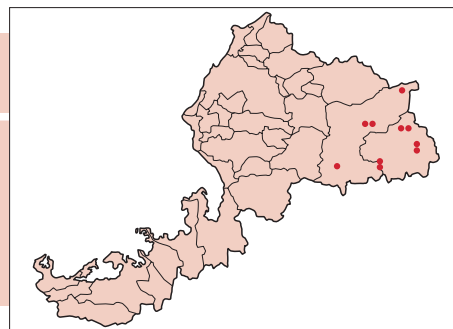
村田文彦. 1989. 三ノ峰でゴマシジミを採集. だんだら(3). 6pp. 福井むしの会.

ツマジロウラジャノメ

チョウ目ジャノメチョウ科
Lasiommata deidamia Eversmann

福井県カテゴリー 県域絶滅危惧 類

環境省カテゴリー —



● 種の特性

茶褐色の地色に雄では前翅裏面に白色紋を，雌では表裏に目立つ白色紋を有する．幼虫が岩場に生えるヒメノガリヤス（イネ科）などを食すためか，生息地は溪流沿いの崖や岩場に限定される．通常は年2回の発生で6～7月に第1化が，2化のものは8～10月まで連続的に発生する．奥越地方の標高の高いところでは年1化の発生．

● 生息状況

北海道，本州，四国に分布するが生息地は限られる．国外ではウラル，アルタイ，中国，朝鮮，アムール，サハリンなどに分布する．県内では和泉村，大野市からの記録があるが，さらに勝山市，今庄町からも採れている．今庄町が本州の南西限の生息地となる．いずれの生息地でも個体数は少ない．

● 存続を脅かす要因

これまでに知られている生息地の殆どが道路脇の狭い崖や岩場で，崖の崩落防止の工事など，環境の改変にはきわめて弱い．

● 参考文献

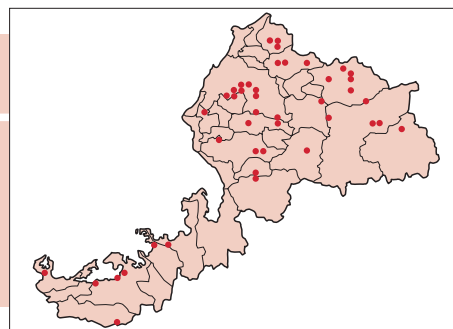
福井県．1999．福井県のすぐれた自然 動物編．452pp．福井県．
井崎市左エ門．1955．福井県の蝶．福井県博物同好会．(2)：45-55．福井市立郷土自然科学博物館．
川副昭人．1976．原色日本蝶類図鑑．保育社．大阪．

ギフチョウ

チョウ目アゲハチョウ科
Luehdorfia japonica Leech

福井県カテゴリー 県域絶滅危惧 類

環境省カテゴリー 絶滅危惧 類



● 種の特性

福井県では，平野部で3月下旬，奥越の山間部で4月下旬より成虫が出現し，スミレ，サクラ，ショウジョウバカマ，カタクリなどの花に訪れる．母蝶はウマノスズグサ科のカンアオイ，ヒメカンアオイ，フタバアオイの新葉の裏面に十数個の卵をまとめて産む．

● 生息状況

日本特産種で，本州中部以南に分布する．

本県全域に広く分布し，生息地は主に標高500m以下の落葉広葉樹林である．特にコナラを主とした二次林では，発生個体数が多い．

● 存続を脅かす要因

本種は春の女神と称され，昆虫マニアの人气が高く，毎年県外からも採集者が訪れている．よって，採集圧の高い地域では，個体数の減少を引き起こす恐れがある．

嶺北地方の山間部の個体群は，生息環境や生態が平野部と違っており，自然林内に生息していることから，森林伐採も個体数の減少を引き起こす．

● 参考文献

福井県．1999．福井県のすぐれた自然 動物編．452pp．福井県．
福井県自然環境保全調査研究会昆虫部会．1998．福井県昆虫目録(第2版)．556pp．福井県．
井崎市左エ門．1955．福井県の蝶．福井県博物同好会会報，(2)：45-55．福井市立郷土自然科学博物館．
川副昭人・若林守男．1976．原色日本蝶類図鑑．422pp．保育社．大阪．

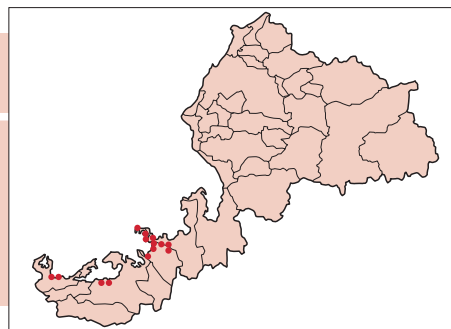
ツマグロキチョウ

チョウ目シロチョウ科

Eurema laeta bethesba Janson

福井県カテゴリー 県域絶滅危惧 類

環境省カテゴリー 絶滅危惧 類



- 種の特性

黄色地に前翅端外縁に黒色斑を有し、季節により翅形が変化する。多化性で暖地では年4～5回、寒冷地では3～4回と推定される。幼虫はカワラケツメイ（マメ科）を食し、成虫で越冬する。県内での消長や幼生期に関する記録はない。

- 生息状況

本州、四国、九州、南西諸島に分布するが、本州では宮城県南部が太平洋側の北限となる。日本海側では福井県西部が土着の北限であろう。県内では敦賀半島以西の海岸沿いで観察できるが、局所的で個体数も少ない。

- 存続を脅かす要因

- 参考文献

川副昭人ほか．1976．原色日本蝶類図鑑．保育社．大阪．

井崎市左工門．1955．福井県の蝶．福井県博物同好会会報（2）：45-55．福井市立郷土自然科学博物館．

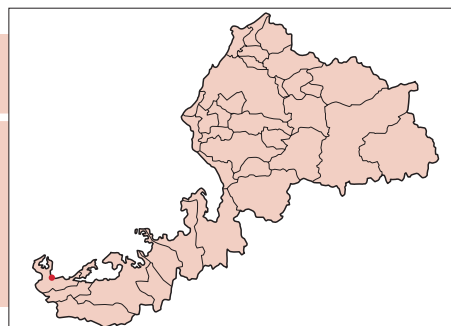
ウラナミジャノメ

チョウ目ジャノメチョウ科

Ypthima multistriata nipponica Murayama

福井県カテゴリー 県域絶滅危惧 類

環境省カテゴリー 絶滅危惧 類



- 種の特性

茶褐色の地色に眼状紋を有する小型のジャノメチョウで、福井県が西北限の生息地となる。明るい疎林や乾性草原に生息し、地域により年1～2回発生する。

- 生息状況

暖地性の種で本州、四国、九州に分布する。国外では中国北部、朝鮮にも分布。県内では、遠敷郡野木村、大飯町三ツ松からの古い記録があるが、その後は一度も確認されていない。全国的にみても草原性の種は減少傾向にあり、本県では絶滅した可能性が高い。

- 存続を脅かす要因

土地利用の転換等による生息環境の改変が脅威となるが、新しいデ・タが全くないので保全すべき地域の特定ができない。

- 参考文献

福井県．1999．福井県のすぐれた自然 動物編．452pp．福井県．

福井県博物学会．1938．原色福井県昆虫図譜．福井県博物学会．

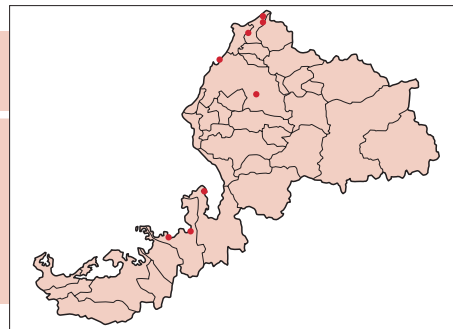
井崎市左工門．1955．福井県の蝶．福井県博物同好会．（2）：45-55．福井市郷土自然科学博物館．

ムスジイトンボ

トンボ目イトトンボ科
Cercion sexlineatum (Selys)

福井県カテゴリー 県域準絶滅危惧

環境省カテゴリー ——



● 種の特性

平地の浮葉植物や沈水植物などの繁茂する池沼に生息する南方系種で、海岸部に近い開けた水域を好む傾向がある。成虫は5～10月にかけて連続的に見られ、夏期に出現する個体はやや小型である。セスジイトンボと誤同定の起きやすい種類であるため、雄では尾部付属器、雌では前胸後縁の形状で確実に同定する必要がある。

● 生息状況

国内では宮城県以南の本州、四国、九州、琉球列島などに分布する。内陸部では少なく、日本海側では富山県が東限となっている。

県内では芦原町、三国町、福井市、敦賀市、美浜町の海岸部に近い限られた水域で記録されているに過ぎず、同様に沿岸部を中心に記録されているアオモンイトトンボに比べて生息地が更に限定される傾向がある。ただし、本種は海岸部や河口付近に一時的に生じた水域で突然見られるようになることもあり、温暖化の進行とともに県内の分布が今後拡大する可能性もある。

● 存続を脅かす要因

本種の生息地は平野部の不安定な水域であることが多いため、常に埋め立て、改修、水質悪化の危険に曝されている。嶺南地方のある養魚用溜池では、一時極めて多産したが、水面に繁茂するヒシの除去に伴い激減したという例もある。

● 参考文献

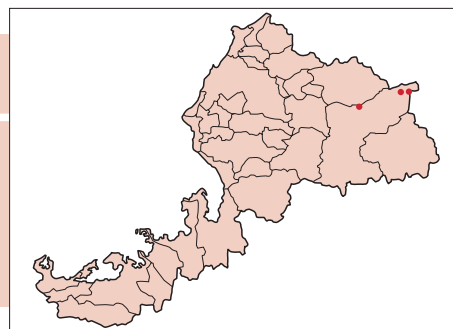
福井県自然環境保全調査研究会編．1999．福井県のすぐれた自然 動物編．452pp．福井県．
和田茂樹．2001．福井県におけるトンボ類の生息地の現状．Ciconia．(9)：37-42．福井県自然保護センター．

ルリイトンボ

トンボ目イトトンボ科
Enallagma boreale circulatorum Selys

福井県カテゴリー 県域準絶滅危惧

環境省カテゴリー ——



● 種の特性

寒冷地の植生豊かな池沼に生息する北方系種で、福井・岐阜県境付近が国内の分布南西限となっている。大野市刈込池では成虫は6～9月に出現する。雌には青色型と緑色型の2型があるが、刈込池では前者の割合が高い。

● 生息状況

国内では北海道と福井・岐阜県境以北の本州に分布する。本州では比較的標高の高い地域に分布が限られるが、石川県では標高約50mの低地に生息する例が知られる。

県内では大野市小池、刈込池のみが知られていたが、2001年に大野市南六呂師の溜池でも発見された。

● 存続を脅かす要因

県内最大の産地である刈込池には今のところ生息を脅かす要素は存在しないが、大野市に隣接する岐阜県の池では、人為的に持ち込まれたコイの捕食圧により激減している例が報告されている。

刈込池には極めて多産するが、小池（下小池）では、周辺の環境変化のためか、近年はかなり減少している。

● 参考文献

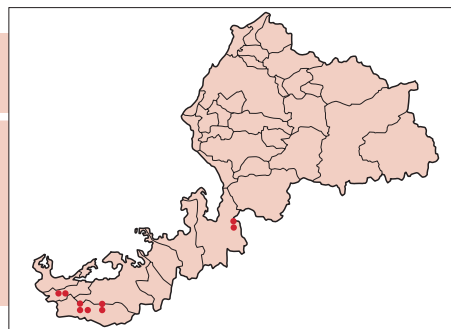
福井県自然環境保全調査研究会編．1999．福井県のすぐれた自然 動物編．452pp．福井県．
杉村光俊・石田昇三・小島圭三・石田勝義・青木典司．1999．原色日本トンボ幼虫・成虫大図鑑．xxxv＋917pp．北海道大学図書刊行会、札幌．
和田茂樹・長田 勝．1995．1995年に福井県で採集したトンボ類．福井市自然史博物館研究報告，(42)：81-88．

アオハダトンボ

トンボ目カワトンボ科
Calopteryx japonica Selys

福井県カテゴリー 県域準絶滅危惧

環境省カテゴリー —



● 種の特性

主に平地や丘陵地の、水生植物が繁茂する清流に生息している。
幼虫は、流れの中の植物につかまって生活している。

● 生息状況

日本、朝鮮半島から中国東北部、アムール川以東のシベリアに、分布している。国内では、本州、九州に分布している。

本県では、敦賀市、名田庄村、大飯町に分布している。生息地の限られた種である。名田庄村の南川では、個体数が多く普通に観察することができる。県内では、5月末～7月下旬にかけて成虫が見られる。

● 存続を脅かす要因

清流に生息する種であるため、汚水の流入等、河川の水質悪化に影響を受けやすい。

南川では、河川内に過度に繁茂するツルヨシにより、近年生息環境が著しく変化し個体数が、減少してきた地域も見られる。

● 参考文献

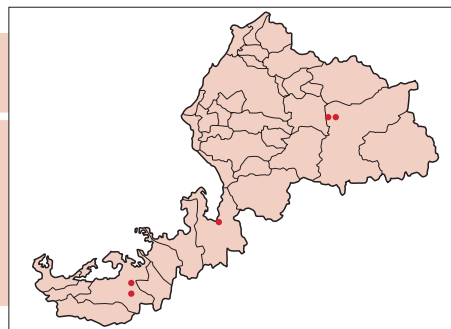
福井県．1999.福井県のすぐれた自然 動物編．452pp.福井県．

キイロサナエ

トンボ目サナエトンボ科
Asiagomphus pryeri Selys

福井県カテゴリー 県域準絶滅危惧

環境省カテゴリー —



● 種の特性

平地や、丘陵地、低山地の流れ（中流域）に生息している。

幼虫は、流れの緩やかな砂泥底に住み、泥の中に浅くもぐったり、岸边植物の根ざわや植物性沈積物の下などに潜んでいる。

● 生息状況

日本特産種であり、本州、四国、九州、種子島に分布している。

本県では、大野市、敦賀市、小浜市、松岡町から記録されている。成虫は、5月中旬から7月下旬にかけて見られるが、産地・個体数とも少ない。

● 存続を脅かす要因

幼虫の生息環境には、良質な泥質地の小川や流れが必要であり、河川改修工事などによる生息環境の改変が脅威となる。

生息河川への汚水の流入等による水質の悪化や農薬等の流入は、生息環境の悪化につながる。

● 参考文献

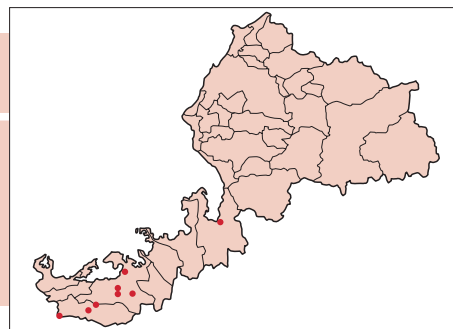
福井県．1999．福井県のすぐれた自然 動物編．452pp．福井県．

タベサナエ

トンボ目サナエトンボ科
Trigomphus citimus tabei Asahina

福井県カテゴリー 県域準絶滅危惧

環境省カテゴリー —



● 種の特性

平地，丘陵地の浅い小川や灌漑用溜池に生息している。
幼虫は，挺水植物の根際や水底の泥の中に浅く潜って生活している。

● 生息状況

朝鮮半島から中国東北部にかけて分布するタイリクタブサナエの日本特産亜種で，本州，四国，九州，壱岐に分布している。静岡県，愛知県，岐阜県，福井県より以西の各地に分布している。
本県では，敦賀市，小浜市，名田庄村から記録されている。成虫は，4月下旬～6月中旬にかけて見られる。
南川では，堰堤の上流部に生じた止水域に生息が見られる。

● 存続を脅かす要因

幼虫の生息環境が，水田周辺になるため農薬の影響を受けやすい。休耕田の増加に伴い，小川や溝川への泥の補給が減少し，幼虫の生息環境が少なくなっている。
近年，溜池の改修工事や水田の田場整備等が増加しており，生息域が少なくなっている。

● 参考文献

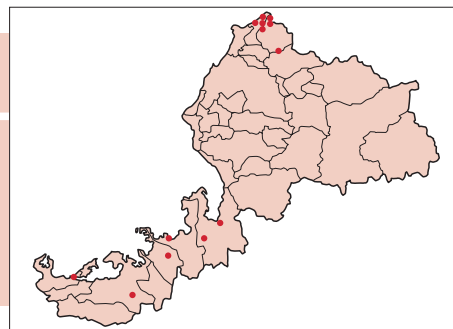
福井県．1999．福井県のすぐれた自然 動物編．452pp．福井県．

アオヤンマ

トンボ目ヤンマ科
Aeschnophlebia longistigma Selys

福井県カテゴリー 県域準絶滅危惧

環境省カテゴリー —



● 種の特性

平地～丘陵地のヨシやマコモなどの繁茂する池沼や湿地に生息し，幼虫は抽水植物や水底の沈殿物につかまっている。

成虫は，全身が黄緑色をした美しい中型のヤンマで，5～8月に現れる。未熟成虫は発生地周辺の草原で摂食活動を行う。成熟雄はヨシやマコモなどの間を潜るように飛翔して雌を探し，雌は単独で挺水植物の茎のやや高い位置に産卵する。

● 生息状況

北海道，本州，四国，九州などに分布するが，産地は限られている。
県内では，芦原町，金津町，敦賀市，美浜町，三方町などで6月上旬から7月下旬に記録があるが，生息地は限られている。
三方五湖周辺，北潟湖周辺，敦賀市中池見湿地では多産記録がある。

● 存続を脅かす要因

中池見湿地ではかつて多産したが，アメリカザリガニが侵入し増殖するに従い，次第に記録されなくなり，1995年以来観察例がなくなった。

● 参考文献

福井県自然環境保全調査研究会昆虫部会編．1998．福井県昆虫目録(第2版)．556pp．福井県．
和田茂樹．2000．中池見湿地のトンボ相．中池見湿地(福井県敦賀市)学術調査報告書 - 第二次学術調査結果の報告 - : 18-50．

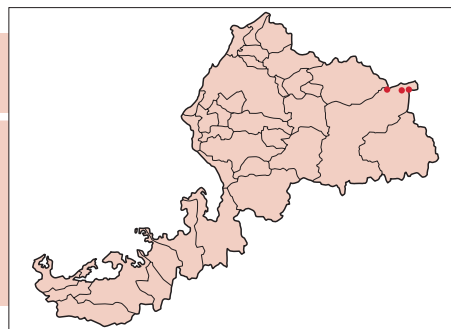
カラカネトンボ

トンボ目エゾトンボ科

Cordulia aenea amurensis Selys

福井県カテゴリー 県域準絶滅危惧

環境省カテゴリー —



● 種の特性

低地から山地の寒冷な湿原や水生植物の多い池沼に生息し、雄は池の岸に沿って往復飛翔しながら縄張りを形成し、雌を見つけると交尾する。雌は、草が覆い被さっているような水面を単独で打水産卵する。成虫は6～8月に見られ、全身が唐金色した小型でややがっしりしたトンボである。

● 生息状況

北海道と本州の東北・上信越・北陸の山岳地帯に生息し、福井県が南西限である。県内では、大野市刈込池、下小池、赤兎山の赤池で6月を中心に観察されるだけで、分布は限られているが、個体数は多い。

● 存続を脅かす要因

分布が限られているため、生息地の保全が必要不可欠である。最近の登山ブームで、いずれの生息地も登山客が増加しており、生育環境の悪化が懸念される。

● 参考文献

福井県．1999．福井県のすぐれた自然 動物編．452pp．福井県．

福井県自然環境保全調査研究会昆虫部会編．1998．福井県昆虫目録(第2版)．556pp．福井県．

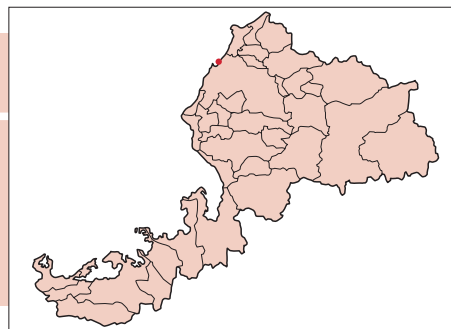
エゾエンマコオロギ

バッタ目コオロギ科

Teleogryllus yezoemma (Ohmachi et Matsuura)

福井県カテゴリー 県域準絶滅危惧

環境省カテゴリー —



● 種の特性

県内で草地を中心に普通に見られるエンマコオロギに大変よく似ており、砂利のある川原の草地や海岸砂丘地帯の草地に生息している。

● 生息状況

北方系のコオロギで、日本では北海道および本州に分布する。県内では三国町三里浜から記録されているが、それ以外の地域からは全く発見されていない。三里浜ではエンマコオロギに混じって本種が見られ、日本海側における分布南限となっている。

● 存続を脅かす要因

三里浜周辺の松林および林内の下草が失われると生息しにくくなる。

● 参考文献

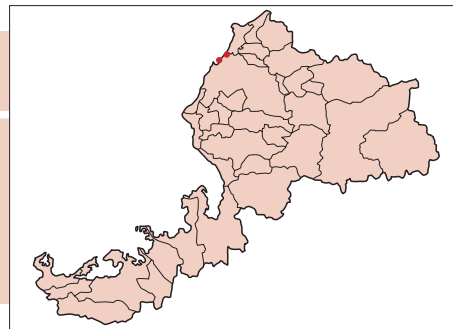
福井県．1999．福井県のすぐれた自然 動物編．452pp．福井県．

ヤマトバッタ(ヤマトマダラバッタ)

バッタ目バッタ科
Aiolopus japonicus (Shiraki)

福井県カテゴリー 県域準絶滅危惧

環境省カテゴリー —



● 種の特性

体長30～35mmで、海岸の砂浜に生息する。白っぽい地色に暗褐色の斑紋を持ち、周囲の砂に対して見事な保護色をつくっている。

● 生息状況

本州、四国、九州に分布し、8～10月にかけて海岸地域の砂浜で見られる。

本県で知られている生息地は、三国町から福井市北部にかけての三里浜のみであるが、個体数は少ない。また、海岸の砂浜を注意深く捜せば、他の地域からも発見できる可能性がある。

● 存続を脅かす要因

本種は、海岸地域の砂浜のみに生息するため、開発や浸食等で自然の砂浜海岸が減少するのに伴い、全国的に減少してきている。

砂浜への車などの乗り入れに伴い、生息地での個体数も急激に減少していくおそれがある。

● 参考文献

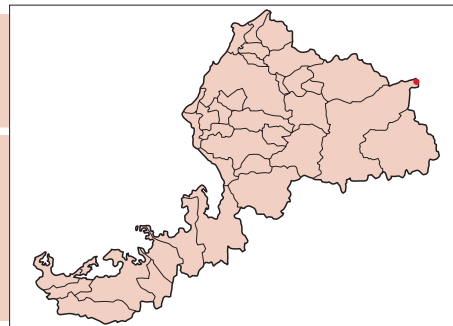
福井県．1999．福井県のすぐれた自然 動物編．452pp．福井県．

ハネナガクモマヒナバッタ (ホンシュウクモマヒナバッタ)

バッタ目バッタ科
Chorthippus supranimbis hakusanus Yamasaki

福井県カテゴリー 県域準絶滅危惧

環境省カテゴリー —



● 種の特性

本州の高山草原や高層湿原に分布し、産地により幾つかの亜種に分けられている。そのうち、白山山系に分布するものに本亜種名が付けられている。

● 生息状況

本県では大野市三ノ峰だけで見られる。分布南西限であるが、個体数は多い。

● 存続を脅かす要因

生息地は国立公園の特別保護地区内であるが、登山者の増加に伴い自然環境が悪化すると、減少する恐れがある。

● 参考文献

福井県．1999．福井県のすぐれた自然 動物編．452pp．福井県．

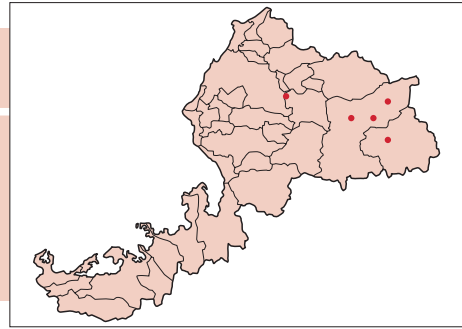
カワラバッタ

バッタ目バッタ科

Eusphingonotus japonicus (Saussure)

福井県カテゴリー 県域準絶滅危惧

環境省カテゴリー —



● 種の特性

大きな河川の砂礫地に生息する。青みがかった体色は周囲の砂礫の色と見分けが付きにくく、見事な保護色となっている。

● 生息状況

本州、四国、九州に分布するが、全国的に減少している。

本県では、美山町、大野市、和泉村の広い川原から記録されているが、分布は局所的である。広い河川を中心に調査を行えば、新たな生息地を発見できる可能性もある。

● 存続を脅かす要因

本種の生息には、石がころがる広い川原が必要であり、治水対策の実施により周期的な氾濫が起こらなくなると、川原の草原化が進み生息できなくなる。

河川敷の改修工事等にはきわめて弱い。

● 参考文献

福井県．1999．福井県のすぐれた自然 動物編．452pp．福井県．

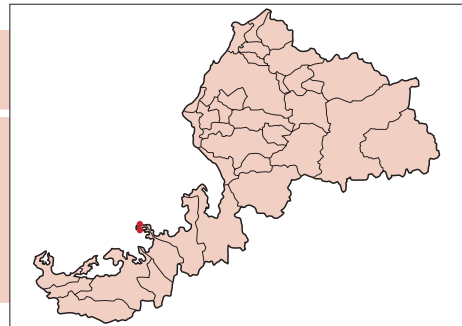
ヒメハルゼミ

カメムシ目科

Euterpnosia chibensis chibensis Matsumura

福井県カテゴリー 県域準絶滅危惧

環境省カテゴリー —



● 種の特性

体長3cm程の小型の細長いセミで、緑色の地に黒斑と緑褐色斑がまじり、腹部は主に褐色をしている。

常緑樹林のシイやイチイガシ、ブナ科の樹木との結びつきが強く、集団で同調的に「ウィーン、ウィーン」と鳴き、森全体が唸っているように聞こえる。

● 生息状況

本州、四国、九州、トカラ列島、奄美大島、徳之島に生息する暖地性昆虫で、局所的に分布しており、茨城県、千葉県、新潟県、岐阜県などでは天然記念物に指定されている。

県内では、三方町御神島が唯一の生息場所である。御神島のスダジイ林には多くの個体が生息しており、6月頃から羽化し始め、7月にはスダジイ林を揺るがすような大合唱を聞くことができる。

● 存続を脅かす要因

御神島での生息状況は、みどりのデータバンク（1985）の調査時からほとんど変化していないものと思われる。しかし、今後、サギのコロニーの拡大などの自然環境の改変が、脅威となる可能性もある。

● 参考文献

福井県．1999．福井県のすぐれた自然 動物編．452pp．福井県．

福井県自然環境保全調査研究会昆虫部会．1998．福井県昆虫目録（第2版）．556pp．福井県．

日浦勇．1993．半翅目．原色日本昆虫図鑑（下）：95-174．保育社．大阪．

宮本正一．1965．半翅目．原色昆虫大図鑑：75-112．北隆館．東京．

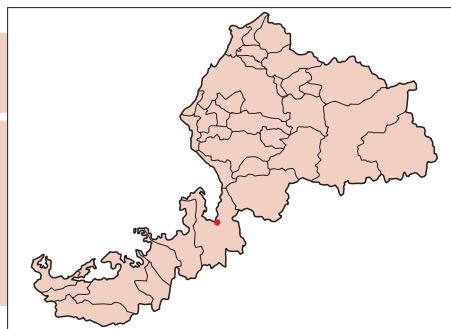
エサキアメンボ

カメムシ目アメンボ科

Gerris esakii Miyamoto

福井県カテゴリー 県域準絶滅危惧

環境省カテゴリー 準絶滅危惧



● 種の特性

体長7～11mm．鮮やかな褐色の美しいアメンボ．
水草の多い池沼の挺水植物の間に住み，開けた水面には出てこない．

● 生息状況

本州，九州の局所的な場所からしか知られていない，まれな種である．
福井県では中池見での記録のみである．

● 存続を脅かす要因

分布，生態的にも貴重な種であり，生息環境の変化等により絶滅する可能性は高い．

● 参考文献

福井県自然環境保全調査研究会昆虫部会．1998．福井県昆虫目録(第2版)．556pp．福井県．
日浦勇．1993．半翅目・原色日本昆虫図鑑(下)：95-174．保育社．大阪．
宮本正一．1965．半翅目・原色昆虫大図鑑：75-112．北隆館．東京．

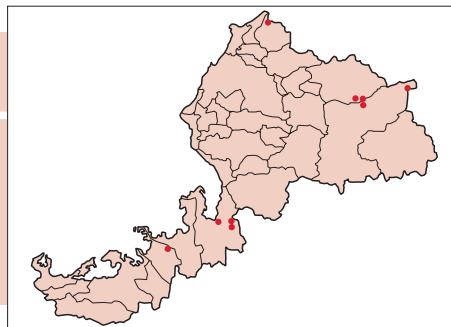
オオコオイムシ

カメムシ目コオイムシ科

Diplonychus major Esaki

福井県カテゴリー 県域準絶滅危惧

環境省カテゴリー —



● 種の特性

体長23～26mm．雄が背中に卵を背負い，孵化するまで保護する．本種は近縁種のコオイムシと比べて，濃色で，体が大きく，脚が太短く，前腿節のふくらみが強いことで識別される．
水生植物が繁茂した浅いため池，湿地，休耕田などに見られる．

● 生息状況

本州から九州に分布し，コオイムシと比べると，丘陵部から山地に多く，水深が浅くて水温が低い環境に生息する．

福井県での採集記録地はコオイムシに比べると多いが，生息地は限られてきており，局所的である．

● 存続を脅かす要因

本種はコオイムシと比べると比較的個体数も多く，分布域も広い．しかし，かつては福井県全体に分布していたであろう本種も，現在では，その分布域は局所的になってしまった．このまま水辺環境の悪化が進めば，本種の絶滅する可能性は高い．

● 参考文献

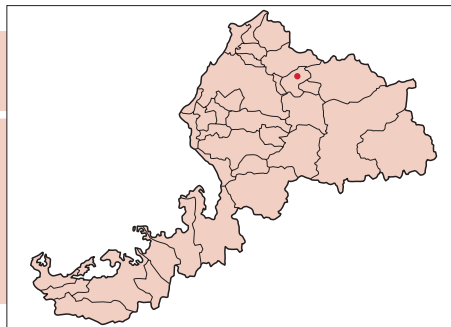
福井県．1999．福井県のすぐれた自然 動物編．452pp．福井県．
福井県自然環境保全調査研究会昆虫部会．1998．福井県昆虫目録(第2版)．556pp．福井県．
日浦勇．1993．半翅目・原色日本昆虫図鑑(下)：95-174．保育社．大阪．
宮本正一．1965．半翅目・原色昆虫大図鑑：75-112．北隆館．東京．
都築裕一．2000．水生昆虫 完全飼育・繁殖マニュアル．255pp．データハウス．東京．

シロヘリツチカメムシ

カメムシ目ツチカメムシ科
Canthophorus niveimarginatus (Scott)

福井県カテゴリー 県域準絶滅危惧

環境省カテゴリー 準絶滅危惧



● 種の特性

体長11～14mmで、体色は黒色、光沢が強く、側縁は細く黄白色に縁取られている。
イネ科植物雑草間で発見されるが少ない。

● 生息状況

本州、四国、九州に分布。福井県での記録は「福井県昆虫図譜」(1938)の永平寺町浄法寺の記録のみで、それ以後は採集されていない。

● 存続を脅かす要因

本種は個体数が少なく、地表性のため採集されにくいので、分布、生息状況の全容ははっきりしない。

● 参考文献

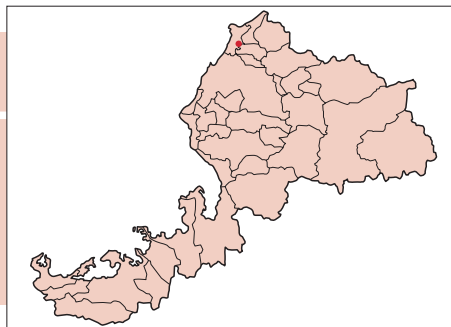
福井県自然環境保全調査研究会昆虫部会、1998、福井県昆虫目録(第2版)、556pp、福井県。
日浦勇、1993、半翅目、原色日本昆虫図鑑(下): 95-174、保育社、大阪。
宮本正一、1965、半翅目、原色昆虫大図鑑: 75-112、北隆館、東京。

コカスリウスバカゲロウ

アミメカゲロウ目ウスバカゲロウ科
Distoleon contubernalis (MacLachlan)

福井県カテゴリー 県域準絶滅危惧

環境省カテゴリー —



● 種の特性

前翅長33～35mmほどの中型のウスバカゲロウで、はね全体にカスリ状の黒色小斑を有する。河川や海岸の砂地特有の種で、幼虫は徘徊型の生活をしており、ほかの昆虫類などを捕食する。成虫は7月から10月まで見られる。

● 生息状況

本州、四国、南西諸島に分布する。県内では三国町山岸の九頭竜川河川敷からの記録しかない。記録の少なさは調査不足によるものであろう。

● 存続を脅かす要因

海岸沿いの砂地や河川敷の砂地の改変が脅威となる。

● 参考文献

福井県、1999、福井県のすぐれた自然 動物編、452pp、福井県。
伊藤修四郎ほか、1990、原色昆虫図鑑(下)、385pp、保育社。

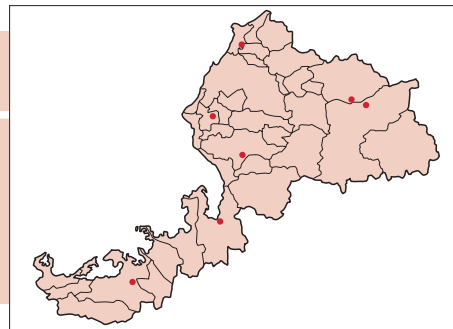
ゲンゴロウ

コウチュウ目ゲンゴロウ科

Cybister japonicus Sharp

福井県カテゴリー 県域準絶滅危惧

環境省カテゴリー 準絶滅危惧



● 種の特性

最大のゲンゴロウで36～42mm，鞘翅側縁が黄褐色．体下面は黄褐色で，腹部中央，各腹節前後縁が黒色となる．

● 生息状況

北海道から九州まで，朝鮮半島，中国，台湾，シベリアに広く分布し，かつては普通種であったが，近年非常に少なくなった．福井県でも1938年発行の「昆虫図譜」では県下一円に分布とされていたが，最近の記録は織田町，武生市白崎，大野市六呂師，勝山市赤尾，敦賀市中池見などで確認されている．しかし従来に比べると激減しているので，十分の注意が必要である．

● 存続を脅かす要因

水田での農薬使用と水路のコンクリート護岸が重要な要因と考えられる．また，大型の肉食昆虫は農薬の濃縮を最も受けやすく，タガメやトンボと同じようにゲンゴロウもその頂点にある．

● 参考文献

福井県．1999．福井県のすぐれた自然 動物編．452pp．福井県

福井県自然環境保全調査研究会昆虫部会編．1985．福井県昆虫目録．404pp．福井県．

福井県自然環境保全調査研究会昆虫部会編．1998．福井県昆虫目録(第2版)．556pp．福井県．

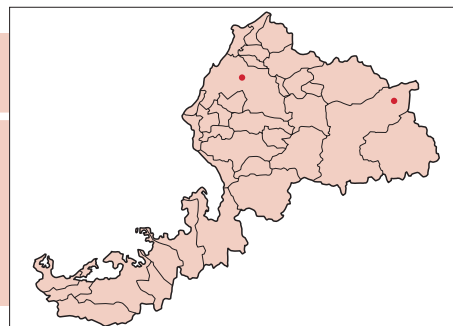
オオクワガタ

コウチュウ目クワガタムシ科

Dorcus hopei (E.Saunders)

福井県カテゴリー 県域準絶滅危惧

環境省カテゴリー 準絶滅危惧



● 種の特性

体長は雄で約30～70mm前後，雌で約25～40mm．日本産クワガタの中では最大級．しかし，大型の個体は少なく，一般では小～中型の個体が多い．

西日本では低山のクヌギ林に生息しているが，東北では山間のブナ帯に進出している．かなり状態の良い朽ち木で成育し，夜間のみに活動する．

● 生息状況

北海道南部から九州，対馬に分布する．

本県では福井市内の里山林と大野市だけで知られる．前者は近年の記録で，当地は低山でクヌギ林が残っている．後者は古い記録であるが，当地はブナ帯で，ヒメオオクワガタ等の寒冷地傾向の昆虫相で知られ，本種の一般的な生息環境とは異なるため，記録に疑問の余地が残る．しかし，上記のように寒冷地ではブナ帯にも進出していることから，否定できない．例えば，当地付近には暖地傾向で知られるオオゴキブリやシワナガゴミムシダマシの記録がある．

● 存続を脅かす要因

本種の生息に適する里山環境の開発．

繁殖方法はほぼ確立されているようだが，業者やブームに乗ったマニアの採集圧が高い．

● 参考文献

福井県．1999．福井県のすぐれた自然 動物編．288pp．福井県．

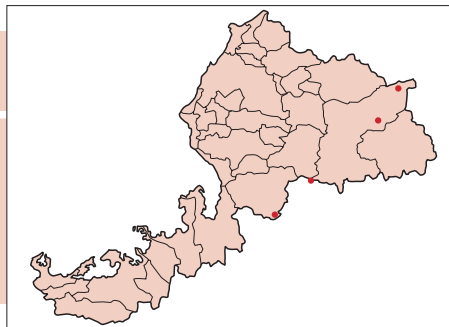
オオチャイロハナムグリ

コウチュウ目コガネムシ科

Osmoderma opicum Lewis

福井県カテゴリー 県域準絶滅危惧

環境省カテゴリー 準絶滅危惧



● 種の特性

体長約20～30mm．重量感のある大型のコガネムシ．全体濃褐色，腹部は膨らみ，背面から見える．頭部は小さく，前胸は小柄で前半中央に縦溝を持つ．一見，カブトムシの雌に似るが，前胸は小さく，鞘翅幅より明らかに狭い．

梅雨後半から初秋に掛けて出現する．保存状態の良いブナ帯に生息し，広葉樹の太い朽ち木の洞内で成育する．普段はあまり洞からは離れず目に付かないが，特に雨上がりに飛翔し，時に燈火に飛来する．体から独特の匂いを発し，本種が潜んでいる洞周辺に漂っているという．

● 生息状況

本州，四国，九州，屋久島に分布する．

本県では大野市，今庄町，池田町で記録されている．大野市仏原ダムでは灯りに飛来したものや，同市池ヶ原では洞内のフレークから幼虫が採集された記録がある．

● 存続を脅かす要因

本種は太い朽ち木のみで成育するが，このような朽ち木の成り立ちには長い年数を必要とし，古くから伐採されずに残された森林を土台とする．現在，本種が確認された地域は過度な伐採は行われていないが，このような生息環境の改変は，本種の存続を脅かす．

● 参考文献

福井県．1999．福井県のすぐれた自然 動物編．452pp．福井県．

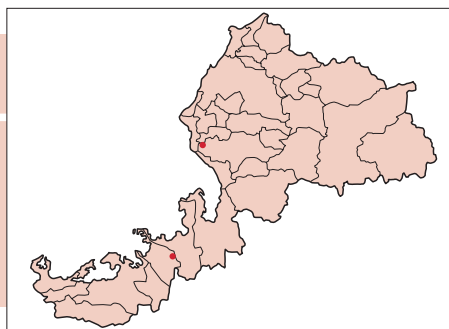
サビナカボソタマムシ

コウチュウ目タマムシ科

Coraebus ishiharai Y.Kurosawa

福井県カテゴリー 県域準絶滅危惧

環境省カテゴリー —



● 種の特性

体長約12mm．中型のやや細長いタマムシ．全体銅色で，鞘翅には断続的な白い横帯があり，翅端前の2本はやや明瞭で波状．

低山地に生息し，初夏に出現する．かつては極めてまれな種であったが，寄主がヤマボウシで，成虫もその花や若葉に来ることが判明してから，時折報告されるようになった．

● 生息状況

本州，九州に分布するが，局所的．

本県では特別自然度の高いとは思えない，幾つかの低山地で得られている．三方町雲谷山では，6月に伐採後の尾根でヤマボウシの叩き網で採集された．本種の寄主であるヤマボウシは，低山地に生える中～高木で少なくない．日当たりの良い開けた尾根や林縁に見られ，自然度の高い森林より，伐採後の回復しつつある林に顕著である．

● 存続を脅かす要因

森林の強度の伐採は本種の存続に悪影響を与える．

● 参考文献

福井県．1999．福井県のすぐれた自然 動物編．452pp．福井県．

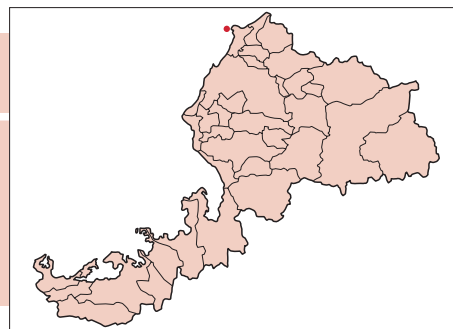
オシマヒメテントウ

コウチュウ目テントウムシ科

Nephus oshimensis Sasaji

福井県カテゴリー 県域準絶滅危惧

環境省カテゴリー —



● 種の特性

体長1.4～2.0mm．地色が黒色の小型のヒメテントウで，鞘翅各翅に1つの淡色赤紋を有する．触角，口器が橙褐色で，雄の前胸背板に淡色部があることなどで，近縁の種と区別できる．

三国町雄島をタイプ産地として記載された．

日当たりのよいササの群落に生息するという生態的特徴を持つ．

● 生息状況

本州に分布するが少ない．

本県では，三国町雄島でのみ記録されているが，全島的に分布しているわけではなく，ササの群落に見られる．

● 存続を脅かす要因

生息場所はササ群落に限られるため，ササが刈り取られてしまうと，本種の地域個体群の絶滅につながりかねない．

● 参考文献

福井県．1999．福井県のすぐれた自然 動物編．452pp．福井県．

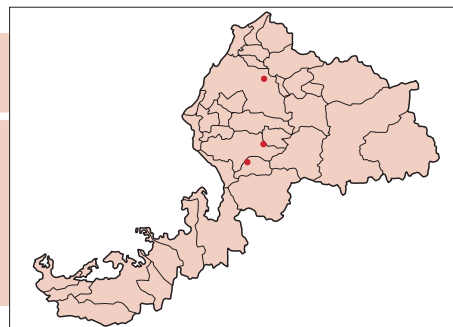
セアカオサムシ

コウチュウ目オサムシ科

Hemicarabus tuberculosus (Dejean et Boisduval)

福井県カテゴリー 県域準絶滅危惧

環境省カテゴリー —



● 種の特性

体長約20mm．小柄で美しいオサムシ．全体黒色，前胸は鈍い赤褐色で，鞘翅は細く金色に縁取られる．脚と触角は他のオサムシ類と比較して太く短め，鞘翅に大きな顆粒の列を持つ．

生息環境は河原，雑木林，高原と幅広く，どうやら広く分布するが，局所的に集中する性質を持っているらしい．後翅が無く飛べないが，灯火にも来る．

● 生息状況

北海道から九州までに分布し，一般的には少ない．北海道産は他産地とやや形質が異なる．

本県では特に坂井平野の九頭竜川河川敷に集中的に生息している．活動期は越冬期と夏期を除き長い．ごく最近の分子系統解析によれば，福井県産は国内の他産地のものとは特異な経緯を持っているらしい．

● 存続を脅かす要因

色彩や彫刻が美しく，採集圧による個体減少が懸念される．

河川敷の開発による自然環境の改変により生息環境が狭められている．

● 参考文献

福井県．1999．福井県のすぐれた自然 動物編．452pp．福井県．

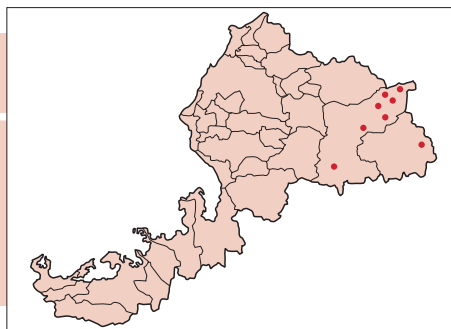
ツネキアリバチモドキ

ハチ目アリバチ科

Myrmosa mogolica tsunekii Haneda

福井県カテゴリー 県域準絶滅危惧

環境省カテゴリー —



● 種の特性

1979年に大野市嵐産の標本に基づいて記載された雌雄異形のハチである。

雄は体長約1cm, 全体が黒色で翅があり良く飛び回る。雌は5mmたらずで体の大部分が赤褐色, 翅がなくアリに似て地上を歩き回る。地中に巣を作る小型アナバチ類に寄生すると考えられる。

● 生息状況

岩手, 福島, 栃木, 群馬, 新潟, 長野, 石川, 福井県など, 本州の中部地方以北の山地に分布する。

県内では大野市小池, 赤兎山, 鳩ヶ湯, 嵐, 下打波, 荒島岳, 平家平, 和泉村田茂谷, 下半原など, 奥越地方の山地にしか生息していない。7月下旬～9月下旬まで登山道の路上に姿を現す。

● 存続を脅かす要因

宿主である小型アナバチ類の営巣地は, 適度に踏み固められた裸地である。したがって, 山道の環境の変化が本種の盛衰を左右する。

登山道の大規模な補修, 舗装や車の乗り入れが, 本種の生存を脅かしている。

また, 山道が放置されて藪化すると, 小型アナバチ類は営巣できなくなり本種も生息しなくなる。

● 参考文献

福井県. 1999. 福井県のすぐれた自然 動物編. 452pp. 福井県.

福井県自然環境保全調査研究会. 1985. 福井県昆虫目録. 404pp. 福井県.

福井県自然環境保全調査研究会. 1998. 福井県昆虫目録(第2版). 556pp. 福井県.

羽田義任. 1980. ツネキアリバチモドキについて. 蜂友通信. (10): 1-4. 日本蜂類研究会.

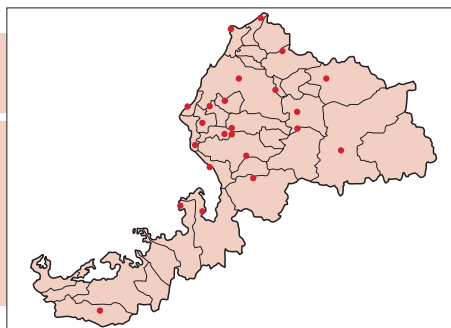
フクイアナバチ

ハチ目アナバチ科

Sphex inusitatus fukuianus Tsuneki

福井県カテゴリー 県域準絶滅危惧

環境省カテゴリー 情報不足



● 種の特性

1957年に福井県勝山市産の標本により記載された大型のアナバチで, 体長30mm前後, 体全体が黒色で, 顔面も黒い長毛で覆われ, 翅も全体が黒ずんでいる。近似種のクロアナバチとは, 顔面の黒色毛と翅の黒みがより強いことで容易に識別できる。

山道の道路脇, 人家の庭や空き地などの地中に営巣し, 幼虫の餌にバッタ目のハネナシコロギスを狩る。

● 生息状況

福井県その他, 新潟, 京都, 岡山, 広島, 鳥取県から記録されている。

本県では, 近年の詳しい調査により23市町村に広く生息していることが明らかになった。海岸近くから標高約500mの中山帯まで分布する。

● 存続を脅かす要因

山道の大がかりな補修, 人家の庭のコンクリート舗装などで, 本種の営巣適地が少なくなりつつある。獲物のハネナシコロギスは雑木林の樹上生活者なので, 里山の雑木林の減少も本種の生息に影響する。

● 参考文献

羽田義任・野坂千津子・黒川秀吉. 2001. 福井県勝山市北谷町谷の有刺蜂類. 福井虫報, (29): 17-27. 福井昆虫研究会.

室田忠男. 1991. フクイアナバチの新産地について. あられがこ, (29): 31-33. 福井生物研究会.

室田忠男. 1998. 福井県におけるフクイアナバチについて. 福井虫報, (23): 1-7. 福井昆虫研究会.

室田忠男・野坂千津子. 1993. フクイアナバチの新分布地について. あられがこ, (31): 13-18. 福井生物研究会.

野坂千津子. 2001. 足羽山の有刺蜂類追加. 福井虫報, (29): 37-38. 福井昆虫研究会.

奥野政裕. 1992. フクイアナバチの新産地. あられがこ, (30): 19. 福井生物研究会.

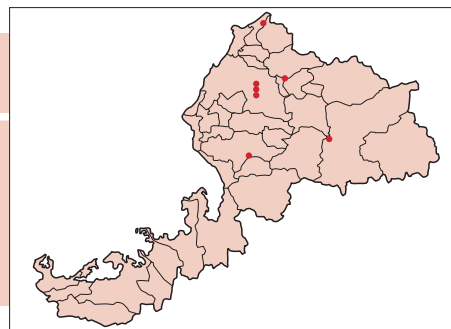
フジジガバチ

ハチ目アナバチ科

Ammophila atripes japonica Kohl

福井県カテゴリー 県域準絶滅危惧

環境省カテゴリー —



● 種の特性

雌は体長30～35mm，雄は体長25～30mmある。雌の体は黒色で，腹部は藍色を帯び，触角柄節の中央，腹部柄節の第1節の両端を除いた大部分，第2節の基部を除いた大部分，脚の大部分などは赤褐色である。雄は腹柄の第2節の下半分が赤褐色で，他は黒色である。

低山地の裸地に坑道を掘り，ヤガ科のウスムラサキクチバの幼虫を狩ることが知られている。

● 生息状況

日本，朝鮮，中国，台湾から広く南方に分布するが，沖縄以南のものは日本本土のものとは亜種を異にする。日本では本州，四国，九州に生息するが，各地とも数少ない種である。

本県では芦原町，福井市，松岡町，大野市，武生市などの低山地に生息する。

● 存続を脅かす要因

山地の道路の舗装，土地造成などで営巣地が減少し，また雑木林を伐採しスギの植林がなされるなど，本種の生息環境は悪化しつつある。

● 参考文献

黒川秀吉・室田忠男．1980．福井県の蜂分布資料．蜂友通信，(12)：22-24．日本蜂類研究会．

野坂千津子．1991．フジジガバチの営巣観察．福井虫報，(8)：26．福井昆虫研究会．

奥野政裕．1969．フジジガバチ松岡に産す．生物研究，13(3-4)：43．福井生物研究会．

佐々治寛之・小室良子．1999．フジジガバチ福井大学構内から記録．福井虫報，(25)：29．福井昆虫研究会．

常木勝次．1973．フジジガバチの福井県内新産地．生物研究，17(3-4)：120．福井生物研究会．

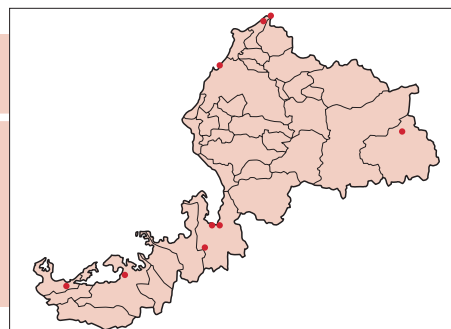
ニッポンハナダカバチ

ハチ目ドロバチモドキ科

Bembix niponica F. Smith

福井県カテゴリー 県域準絶滅危惧

環境省カテゴリー 情報不足



● 種の特性

このハチの横顔が，鼻が高いように見えるところからハナダカバチと名付けられた。世界から330種が知られている。乾燥した砂地での代表種。

ほとんどの種が，大型のアブ，ハエ類を狩る。乾燥した砂地や，かなり堅い地中にも多くは集団的に営巣する。最初の獲物を搬入した直後に卵を産む。母バチは入口を閉じ，ふ化するとすぐ新鮮な獲物を成長に応じて与える。この時母バチは幼虫と対面をする。ミツバチの社会生活に至る前家族生活をしている。

● 生息状況

日本には，ニッポンハナダカバチが北海道から屋久島まで見られ，南西諸島の石垣島，竹富島にはタイワンハナダカバチが分布している。

1980年代までは，県内各地の海岸，河川敷，湖畔にこのハチのコロニーがよく見られたが，急激に減少した。公園や墓地等の造成に伴い，土砂と共に運ばれた繭が，偶発的に大発生しても環境条件がそろわず消滅する。

● 存続を脅かす要因

集団で営巣する習性から，ある程度砂地の面積も要求されるが，海岸，河川敷，湖畔等の環境の改変が進んだため，このような営巣可能な良好な砂地が減少している。

● 参考文献

常木勝次．1936．ハナダカバチの習性について．関西昆虫学会会報，(7)：64-69．関西昆虫学会．

常木勝次．1948．はなだかばち研究記．303pp．札幌講談社．

Tsuneki, K. 1956-1958. Ethological studies on *Bembix niponica* Smith, with emphasis on the psychobiological analysis of behaviour inside the nest (Hymenoptera Sphecidea) ~ . Mem. Fac. Lib. Arts, Fukui Univ., (6-8)：77-172, 1-116, 1-78.

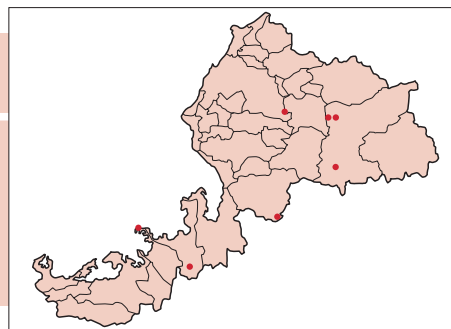
イカズチキマダラハナバチ

ハチ目コシブトハナバチ科

Nomada icazti Tsuneki

福井県カテゴリ 県域準絶滅危惧

環境省カテゴリ —



● 種の特性

1976年に常木勝次博士は大野市砂山産の雌の標本に基づきイカズチキマダラハナバチを記載し、同時に美浜町新庄産の雄の標本によりワカサキマダラハナバチを記載された。その後福井市一乗谷で多数の雌雄の標本が採集され、ワカサはイカズチの雄であることが判明した。

本種の雌は前伸腹節にいかずち（電光）型の鮮やかな黄色紋があるので、他種との識別は容易であるが、雄には黄色紋がなく際だった特徴がない。

生態的観察はなされていないが、野外観察などからヤヨイヒメハナバチに寄生すると考えられる。

● 生息状況

本州（栃木、福井、三重、岡山、島根県）、四国（愛媛県）に分布する。

本県では福井市一乗谷、大野市砂山、飯降山、巢原、今庄町夜叉ヶ池、美浜町新庄、三方町常神など低中山地に生息する。

一乗谷の生息地は手入れの良い杉林である。日光が適度に射し込む雑木林が本種の生息に適している。

● 存続を脅かす要因

里山の土地改変や放置して藪化することが脅威である。

● 参考文献

羽田義任．1985．セイヨウキマダラハナバチとイカズチキマダラハナバチの雄について．蜂友通信，(23)：1-4．日本蜂類研究会．

室田忠男．1978．福井県の蜂分布資料．蜂友通信，(7)：12-14．日本蜂類研究会．

Tsuneki, K. 1976. New species of the genus *Nomada* Scopoli in Japan. Kontyû, 44(1):49-64.

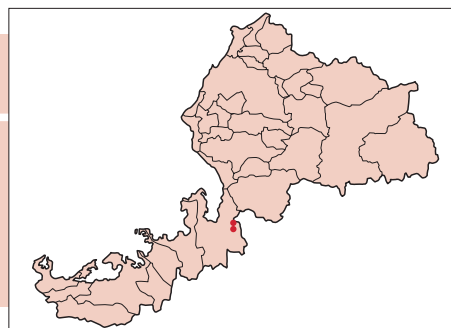
クロアシエダトビケラ

トビケラ目アシエダトビケラ科

Ganonema nigripennis (Kuwayama)

福井県カテゴリ 県域準絶滅危惧

環境省カテゴリ 準絶滅危惧



● 種の特性

体長約13mm、翅開長45mmほどの全身黒褐色のトビケラ。触角が特に長く、50mm余りもある。

山地の池沼や、ゆるい流れの中で幼虫が育つ。

● 生息状況

近畿地方の山地池沼で得られるが、他に、北九州や朝鮮半島にも生息が知られている。まれな種で、分布は局部的と言われる。

県内では、1938年、福井県博物学会刊行の原色昆虫図譜に大野市下庄村の記録があるが、今も生息するかどうかについては疑問がある。現在生息が確認されているのは、敦賀市の池ノ河内湿原だけである。

● 存続を脅かす要因

池ノ河内湿原は県指定の自然環境保全地域であり、保全が図られているが、近年は、陸地化の速度を増している。湿原周辺の自然林の伐採、開発は、土砂の流入を促進し、湿原そのものの消失を加速させ、本種の存続を脅かす。

● 参考文献

福井県博物学会．1938．原色福井県昆虫図譜．42pp．72pls．福井県博物学会．

西治 敏．1997．成虫採集による福井のカゲロウ(蜉蝣目)、カワゲラ(襀翅目)、トビケラ(毛翅目)．福井虫報．(20)：55-63．福井県昆虫研究会．

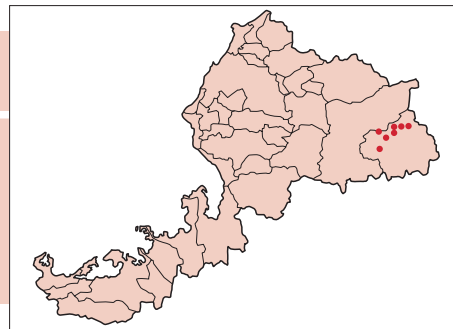
スジグロチャバネセセリ

チョウ目セセリチョウ科

Thymelicus leoninus Butler

福井県カテゴリー 県域準絶滅危惧

環境省カテゴリー 準絶滅危惧



● 種の特性

黄褐色地に翅脈上に黒色条を有する小型のセセリチョウで、年1回、7～8月に出現する。陽当たりのよい溪流沿いの草地に生息し、ヒメジオン、オカトラノオなどの花によく集まる。幼虫はカモジグサ（イネ科）などを食するが、県内での幼生期に関する観察記録はない。

● 生息状況

北海道、本州、九州と国外では中国北～中西部、アムール、朝鮮に分布する。県内では和泉村箱ヶ瀬、下大納などの溪流沿いの狭い草地に見られ個体数は少ない。今後の分布調査によって、新たな生息地の見つかる可能性は高い。

● 存続を脅かす要因

生息環境が安定しているが、生息範囲はきわめて狭いため、生息地の改変が脅威となる。

● 参考文献

下野谷豊一．1976．福井県未記録の蝶並びに異常型の蝶について．福井県博物同好会会報．(23): 31-35．
福井市郷土自然史博物館．
福井県．1999．福井県のすぐれた自然 動物編．452pp．福井県．

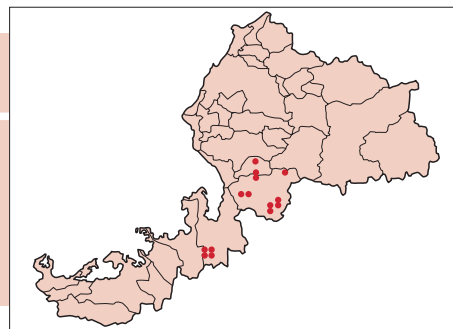
ヒサマツミドリシジミ

チョウ目シジミチョウ科

Chrysozephyrus hisamatsusanus Nagami & Ishiga

福井県カテゴリー 県域準絶滅危惧

環境省カテゴリー —



● 種の特性

雌雄異形で雄は翅表が金緑色に輝き、雌では茶褐色の地色に青藍色と橙色斑を有する。幼虫はウラジロガシを食し、年1回、6～7月に出現、卵で越冬する。

● 生息状況

日本と台湾に2亜種が分布し、国内では本州中部以西、四国、九州の温帯性照葉樹林に生息する。県内では武生市、南条町、今庄町、敦賀市、小浜市から記録がある。生息地は杉などの植林ができないような急傾斜地がほとんどで、生息範囲も限られる。これまでに確認した生息下限は標高300m前後で、それ以下では生息しない。

● 存続を脅かす要因

食樹の伐採が本種の存続には大きな影響を与える。また、越冬卵の乱獲など採集圧も脅威となる。

● 参考文献

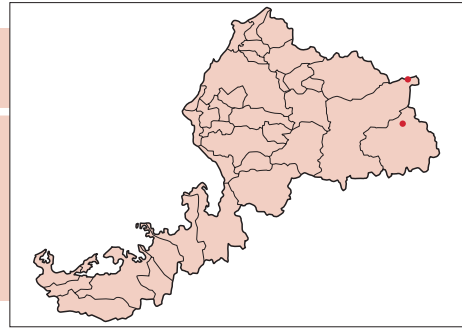
福井県．1999．福井県のすぐれた自然 動物編．452pp．福井県．
下野谷豊一．1988．ヒサマツミドリシジミ嶺北地方にも分布．だんだら(2): 22．福井むしの会．
下野谷豊一．1989．敦賀市のヒサマツミドリシジミと休眠芽に産卵のオオミドリシジミ．だんだら(3): 19．福井むしの会．

ヒメシジミ

チョウ目シジミチョウ科
Plebejus argus micrargus Butler

福井県カテゴリー 県域準絶滅危惧

環境省カテゴリー 準絶滅危惧



● 種の特性

雌雄により色彩が異なり雄の翅表は青藍色，雌では暗褐色，また，雄の表面外縁の黒色帯の幅が地域により異なる．年1回，低地では6月中旬，寒冷地では7月中旬～8月上旬に発生する．卵で越冬する．

● 生息状況

ユ・ラシア大陸北部に広く分布し，国内では北海道，本州，九州に分布する．県内からは和泉村朝日前坂と大野市三ノ峰の登山道（標高1400m付近）でそれぞれ1雄が採集されている．和泉村で記録されたものは偶産種と考えられるが，その由来は不明である．三ノ峰のものは採集地点の近くに発生地があるものと予想するが，追加記録はまだない．

● 存続を脅かす要因

本種に関しては情報不足である．

● 参考文献

川副昭人ほか．1976．原色日本蝶類図鑑．保育社．大阪．

下野谷豊一．1983．大野郡和泉村で見つかったヒメシジミ．福井県博物学会会報（30）：83-84．福井市立郷土自然科学博物館．

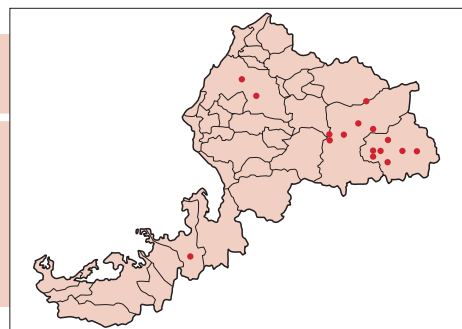
下野谷豊一．1996．ヒメシジミとクロコノマチョウの福井県からの記録．福井市自然史博物館研究報告（43）：69．福井市自然史博物館．

オオムラサキ

チョウ目タテハチョウ科
Sasakia charonda charonda Hewitson

福井県カテゴリー 県域準絶滅危惧

環境省カテゴリー 準絶滅危惧



● 種の特性

国蝶に指定されている著名な大型タテハチョウで，翅表は濃紫色と黒色地に白紋を散りばめる．やや似ているゴマダラチョウは少し小型で紫色ではない．コムラサキは紫色が弱く，翅の外縁に凹凸があるので区別に容易である．

● 生息状況

エノキを幼虫の食草とし，成虫は低山地から産地に見られ，北海道から九州まで広く分布する．福井県でも広く分布し，成虫は6月下旬から7月下旬に出現し，渓谷を緩やかに滑空し，樹液，果実に飛来する．母チョウはエノキに多数産卵し，幼虫で越冬し，翌年に成虫となる．福井市八幡山や大野市南六呂師など学生や市民観察地でも食樹のエノキを目当てに見ることができる．

● 存続を脅かす要因

食草のエノキはどこにでもあるが，人為的開発の環境に対する適応度はゴマダラチョウに比べると低く，自然度の指標生物としての有効性が高いと考えられる．地形，植生，人為的開発度などを考慮した総合的な保護施策が必要である．

● 参考文献

福井県．1999．福井県のすぐれた自然 動物編．452pp．福井県．

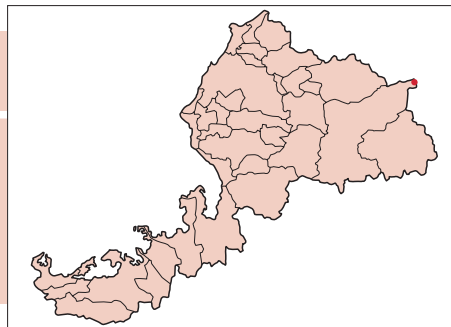
福井県自然環境保全調査研究会昆虫部会編．1998．福井県昆虫目録（第2版）．556pp．福井県．

ベニヒカゲ

チョウ目ジャノメチョウ科
Erebia nipponica yoshisakana Murayama

福井県カテゴリー 県域準絶滅危惧

環境省カテゴリー 準絶滅危惧



● 種の特性

福井県に生息する唯一の高山蝶で、茶褐色の地色に橙色の斑紋があり、雌には裏面の帯状斑が灰白色と黄褐色の2型がある。地理的変異に富み国内でも多くの亜種に分けられている。本州では高山の陽当たりのよい草原に生息し、年1回、7月下旬～8月に発生する。太陽の光には敏感に反応し、陽が照ると草の間から湧き出すように飛びだし、草上をゆるやかに飛翔する。三ノ峰のものは白山をタイプ産地とする亜種 ssp. *yoshisakana* に含まれる。

● 生息状況

北海道、本州に分布し福井県の三ノ峰が西南限の生息地である。
三ノ峰では標高1,450m あたりから上の草地に発生し個体数も多い。

● 存続を脅かす要因

三ノ峰一帯は国立公園の特別保護区の区域内にあり、十分な保護策がとられている。しかし、登山者の増加に伴う生息環境への影響には、これからも注意する必要がある。

● 参考文献

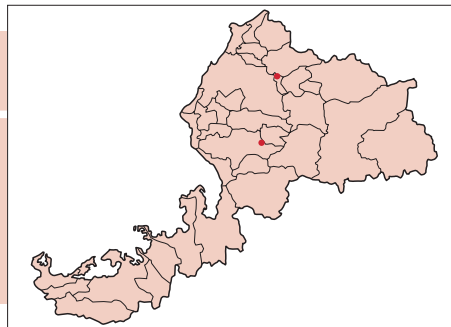
福井県．1999．福井県のすぐれた自然 動物編．452pp．福井県．
川副昭人．1976．原色日本蝶類図鑑．保育社．大阪．

アオモンギンセダカモクメ

チョウ目ヤガ科
Cucullia argentea (Hufnagel)

福井県カテゴリー 県域準絶滅危惧

環境省カテゴリー —



● 種の特性

うす緑色の地色に銀白色紋を有する美麗種で、幼虫はカワラヨモギを食する。カワラヨモギの群落のある草地に生息し、年1回、8月下旬～9月上旬に発生する。灯火にも飛来する。

● 生息状況

本州、四国、対馬に分布。県内では武生市、松岡町などからの記録がある。松岡町の九頭竜川河川敷きにはカワラヨモギの群落があり、ここでは多数の成虫を観察している。しかし、生息範囲はきわめて狭い。

● 存続を脅かす要因

河川の氾濫原の消失。

● 参考文献

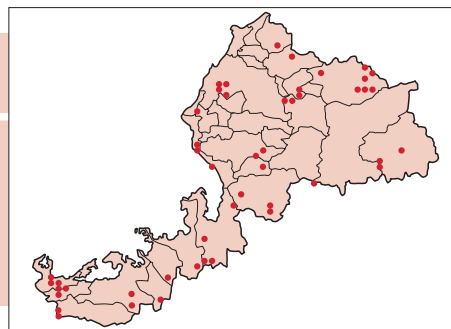
福井県．1999．福井県のすぐれた自然 動物編．452pp．福井県．
井上寛ほか．1982．原色日本蛾類大図鑑．講談社．東京．
井崎市左工門．1971．福井県産蛾類目録．井崎市左工門自刊．

ムカシトンボ

トンボ目ムカシトンボ科
Epiophlebia superstes Selys

福井県カテゴリー 要注目

環境省カテゴリー —



● 種の特性

主に山間の森林に囲まれた、河川の上流部や源流部に生息している。
幼虫は、川の流芯部の岩や石などのスキ間に、へばりつくように生活している。

● 生息状況

日本特産種であり、北海道、本州、四国、九州に分布している。離島では、奄岐の後島にも分布している。
本県では、ほぼ全市町村に点在分布している。成虫は、4月下旬～6月中旬にかけて見られる。

● 存続を脅かす要因

河川の上流部や、源流部に生息するため、これらの森林の伐採などの環境変化に影響を受け易い。
幼虫は、泥土等の流入により河川の流芯部の、岩や石のスキ間が塞がっているような環境では生息ができなくなる。また、産卵は、岸辺のウワバミソウ、フキ、ワサビ等の柔らかい組織の中やコケ等に産み込まれるため、これらの植物が生育できる環境の減少が脅威である。

● 参考文献

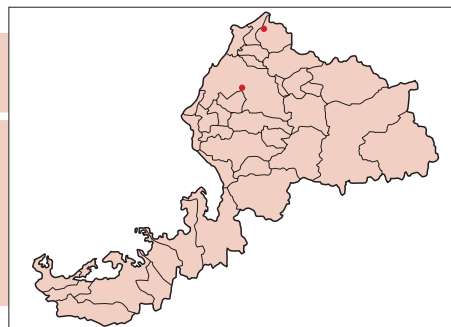
福井県．1999．福井県のすぐれた自然 動物編．452pp．福井県．

マダランマ

トンボ目ヤンマ科
Aeshna mixta Latreille

福井県カテゴリー 要注目

環境省カテゴリー —



● 種の特性

平坦地の挺水植物の多い開けた泥沼に生息する。雄は、ホバリングしながら縄張りを形成し、雌を見つけると交尾する。雌は、単独で根ぎわの部分の植物組織内などに産卵する。
腹部にルリ色や緑色の斑紋がある、美しい日本産ルリボシヤンマ属中最小型種で、9月を中心に7～10月に見られる。

● 生息状況

北海道南西部から東北、関東の一部、上信越、北陸に分布するが、産地は局地的である。
県内では、福井市西下野町と北潟湖で9月と10月に記録があるだけの、大変まれなトンボである。

● 存続を脅かす要因

福井市の西下野の池は埋立てにより消失し、同地での再確認は不可能となった。北潟湖では護岸工事による挺水植物の消失や、汚水の流入による水質悪化などが懸念される。

● 参考文献

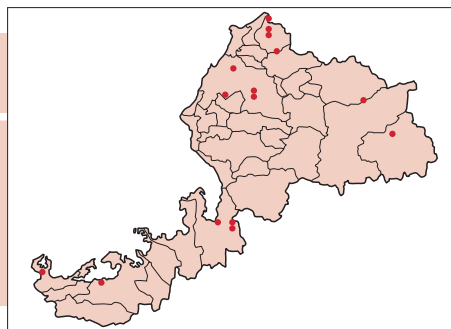
福井県自然環境保全調査研究会昆虫部会編．1998．福井県昆虫目録(第2版)．556pp．福井県．
和田茂樹．1997．1997年に福井県で採集したトンボ類．福井市自然史博物館研究報告,(44): 65-76．

エゾトンボ

トンボ目エゾトンボ科
Somatochlora viridiaenea (Uhler)

福井県カテゴリー 要注目

環境省カテゴリー —



● 種の特性

丘陵地から山地にかけての湿地や山際の滞水などに生息する中型種で、比較的草地化の進んだ廃棄水田などにしばしば生息する。幼虫は落ち葉などの堆積した滞水に潜んでいる。成虫は6～10月に出現する。

● 生息状況

国内では北海道、本州、四国、九州および隠岐などの離島に分布するが、関東以西の西南日本では産地は局地化する。

県内では金津町、福井市、大野市、和泉村、敦賀市、小浜市、高浜町などで6～10月に記録があるが、安定した生息地は限られており、生息地における個体数も多くはない。

● 存続を脅かす要因

本種は丘陵地の放棄水田という不安定な環境に依存する 경우가多く、埋立てや植生の遷移の進行が絶滅に直結するほか、成虫の摂食場所となる周辺林の伐採も脅威となる。

● 参考文献

福井県自然環境保全調査研究会昆虫部会編．1985．福井県昆虫目録．福井県．

福井県自然環境保全調査研究会編．1999．福井県のすぐれた自然 動物編．452pp．福井県．

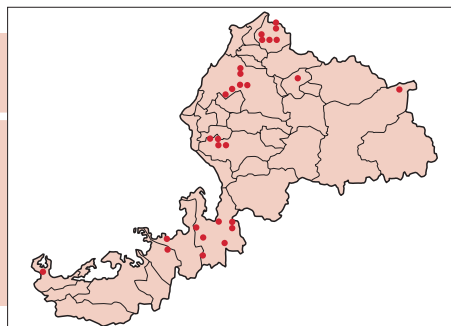
和田茂樹．2001．福井県におけるトンボ類の生息地の現状．Ciconia, (9):37-42．福井県自然保護センター．

ハッチョウトンボ

トンボ目トンボ科
Nannophya pygmaea Rambur

福井県カテゴリー 要注目

環境省カテゴリー —



● 種の特性

平地～山地の日当たりのよい湧き水のある湿地や休耕田に生息する。未熟成虫は発生地で成熟成虫とともに見られるが、遠方まで分散する個体もいる。成熟雄は湿地内の短い草に止まって縄張りを形成する。雌はしばしば雄の警護を伴い、単独で湿地内の浅い水溜りに打水して産卵する。

世界最小型種の一つで、5～8月に発生する。雄は成熟すると赤化し、雌は黄色と褐色の縞模様になる。

● 生息状況

本州、四国、九州に分布するが、産地はやや限られ、離島からの記録はない。

県内では、福井市、永平寺町、敦賀市、美浜町、三方町の丘陵地の湿地で6月上旬から7月下旬に記録されている。小型種であるがゆえに、小さな湿地からも記録されている。

● 存続を脅かす要因

かつて、大野市六呂師高原の湿地群や金津町の湿地は、本種の有名な生息地であったが、湿地の埋め立てや湿地の乾田化により、生息地は消滅した。

本種が多産するのは湧き水のある湿地という不安定な環境であるため、長年継続して生息する地点は限られている。本種の生息にとって良好なこのような湿地が、埋め立てによって消失することは、生息状況を大きく悪化させる。

● 参考文献

福井県自然環境保全調査研究会昆虫部会編．1998．福井県昆虫目録(第2版)．556pp．福井県．

和田茂樹．2000．中池見湿地のトンボ相．中池見湿地(福井県敦賀市)学術調査報告書 - 第二次学術調査結果の報告 - :18-50．

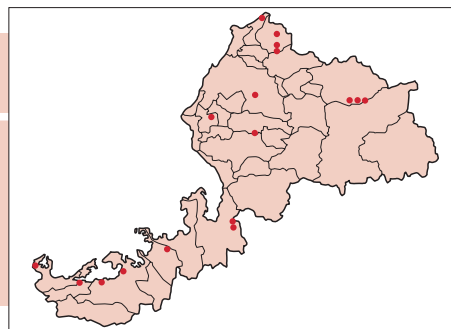
キトンボ

トンボ目トンボ科

Sympetrum croceolum croceolum (Selys)

福井県カテゴリー 要注目

環境省カテゴリー —



● 種の特性

平地や丘陵地の樹林に囲まれた池沼に生息する全身橙黄色のアカネで、水質の良い自然度の高い水域を好む傾向が強い。成虫は7～8月頃に羽化して12月まで見られる。

● 生息状況

国内では北海道、本州、四国、九州に分布する。北海道と東北地方北部および九州南部では産地がかなり局地的化し、神奈川県のよう絶滅状態にある地域も見られる。

県内では芦原町、金津町、丸岡町、福井市、勝山市、大野市、織田町、江市、敦賀市、三方町、小浜市、高浜町などで記録されているが、現存する確実な生息地はかなり限られている。小浜市荒木の生息地は、かつては1月まで成虫が見られるなど多産していたが、大きな環境の変化が見られないにもかかわらず現在ではほとんど見られない。

● 存続を脅かす要因

本種は水質が良く自然の岸辺を残した水域に生息するため、コンクリート護岸による溜池の改修が大きな影響を与えるほか、周辺林の伐採も脅威となる。肉食魚による捕食圧も懸念される。

高浜町の複数の溜池では、大規模な改修により、現在はほとんど見られなくなった。

● 参考文献

福井県自然環境保全調査研究会昆虫部会編．1985．福井県昆虫目録．福井県．

福井県自然環境保全調査研究会昆虫部会編．1998．福井県昆虫目録(第2版)．556pp．福井県．

苅部治紀．2000．神奈川県の絶滅昆虫．昆虫と自然，36(12)：31-34．

清水典之．1992．トンボ Dragonflies．70pp．自刊．

杉村光俊・石田昇三・小島圭三・石田勝義・青木典司．1999．原色日本トンボ幼虫・成虫大図鑑．xxxv + 917pp．北海道大学図書刊行会．札幌．

和田茂樹．2001．福井県におけるトンボ類の生息地の現状．Ciconia，(9)：37-42．福井県自然保護センター．

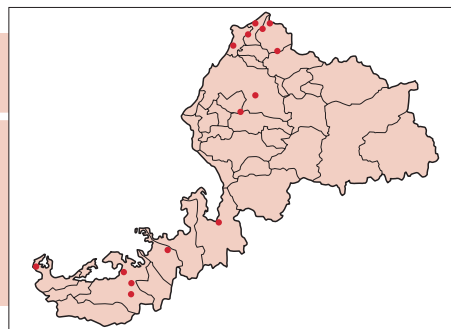
マイコアカネ

トンボ目トンボ科

Sympetrum kunkeli Selys

福井県カテゴリー 要注目

環境省カテゴリー —



● 種の特性

平地や丘陵地の挺水植物が繁茂する池沼に生息し、海岸沿いの汽水域の沼等にも生息する。

幼虫は、挺水植物の根ざわや水底の沈積物に潜んだり、泥土上にうずくまっている。

● 生息状況

日本、中国東北部、朝鮮半島に分布している。国内では、北海道、本州、四国、九州に分布している。佐渡島、壱岐などの離島にも分布している。

本県では、芦原町、金津町、三国町、福井市、敦賀市、三方町、小浜市、高浜町で記録されている。いずれの産地でも、個体数は少ない。成虫は、8月中旬～10月下旬にかけて見られる。

● 存続を脅かす要因

幼虫の生息環境は、いずれも水田の周辺になるため、溜池の改修工事や水田の圃場整備、農業等の影響を受けやすい。

● 参考文献

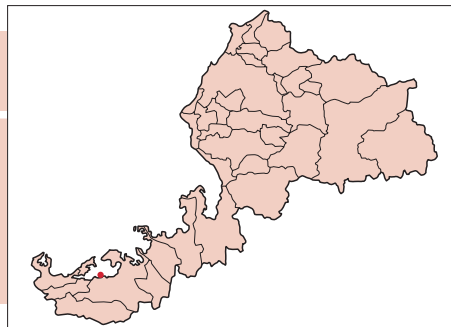
福井県．1999．福井県のすぐれた自然 動物編．452pp．福井県．

ナカジマシロアリ

シロアリ目レイビシロアリ科
Glyptotermes nakajimai Morimoto

福井県カテゴリー 要注目

環境省カテゴリー —



● 種の特性

有翅虫は体長約 6 mm，前翅長 7 mm で，光沢のある黒褐色．褐色の翅は，前縁の 3 本の翅脈が濃褐色に色付く．触角は短く，9 ～ 10 節．

暖地の海岸沿いの地域に生えるタブ，スダジイ，アカガシなどの枯れ木や生木に円形の坑道を掘って潜行する．

● 生息状況

徳島，高知，大分，宮崎，鹿児島に分布する事が知られている．他に，南紀の串本，奄美大島，小笠原諸島にも生息する．

本県では，1994 年 6 月に，小浜湾に浮かぶ蒼島の中腹で有翅虫 1 個体が採集された．この発見は，ナカジマシロアリの日本海側における最初の分布記録となった．

● 存続を脅かす要因

原生の暖地性植物群落が見られる蒼島は国の天然記念物として保護されているため，人為的な自然改変の心配はないが，サギ類やウミウが住み付いて大きな繁殖コロニーを作ることにより，自然環境が急激に改変すると，本種の存続に影響を与えと考えられる．

● 参考文献

日本しろあり対策委員会編（森本桂分担）．1980．しろあり詳説．314pp．日本しろあり対策協会．

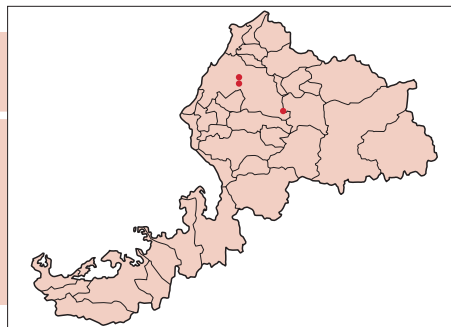
西治 敏・佐々治寛之．1994．日本海沿岸福井県蒼島でナカジマシロアリ（シロアリ目）を発見．福井虫報，（15）：61-62．福井昆虫研究会．

セッケイカワゲラ

カワゲラ目クロカワゲラ科
Eocapnia nivalis (Uéno)

福井県カテゴリー 要注目

環境省カテゴリー —



● 種の特性

全身黒色の無翅のカワゲラ．体長 8 ～ 10 mm．冬期，山地の積雪上に現れるが，高山の雪渓では夏でも見られる．成虫は雪の上を活発に歩き回り，その姿は，溪流周辺ばかりでなく，流れから遠く離れた山の尾根で見られる事もある．

成虫は，雪上の昆虫の死骸，枯れ葉，動物の糞などを食べる．

● 生息状況

青森県から兵庫県にかけて，主として日本海側の積雪地帯に分布する．低山地から高山まで生息範囲は広い．

本県では，福井市の深谷と一乗城山で記録されているに過ぎない．これらの地域では，1 ～ 2 月にかけての厳冬期に限って姿が見られる．嶺北地方には比較的分布しているものと思われる．

● 存続を脅かす要因

本種の幼虫は，山の谷間を流れる溪流の中で生育するため，自然林の大規模な伐採や護岸工事などが，脅威となる．

● 参考文献

Kawai, T. 1967. Fauna Japonica : Plecoptera. Bull. Biogeog. Soc. Jpn. 211pp. 日本生物地理学会．

西治 敏．1997a．成虫採集による福井のカゲロウ（蜉蝣目），カワゲラ（襁翅目），トビケラ（毛翅目）．福井虫報，（20）：55-63．福井昆虫研究会．

西治 敏．1997b．福井県産カワゲラ類およびトビケラ類成虫の採集記録．福井虫報，（21）：37-38．福井昆虫研究会．

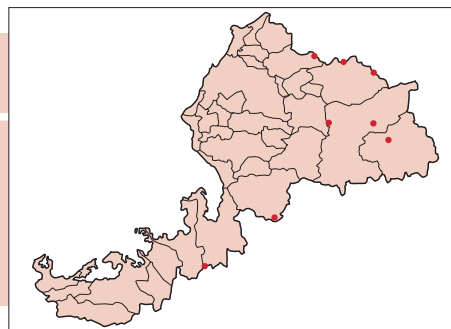
ミネトワダカワゲラ

カワゲラ目トワダカワゲラ科

Scopura montana Maruyama

福井県カテゴリー 要注目

環境省カテゴリー —



● 種の特性

トワダカワゲラ(属)は氷河時代の遺存種といわれ、特異な姿をしている。体は暗褐色で細長い円筒形をしており、幼虫では腹部第9節と10節の間に糸状の鰓束が環状に配列する。成虫は翅をもたず、体型は幼虫とほとんど変わらない。

山間の細流、水温の低い源流域で、水の落ち込む淵の周辺部、落ち葉の間などで見つかる場合が多い。

● 生息状況

トワダカワゲラは本州中部以北に分布する。本州には2種分布しているが、このうち本種は西南部に分布する。本県および滋賀県の北部が分布の西南限界域になっているものと思われる。本県では石川、岐阜、滋賀各県との県境の山地で、水温の低い源流域で生息が確認されているが、個体数は少ない。

● 存続を脅かす要因

氷河時代の遺存種で冷水域に生息しているが、今後は地球温暖化の影響で分布限界域が北上し、本県での生息も脅かされる可能性がある。また、生息数が少ないことや、移動範囲が狭く環境への適応性が低いことから、森林伐採や山地への人の立ち入り等による環境の変化で、生息が脅かされる可能性も高い。

● 参考文献

川合禎次．1985．日本産水生昆虫検索図説 積翅目134pp．東海大学出版会．

前田正紀．2001．福井陸水生物会報，(8)9pp．福井陸水生物研究会．

Uchida and Maruyama.1987. What is *Scopura longa* Uéno.1929? Zool. Sci. 4.

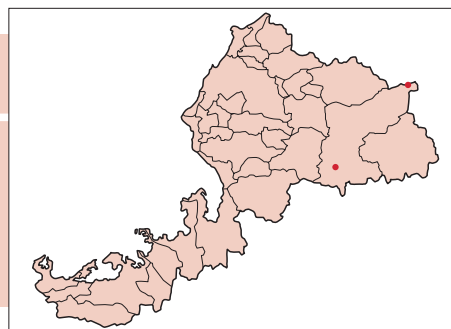
Calineuria jezoensis(Okamoto)

カワゲラ目カワゲラ科

Calineuria jezoensis (Okamoto)

福井県カテゴリー 要注目

環境省カテゴリー —



● 種の特性

全体黄褐色の、大型カワゲラの種類。体長18mm前後、翅長は約20mmある。夜間、灯火に集まる性質がある。生態についてはほとんど知られていないが、幼虫は、ブナ帯を流れる河川の砂れき底で生育すると考えられる。

● 生息状況

北海道と、山形、群馬、長野の各県から記録のある北方系の種。

福井県では、1995年8月に、大野市上小池で初めて採集され、その後、1997年8月には、同じく大野市の平家平でも記録された。ともに標高1000m前後の所である。本県は、このカワゲラの分布西南限に近いものと推測される。

● 存続を脅かす要因

ブナ帯に残された自然林の大規模な伐採や、道路工事、護岸工事などによる河川への大量の土砂の流入が、このカワゲラの存続には大きな脅威となる。

● 参考文献

Kawai, T. 1967. Fauna Japonica: Plecoptera. Bull. Biogeog. Soc. Jpn. 211pp.

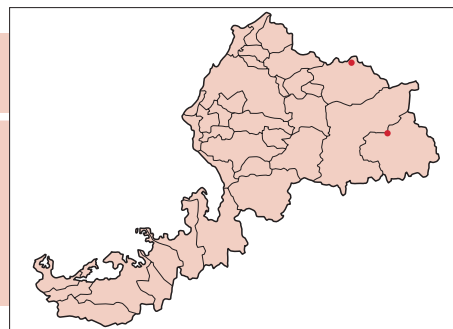
西治 敏．1997．福井県産カワゲラ類およびトビケラ類成虫の採集記録．福井虫報．(21): 37-38．福井昆虫研究会．

ミヤマノギカワゲラ

カワゲラ目ヒロムネカワゲラ科
Yoraperla japonica (Uéno)

福井県カテゴリー 要注目

環境省カテゴリー —



● 種の特性

本種の幼虫は、頭が小さく下にさがり胸部背面が広くつばさ状となる、ずんぐりした特異な形をしている。山地の、滝の飛沫などで常にぬれている湿潤な石面上にみられる。

● 生息状況

本州中部に分布し、成虫は春から夏に出現する。

本県では、奥越の山地での生息が確認されているが、生息地は限定されており、個体数も多くはない。

● 存続を脅かす要因

特異な生活環境を必要とし、県内での生息地は限定されており、生息数も少ない。

森林伐採や山地への人の立ち入り等による環境の変化で、生息環境が容易に脅かされる可能性が高い。

● 参考文献

川合禎次．1985．日本産水生昆虫検索図説 禎翅目134pp．東海大学出版会．

前田正紀．2001．本県の山地溪流に生息する水生昆虫4種について．福井陸水生物会報，(8)：8-11．福井陸水生物研究会．

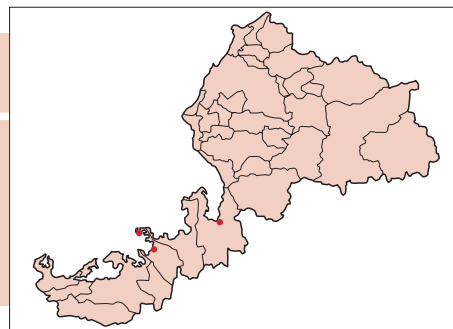
兵庫県．1995．兵庫の貴重な自然．34pp．ひょうご環境創造協会．

クチキコオロギ

バッタ目コオロギ科
Eulandrevus ivani Gorochov

福井県カテゴリー 要注目

環境省カテゴリー —



● 種の特性

体長24～43mmの大型のコオロギで、主として照葉樹林内の朽ち木の樹皮下などに見られる。

● 生息状況

暖地性の種で本州、隠岐、伊豆諸島、淡路、沼島、四国、九州、対馬、南西諸島などに分布している。

普通の採集法ではなかなか発見できず、県内では高浜町音海、三方町世久津～世久見、三方町御神島、敦賀市中池見から記録されているにすぎない。敦賀市中池見が分布北東限となっている。

● 存続を脅かす要因

照葉樹の樹皮下から採集されており、大木を含む照葉樹林が改変されると生息場所が減少する。

● 参考文献

福井県．1999．福井県のすぐれた自然 動物編．452pp．福井県．

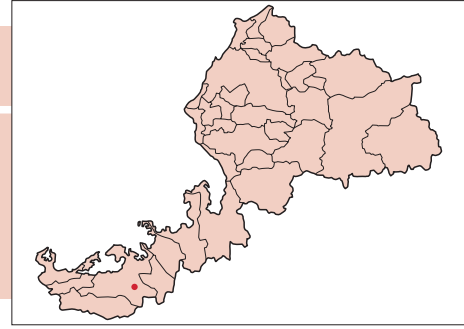
カワラスズ

バッタ目コオロギ科

Pteronemobius furumagiensis (Ohmachi et Furukawa)

福井県カテゴリー 要注目

環境省カテゴリー —



● 種の特性

体長 8 ～ 11mm の小型のコオロギ。川原の石の間に生息するが、適当な広さの砂礫地と餌となる有機物があれば生息していくことが可能で、線路の敷石の間やダムの上の石積みの中から発見された例もある。

● 生息状況

本州、四国、九州、対馬に分布する。

県内では、小浜市遠敷川（高野）のみから記録されている。しかし、石が転がる川原を探せば、もっと多くの地域で生息が確認できる可能性が高い。

● 存続を脅かす要因

川原の砂礫地に生息するため、河川の改修や川原の利用・開発行為によって生息地が減少する恐れがある。

● 参考文献

福井県．1999．福井県のすぐれた自然 動物編．452pp．福井県．

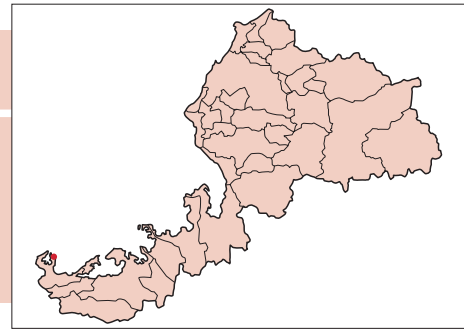
マツムシモドキ

バッタ目マツムシ科

Aphonoides japonicus (Shiraki)

福井県カテゴリー 要注目

環境省カテゴリー —



● 種の特性

バッタ目の他の多くの種と異なり、林の中の樹上に棲むため、発見が難しい。

● 生息状況

本州、四国、伊豆七島に分布する。

県内では、高浜町音海の記録があるだけで、分布北限となっている。

● 存続を脅かす要因

採集しにくいいため、県内での分布状況や生息地の環境状態を把握するところまでは至っていない。採集地の高浜町音海については、現在の環境の改変が脅威となる。

● 参考文献

福井県．1999．福井県のすぐれた自然 動物編．452pp．福井県．

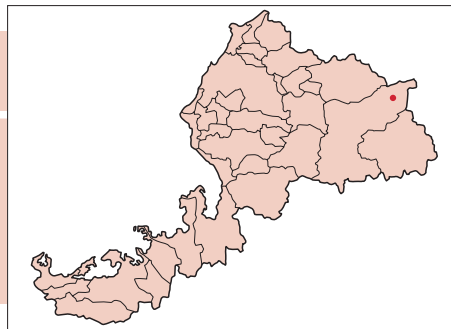
アカハネバッタ

バッタ目バッタ科

Celes skalozubovi akitanus Shiraki

福井県カテゴリー 要注目

環境省カテゴリー —



- **種の特性**
マツ林などの下草に生息するが、個体数は少ない。
- **生息状況**
本州に分布するが、産地は局限される。また、最近の採集記録がなく、再発見が望まれる。
県内では松岡町と大野市の古い記録があるだけで、ここ50年間採集記録が全くない。
- **存続を脅かす要因**
県内では絶滅した可能性があるともいわれている。
- **参考文献**
福井県．1985．福井県昆虫目録．404pp．福井県．

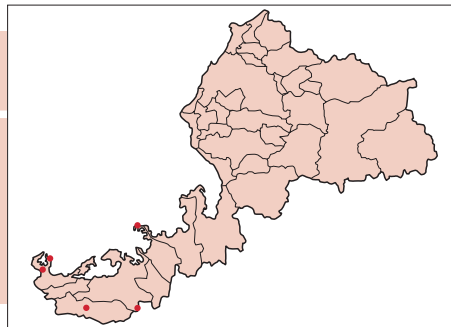
オマガリフキバッタ

バッタ目バッタ科

Parapodisma tanbaensis Tominaga et Kano

福井県カテゴリー 要注目

環境省カテゴリー —



- **種の特性**
本属のフキバッタは、森林内部や周辺部の下草や灌木に生息する。翅が小さくて短く、移動範囲が狭いため、地理的な種分化が著しい。
- **生息状況**
本州に分布するが、局地的である。
県内では、高浜町、名田庄村、小浜市、三方町から記録されており、三方町常神が分布北東限となっている。
- **存続を脅かす要因**
森林内部や周辺部の下草が存在するような環境の減少が脅威となる。
- **参考文献**
福井県．1999．福井県のすぐれた自然 動物編．452pp．福井県．

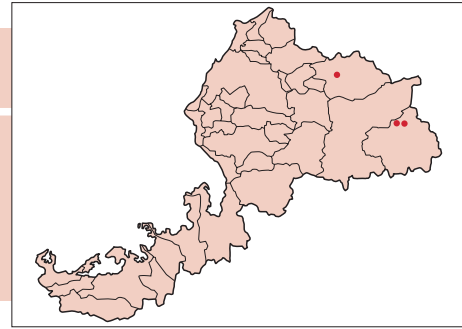
アカエゾゼミ

カメムシ目科

Tibicen flammatus (Distant)

福井県カテゴリー 要注目

環境省カテゴリー —



● 種の特性

体長60～68mmの大型種で、頭部および前胸背の橙色斑は大きく顕著。体翅ともに全体的に赤味が強い。

● 生息状況

北海道から本州まで分布。生息標高はやや高く、ブナ林など自然度の高い広葉樹林に多い。産地は局所的である。福井県での記録は和泉村角野前坂、朝日前坂の2カ所。大野市保月山の約800～1000m地点での鳴き声の確認情報もある。

● 存続を脅かす要因

県内に生息している他のセミと比べると個体数が少なく、分布域も狭いため、ブナ林等の伐採が脅威である。

● 参考文献

福井県．1999．福井県のすぐれた自然 動物編．452pp．福井県．

福井県自然環境保全調査研究会昆虫部会．1998．福井県昆虫目録(第2版)．556pp．福井県．

日浦勇．1993．半翅目．原色日本昆虫図鑑(下)：95-174．保育社．大阪．

宮本正一．1965．半翅目．原色昆虫大図鑑：75-112．北隆館．東京．

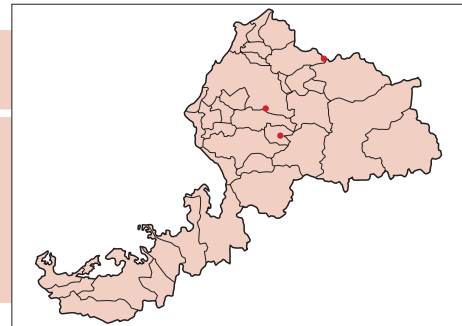
モンシロミズギワカメムシ

カメムシ目ムズギワカメムシ科

Chartoscirta elegantula (Fallén)

福井県カテゴリー 要注目

環境省カテゴリー —



● 種の特性

体は全体的に光沢の強い黒色で、白と淡黄色の斑紋がある、体長3～4mmの血小型の綺麗な水生カメムシ。頭の付け根は首状に長細くなる。

湿地の雑草間で発見されるが少なく、分布も局所的である。

● 生息状況

本州、九州に分布する。

福井県では勝山市池ヶ原で2頭が採集されている。ヨシ、ガマの茂る池のほとりの雑草間で採集された。

● 存続を脅かす要因

現在のところ、池ヶ原でしか採集されていない。六呂師周辺には池ヶ原に似た環境が多く点在しているので、今後その周辺地域から採集される可能性は高い。しかし、生息地が限られており、生息環境の改変が脅威となる。

● 参考文献

福井県．1999．福井県のすぐれた自然 動物編．452pp．福井県．

福井県自然環境保全調査研究会昆虫部会．1998．福井県昆虫目録(第2版)．556pp．福井県．

日浦勇．1993．半翅目．原色日本昆虫図鑑(下)：95-174．保育社．大阪．

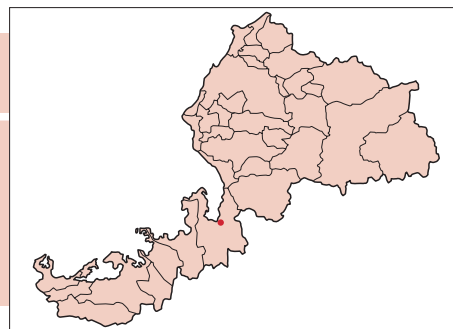
宮本正一．1965．半翅目．原色昆虫大図鑑：75-112．北隆館．東京．

トゲミズギワカメムシ

カメムシ目ムズギワカメムシ科
Saldoidea armata Horváth

福井県カテゴリー 要注目

環境省カテゴリー —



● 種の特性

体長2～3mmの小型のカメムシで、池沼の周りの湿地や山間の水田に住む。頭の付け根は細く首状になり、前胸背前半部に1対の大きなカギ状突起を持つ。

● 生息状況

本州、九州、沖縄に分布する暖地性昆虫である。個体数は少なく、その分布は局所的である。

県内では、中池見から1頭が採集されただけである。農業用水路脇の雑草間で採集された。

● 存続を脅かす要因

今のところ中池見でしか採集されていないが、小型の昆虫であり、しかも、雑草中に隠れ住んでいるので、今後の調査で嶺南の山間水田から採集される可能性は高い。しかし、生息地が限られており、生息環境の改変が脅威となる。

● 参考文献

福井県．1999．福井県のすぐれた自然 動物編．452pp．福井県．

福井県自然環境保全調査研究会昆虫部会．1998．福井県昆虫目録(第2版)．556pp．福井県．

日浦勇．1993．半翅目．原色日本昆虫図鑑(下)：95-174．保育社．大阪．

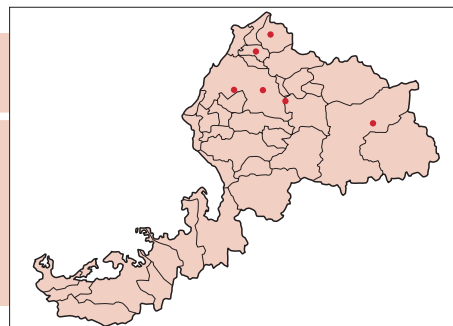
宮本正一．1965．半翅目．原色昆虫大図鑑：75-112．北隆館．東京．

ヨコヅナツチカメムシ

カメムシ目ツチカメムシ科
Adrisa magna (Uhler)

福井県カテゴリー 要注目

環境省カテゴリー —



● 種の特性

体長18mm程、最大級のツチカメムシである。体色は黒で、やや光沢がある。照葉樹林の落ち葉の下や地表で生活しているため目に付きにくい。夜間灯火に飛来することもある。

● 生息状況

本州、四国、九州に分布する暖地性昆虫である。

県内では三国町、丸岡町、名田庄村、敦賀市中池見に記録があるが、個体数は少ない。

● 存続を脅かす要因

本県では嶺南全般、嶺北の海岸線を中心に分布しているようである。個体数が少なく、地表性のため採集されにくいことから、分布の全容ははっきりしない。

● 参考文献

福井県．1999．福井県のすぐれた自然 動物編．452pp．福井県．

福井県自然環境保全調査研究会昆虫部会．1998．福井県昆虫目録(第2版)．556pp．福井県．

日浦勇．1993．半翅目．原色日本昆虫図鑑(下)：95-174．保育社．大阪．

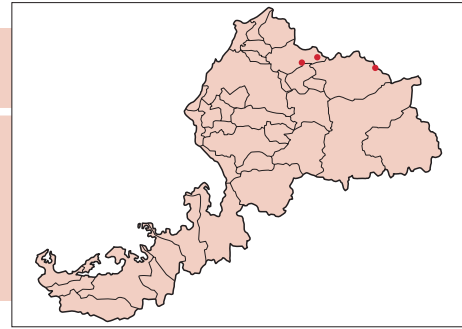
宮本正一．1965．半翅目．原色昆虫大図鑑：75-112．北隆館．東京．

マガタマハンミョウ

コウチュウ目ハンミョウ科
Cicindera ovipennis Lewis

福井県カテゴリー 要注目

環境省カテゴリー —



● 種の特性

体長約15mm。背面は緑がかった褐色，各鞘翅は中央に黄色の勾玉（まがたま）紋を持ち，その後方に黄色の三角紋がある。この斑紋は変化し，時に消失する。後翅は無く，飛べない。斑紋の縮小したニワハンミョウに似るが，鞘翅肩部が無く，鞘翅の点刻列を欠く。

低山地から中山地の下草の無い地表に現れ，忙しく走り回っている。時に林道の側溝に落ちている。早春から夏期に出現する。局所的に発生するが，少なくはなく，時に群生する。多降雪地帯を代表する昆虫として知られる。

● 生息状況

北海道南部，本州中部以北，佐渡島に分布する。

本県では丸岡町から勝山市に掛けての加越山地中心に生息が確認されている。個体数は少ないが，丸岡町や勝山市では，早春に側溝で拾う事がある。ブナ帯に現れる。永平寺町冠岳は本種の西限に当たる。

● 存続を脅かす要因

後翅が無く飛べず，移動が極端に制限された虫であるため，環境の変化に極めて弱い。

開けた環境に出現するが，必ず周囲には豊かなブナ帯の存在があり，間接的に依存しているらしい。直接的な環境変化だけでなく，間接的な環境変化も，本種にとって脅威となる。

● 参考文献

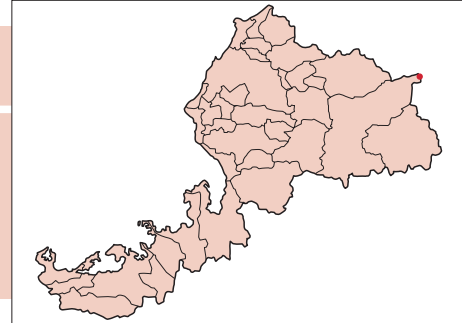
福井県．1999．福井県のすぐれた自然 動物編．452pp．福井県．

ハクサンクロナガオサムシ

コウチュウ目オサムシ科
Leptocarabus arboreus hakusanus (Nakane)

福井県カテゴリー 要注目

環境省カテゴリー —



● 種の特性

体長約20mm前後。中型の細長いオサムシ。全体黒色。分布域にはクロナガオサムシがいるが，小型で，鞘翅の隆起鎖線はより明瞭。ホソヒメクロオサムシにも類似するが，後種は鞘翅が短く，分布域がやや下部になる。寒冷樹林帯以上に分布し，石下や藪下等で見られ，高標高の車道があれば側溝に落ちている。少なくはないが，ペイトラップ以外では偶然拾える程度である。

● 生息状況

白山山塊特産。コクロナガオサムシの1亜種で，種としては北海道と本州中部以北及び紀伊半島に分布し，各山塊ごとに亜種が設定されている。

本県では大野市三ノ峰から記録されている。厳密には剣ヶ岩より上部に分布する。当地は白山山塊において最も南西部に当たり，当地は本亜種の西限になる。

● 存続を脅かす要因

現状は白山国立公園特別保護地区の指定を受け，捕獲が禁止されているとともに，生息域も保護されている。しかし，ゴミや本来存在しない植物の種子等登山者による持ち込みの影響を受けており，それらによる環境変化が懸念される。

● 参考文献

福井県．1999．福井県のすぐれた自然 動物編．452pp．福井県．

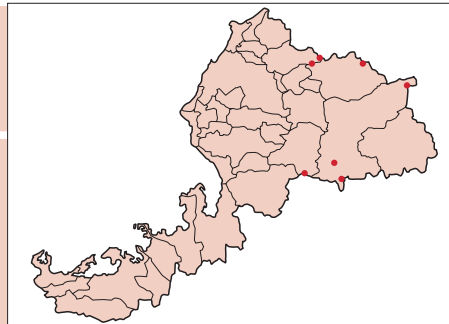
ハクサンホソヒメクロオサムシ (ニシアルマンオサムシ)

コウチュウ目オサムシ科

Leptocarabus (Pentacarabus) harmandi mizunumai (Ishikawa)

福井県カテゴリー 要注目

環境省カテゴリー —



● 種の特性

白山の標本で記載された．アルマンオサムシ亜属に含まれる一種で，福井県は分布の最西部に位置する．白山では標高2000m位まで分布しているが，本県では現在まで800mから1000m位のブナ帯に記録されている．

● 生息状況

飛騨山脈以西に分布し，ブナ帯の小溪で採集されている．林道の側溝でも記録されているため，行動は活発かも知れない．

福井県内では丸岡町，勝山市，大野市，池田町のブナ帯で少数記録されている．

● 存続を脅かす要因

ブナ帯に依存していると考えられるため，森林の開発や気候変動による植物帯の変遷による環境の改変が危惧される．

● 参考文献

福井県．1985．福井県昆虫目録．404pp．福井県．

福井県．1998．福井県昆虫目録(第2版)．556pp．福井県．

石川良輔．1991．オサムシを分ける錠と鍵．295pp．株式会社デイク．東京．

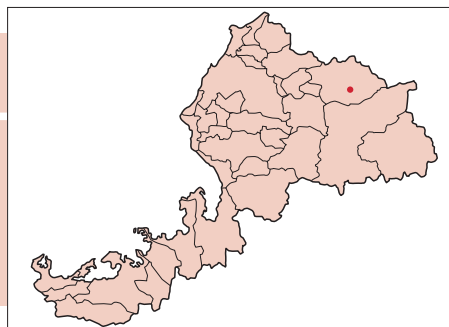
マスゾウメクラチビゴミムシ

コウチュウ目オサムシ科

Suzuka masuzoi S.Uéno

福井県カテゴリー 要注目

環境省カテゴリー —



● 種の特性

体長約3mm．メクラチビゴミムシの一種であるが，瓢箪形の特異な種．アメ色で，複眼は退化している．下翅も退化している．

地下性．本種の生態は不明である．発生期間は不明．採集されたデータは5月であるが，恐らく通年見られるだろう．

● 生息状況

本種の所属するサメメクラチビゴミムシ属はわずかに数種で構成されており，属名のように，ごく近縁の数属を含め紀伊半島鈴鹿山脈から琵琶湖周辺を中心に分布域を持っている．本種はその中で北域を示している．

福井県特産種で，勝山市一本松湯の谷で知られる．スキー場開発のアセスメントの際に得られた標本に基づき，上野俊一氏によって1989年に新種記載されたものである．ただし，原記載以降，再記録はない．

● 存続を脅かす要因

本種の多様性調査を含む土壌性の生物は逃げ場のない厳しい環境に依存しているため，僅かな環境の変動でも影響を受けてしまう．

● 参考文献

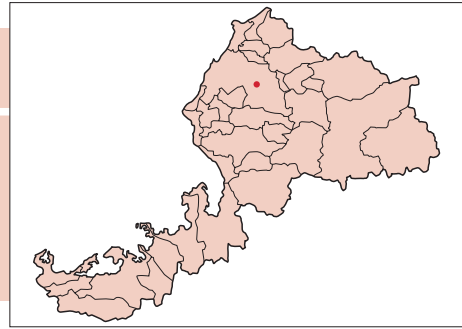
福井県．1999．福井県のすぐれた自然 動物編．452pp．福井県．

アスワメクラチビゴミムシ

コウチュウ目オサムシ科
Trechiana sasajii S. Uéno

福井県カテゴリー 要注目

環境省カテゴリー —



● 種の特性

体長約 5 mm 前後。メクラチビゴミムシの 1 種。近縁種の中では大型の方である。透けたアメ色で、複眼は退化している。後翅も退化している。本種はヨシイメクラチビゴミムシ種群に属する。本種群は 30 種以上になり、いずれも地下性で、外観特徴は互いに極似しており、その識別は雄交尾器と体毛配列による。地中あるいは洞窟性。発生期間は不明である。

● 生息状況

本県には本種群として 10 種近くが知られており、いずれも非常に狭い地域に固有の種である。福井県特産種で、福井市足羽山の七尾口坑のみで知られる。当地はもと笏谷石の採掘が行われていた廃坑で、現在は閉鎖されている。採集されたデータから、通年見られると思われる。

● 存続を脅かす要因

残念ながら原記載以降、再記録はない。廃坑の環境が極度に変化していない限り本種は保存されていると思われる。閉鎖されているので環境は維持されていると期待されるが、現状は不明である。土壌汚染による影響を受けやすいと考えられる。

● 参考文献

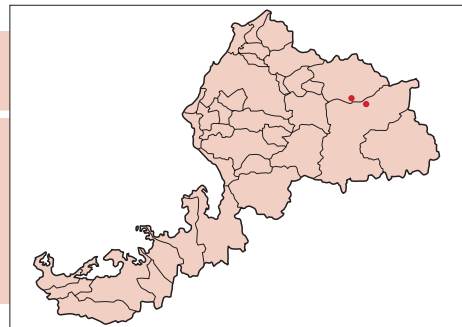
福井県．1999．福井県のすぐれた自然 動物編．452pp．福井県．

マルガタゲンゴロウ

コウチュウ目ゲンゴロウ科
Graphoderus adamsii (Clark)

福井県カテゴリー 要注目

環境省カテゴリー —



● 種の特性

体長 13mm 程度の中型のゲンゴロウで、胸部背面と鞘翅は黄褐色、胸部の前縁と後縁に黒色の帯紋を有する。水質や環境の良好な溜め池などに生息する。成虫は灯火に飛来することがある。

● 生息状況

北端部を除く北海道と本州、四国、九州に分布、国外では朝鮮、中国に分布する。過去の記録は少なく、武生市 2 “北新庄村” からの古い記録のほかは、勝山市赤尾と大野市南六呂師の大池からの記録があるのみ。南六呂師の大池には多産するが、池の周囲は牧草地に囲まれており、安定した生息環境とはいえない。

● 存続を脅かす要因

確実な生息地は大野市南六呂師の大池だけで、この池とその周囲の保全が重要である。さらに、周辺からの汚水流入による水質汚染に対する注意が必要である。

● 参考文献

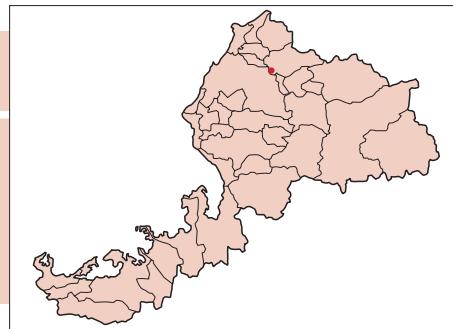
福井県．1999．福井県のすぐれた自然 動物編．452pp．福井県．
森正人・北山昭．(1993) 図説日本のゲンゴロウ．217pp．文一総合出版．

コオナガミズスマシ

コウチュウ目ミズスマシ科
Orectochilus punctipennis Sharp

福井県カテゴリー 要注目

環境省カテゴリー —



● 種の特性

体長 6 mm 前後の舟形をしたミズスマシで、体色は光沢のある黒褐色で鞘翅には点刻を有する。流水性の種で川岸の流れのよどみや、ときには河川敷きの水溜まりにも見られる。

● 生息状況

県内では過去に東藤島村からの古い記録があるほか、九頭竜川の中流域からの記録がある。九頭竜川の中流域には広く分布するようであるが、これ以外の河川からの記録はない。

● 存続を脅かす要因

九頭竜川での生息環境は良好で、当面絶滅の危険性はない。しかし、今後治水事業などによる生息環境の悪化に留意が必要である。

● 参考文献

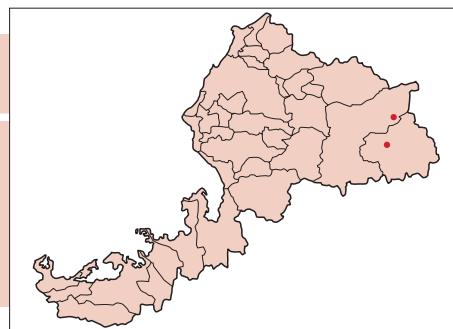
福井県．1999．福井県のすぐれた自然 動物編．452pp．福井県．

マダラクワガタ

コウチュウ目クワガタムシ科
Aesalus asiaticus Lewis

福井県カテゴリー 要注目

環境省カテゴリー —



● 種の特性

体長約 5 mm．小型のコガネムシのようなクワガタらしからぬクワガタ．体は強く隆起し、頭部は小さく下向きで、普通は背面から見えない．雄の大顎は小さいながらも上へ突出する．鞘翅に黒毛の生えた瘤隆起列がある．一見したところ、木屑と紛らわしく、注意が要る．

広葉樹の朽ち木に住むが、樹種よりも朽ち木の状態を選択しているらしい．普通は単独で暮らさず、集団でいることが多い．通常は朽ち木に潜んでいるが、初夏には外に出て分散するので野外での採集はまれ．

● 生息状況

琉球を除くほぼ全国に分布し、北方に多い．中山地帯に生息し、さほど自然度の高い林でも見られる．本県では奥越山地を中心に確認されている．天然林はむろんのこと、伐採跡の疎林でも採集されている．

● 存続を脅かす要因

本種を含む朽ち木に住む生物にとって、朽ち木崩しによる捕獲は、一度に多数が捕獲され、幼虫なども死滅するため、大きなダメージを与えられることとなる．

● 参考文献

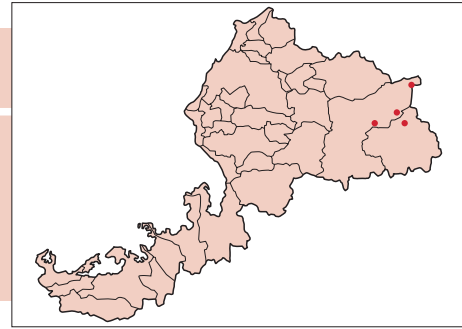
福井県．1999．福井県のすぐれた自然 動物編．452pp．福井県．

ルリクワガタ

コウチュウ目クワガタムシ科
Platycerus delicatulus Lewis

福井県カテゴリー 要注目

環境省カテゴリー —



● 種の特性

体長約13mm．体形には個体差が大きい．雄は緑から青い光沢を持ち，雌は銅色から紺色に鈍く光る．脚は黒い腿節末端を除き黄色．大顎の個体変異は他のクワガタ類より小さい．県内にはごく近似のコルリクワガタがあり，区別が紛らわしいが，本種はより強壮，前胸後角は鈍角で突出しない．

よく保存されたブナ帯に住み，ブナの朽ち木に集まる．ブナの太い朽ち木で成育し，成虫は春に現れ，梅雨半ばには姿を消す．雌は朽木に独特の産卵跡を残す．本県産の雄の体色は緑色系が主流で，雌は銅色から紺色に変化する．

● 生息状況

本州，四国，九州に分布し，一部で亜種が設定されている．

本県ではいわゆる奥越山地に分布しているが，なぜか丹南のブナ帯では確認されていない．標高1000m 前後に分布圏を持つ．

● 存続を脅かす要因

本種の生息環境であるブナ林が，年々減少し生息域が激減している．

美しい虫で産地ごとの特色があり，一度に多数の個体が採集されるなど，業者やマニアによる採集圧が高まっている．

● 参考文献

福井県．1999．福井県のすぐれた自然 動物編．452pp．福井県．

マゲソクワガタ

コウチュウ目コブスジコガネ科
Nicagus japonicus Nagel

福井県カテゴリー 要注目

環境省カテゴリー —



● 種の特性

体長約10mm弱．淡い褐色で，雌はやや濃色．雄はやや偏平で，雌は隆起する．体表には特別の構造は全く無く，粗く点刻され，短い柔毛を生やす．触角は雄で発達して拡大するが，雌は単純．

単純な外観に対して，生態は特色深い．山間の明るい開けた砂地の河原に住み，早春のみに出現する．晴れた日，雄は地表近くを飛翔，時に群飛し，雌は石や草上に触角を伸ばして待機しており，恐らく繁殖行動と思われる．幼虫は地面に埋もれた朽ち木で成育する．

● 生息状況

北海道と本州に分布し，分布圏は東日本に偏り，最近では近畿地方でも採集されている．産地は局所的で少ないが，個体数は多い．

本県では池田町檜俣のみで知られており，当地はかつて小さい集落があった山間の地で，足羽川支流の開けた河原がある．同様な環境は奥越を中心に点在するが，打波川流域では本種は確認されていない．

● 存続を脅かす要因

山間部における河川の護岸工事による生息環境の改変が脅威となる．

● 参考文献

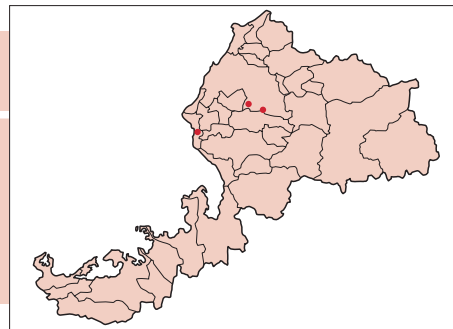
福井県．1999．福井県のすぐれた自然 動物編．452pp．福井県．

オオムツボシタマムシ

コウチュウ目タマムシ科
Chrysobothris ohbayashii Y. Kurosawa

福井県カテゴリー 要注目

環境省カテゴリー —



● 種の特性

体長14～20mm．全体に青銅黒色で，鞘翅に小型で緑色円形の凹紋を6個有する．近似種に比べて大型なので容易に区別できる．

成虫は，6～9月に，クヌギ，カシ類などの枯材につく．

● 生息状況

本州，四国，九州に分布するが，まれな種である．

本県では，越前町厨，福井市南居・文殊山において，4～8月にかけて記録された．南居ではクヌギの伐採木から多数採集されている．

● 存続を脅かす要因

福井県内での分布地はごく限られており，基本的に個体数も少ない．里山や市街地郊外の雑木林の伐採などにより，生息域が失われる恐れがある．

● 参考文献

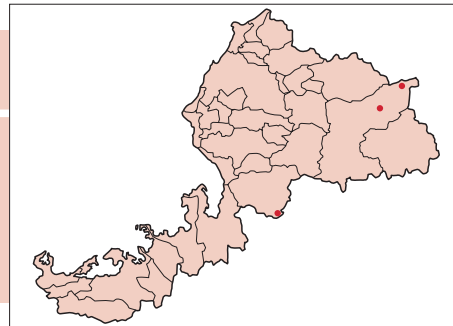
福井県．1999．福井県のすぐれた自然 動物編．452pp．福井県．

アオナガタマムシ

コウチュウ目タマムシ科
Agrilus planipennis ulmi Y.Kurosawa

福井県カテゴリー 要注目

環境省カテゴリー —



● 種の特性

体長約13mm．中型の細長いタマムシ．普通のクロナガタマムシに似るが，背面は明るい緑色を帯び，やや寸胴である．他の細長いタマムシとは体長で区別出来る．

山地に生息し，クルミに飛来するが，まれ．クロナガタマムシのように伐採木にあまり集まらず，周辺のクルミの高い梢に止まっているらしい．体の美しい緑色は，そのための保護色とも思える．

● 生息状況

北海道，本州，四国，九州に分布するが，局所的．

本県では大野市打波川流域と今庄町日野川源流域から記録されている．特に打波川流域にはサワグルミ林が発達しており，本種をはじめとした希少な昆虫類の重要な生息環境になっている．

● 存続を脅かす要因

打波川流域と日野川源流域は，大幅に環境が変動したとは考えられないが，特に保全されているわけでもない．本種の生息環境であるサワグルミ林などの河川環境の改変は本種の存続を脅かすこととなる．

● 参考文献

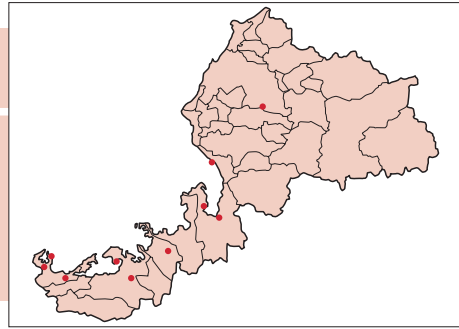
福井県．1999．福井県のすぐれた自然 動物編．452pp．福井県．

サシゲチビタマムシ

コウチュウ目タマムシ科
Trachys robusta E.Saunders

福井県カテゴリー 要注目

環境省カテゴリー —



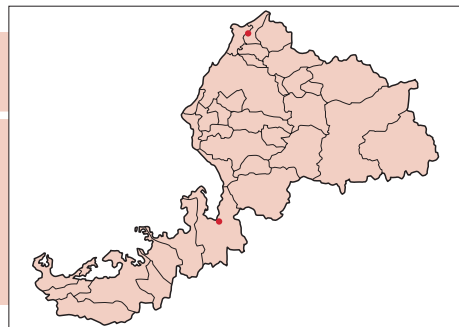
- **種の特性**
スダジイの葉を食べる、本属の中では大型のチビタマムシ。
- **生息状況**
本州、四国、九州、伊豆諸島、対馬の暖地性照葉樹林を中心に広く分布している。
県内では高浜町、小浜市、三方町、敦賀市の嶺南地方各所のスダジイを含む照葉樹林が分布する地域で記録されている。また、嶺北地方でも河野村甲楽城や福井市二上(文殊山麓)で記録されており、福井市が分布北限である。
- **生息を脅かす要因**
スダジイの林が失われると生息できない。特に嶺北地方では、産地が局地的であり、生息環境の改変は種の存続に大きな影響を与える。
- **参考文献**
福井県．1999．福井県のすぐれた自然特性 動物編．452pp．福井県．

ガマキスイ

コウチュウ目キスイムシ科
Telmatophilus orientalis Sasaji

福井県カテゴリー 要注目

環境省カテゴリー —



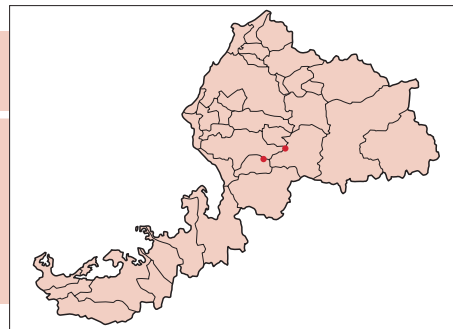
- **種の特性**
体長約2mm程度の、褐色で卵形の小さな甲虫である。付節第2・3節が前下方に伸長することによって他のキスイムシ類から区別される。
ガマの穂に特異的に生息するという生態的特徴を持つ。
- **生息状況**
本州に分布。本県では、芦原町舟津、敦賀市中池見湿地において、湿地のガマ群落で記録された。
芦原町舟津では、記録地が埋め立てられており、以後生息が確認されていない。
- **存続を脅かす要因**
ガマの穂に特異的に生息するため、湿地が埋め立てられたり、ガマ群落が失われたりすることにより、生息域が失われる。
- **参考文献**
福井県．1999．福井県のすぐれた自然 動物編．452pp．福井県．

イノウエホソカタムシ

コウチュウ目ムキヒゲホソカタムシ科
Antibothrus morimotoi Sasaji

福井県カテゴリー 要注目

環境省カテゴリー —



● 種の特性

1997年に新種として記載された。福井県では、ミズナラ枯損林内に設置した昆虫採集用トラップで採集された。体長3mm内外の小昆虫である。

標高300mほどの場所で採集されたが、同様に設置した他の多くのトラップには入ってこなかった。

● 生息状況

福井県以外では、同属がロシア沿海州で記録されているが、国内では三重県で記録されているだけである。

福井県内では南条町の落葉樹林帯で記録されている。

● 存続を脅かす要因

限られた地域の記録であり、確認地域の伐採など改変が脅威となる。

● 参考文献

福井県．1999．福井県のすぐれた自然 昆虫編．452pp．福井県．

Sasaji H. 1977. A new species of the genus *Antibothrus* (Coleoptera, Bothrideridae) from Japan, with notes on the Japanese Bothriderinae. ESAKIA (37): 111-116

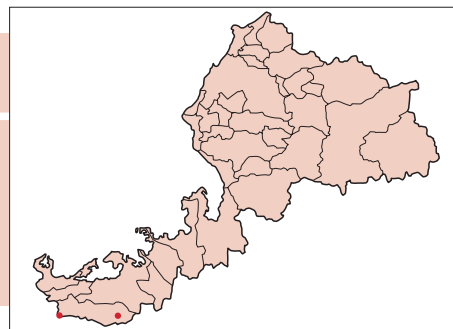
福井県．1998．福井県昆虫目録(第2版)．556pp．福井県．

クロジュウニホシテントウ

コウチュウ目テントウムシ科
Plotina versicolor Lewis

福井県カテゴリー 要注目

環境省カテゴリー —



● 種の特性

体長2.4～3.5mm．小型ながら黄と赤地に12個の黒斑を配した美麗種．体下面，脚，触角，口器は赤褐色である．

● 生息状況

茨城県，神奈川県，広島県，愛媛県，福岡県，長崎県，熊本県，福井県から少数が記録されている．

本県では，名田庄村の頭巾山，虫谷において，それぞれ1頭ずつ採集されている．分布北限である．

● 存続を脅かす要因

全国的にまれな種であり，自然林伐採などの開発により，生息域が失われるおそれがある．

● 参考文献

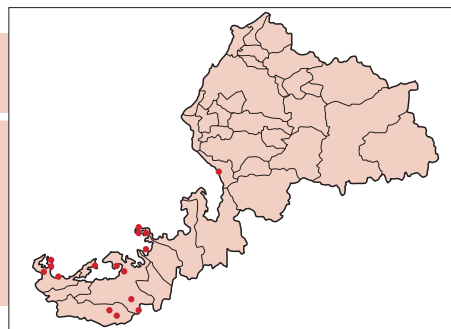
福井県．1999．福井県のすぐれた自然 動物編．452pp．福井県．

アミダテントウ

コウチュウ目テントウムシ科
Amida tricolor (Harold)

福井県カテゴリー 要注目

環境省カテゴリー —



- 種の特性

黄色地に赤と黒の斑紋を持つ美しいテントウムシで、アオバハゴロモの幼虫を食べている。

- 生息状況

暖地性の種で、本州、四国、九州、五島列島、甕島に分布する。

県内では高浜町、名田庄村、小浜市、三方町など、嶺南地方各地で割合普通に見られ、場所によっては最優占種といえるほど多産する。嶺北地方では、河野村河野からの記録があるだけで、分布北限となっている。

- 存続を脅かす要因

生息地の照葉樹林の改変により、生息数が減少する恐れがある。

- 参考文献

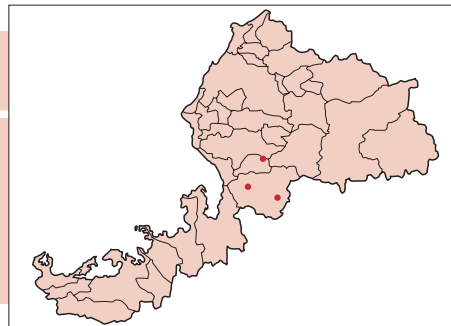
福井県．1999．福井県のすぐれた自然 動物編．452pp．福井県．

ヒゲブトナガクチキ

コウチュウ目ナガクチキムシ科
Dircaeomorpha elegans Sasaji

福井県カテゴリー 要注目

環境省カテゴリー —



- 種の特性

体長約12mm．円筒形で前後に弱く丸まり、頭部は下を向いて背面からは目立たない．全体黒色で、ピロード状の光沢を持つ．各鞘翅は基部と後方にオレンジ色の波状紋を持つ．触角は先端に向かって太く広がる．里山的環境に住み、ブナ帯には出てこないようで、クリ・ミズナラ帯に出現する．クリやミズナラの立枯れの、樹幹の樹皮が剥がれ乾燥気味の表面に付いている．環境がそろっていれば民家の庭にも見られる．暗い林内より、登山道脇や林縁等日の入る明るい場所を好むらしい．出現期は短く、初夏に現れ、梅雨の半ばには姿を消す．生息数は少ない．

- 生息状況

本州、九州に分布し、温帯林下部に住む．

本県では丹南の低山地で記録されている．本種は今庄町から新種記載されたもので、近縁種は東南アジアに知られる．北限は東北地方南部である．

- 存続を脅かす要因

本種が分布圏としている里山環境は全国的に減少している．丹南地方は県内でも里山環境が残っている地域である．里山環境の改変は、本種の存続に悪影響を与える．

- 参考文献

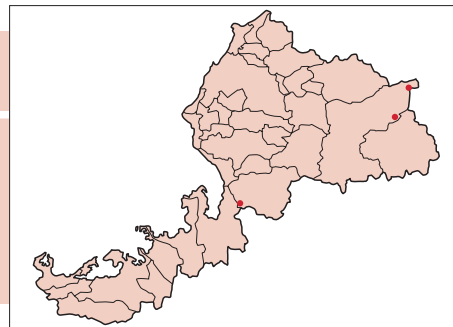
福井県．1999．福井県のすぐれた自然 動物編．452pp．福井県．

ミスジナガクチキ

コウチュウ目ナガクチキムシ科
Stenoxylita trialbofasciata (Hayashi et Katô)

福井県カテゴリー 要注目

環境省カテゴリー —



● 種の特性

体長約10mm前後。ナガクチキムシ類は美しい種が多いが、本種は中でも取りわけ美しい種である。細長い円筒形、頭部は前胸に隠れて背面から見えにくい。前胸は黒褐色の前方を除いて明るい赤色。鞘翅は黒色で、3本の屈曲した白い帯を持つ。脚は細長い。触角は短く目立たない。雄は前付節が顕著に広がる。ブナ帯に生息する。各種朽ち木に付き、特にブナの樹皮が剥がれた古い立枯れの樹幹部を好むらしい。一般には非常に少ないが、朽ち木の状態が良ければ数頭が付いていることが多い。日が差し込まない、やや薄暗い林内で見られる。発生時期は初夏から梅雨半ばまで。

● 生息状況

本州のみに分布する。局所的で少ない。

本県では奥越及び丹南山地で採集されている。大野市刈込池と池ヶ原では1本の朽ち木で複数が得られている。

● 存続を脅かす要因

本種の生息環境として、森林内の朽木は重要であるが、そのような生息環境の喪失が存続の脅威となる。

● 参考文献

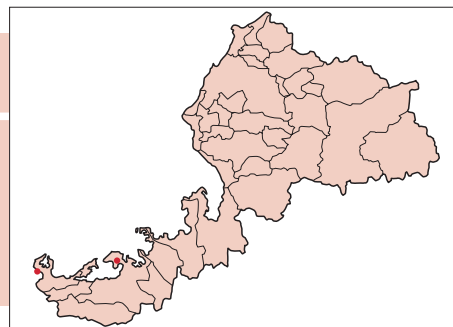
福井県、1999。福井県のすぐれた自然 動物編。452pp。福井県。

ワモンオビハナノミ

コウチュウ目ハナノミ科
Glipa shibatai Nakane

福井県カテゴリー 要注目

環境省カテゴリー —



● 種の特性

福井県・奈良県と南方からのみ記録されている特異的な分布をしていて、採集例も散見・点在している。

採集個体数は記録地では少なくない。

寄生樹種との関係が判明していない。クスノキ科の樹種が関係している可能性もある。

● 生息状況

本県では若狭の小浜市周辺で採集されていて、暖帯林が残る地域である。

● 存続を脅かす要因

生態に不明な点が多く、解明が必要である。

● 参考文献

福井県、1998。福井県昆虫目録(第2版)。556pp。福井県。

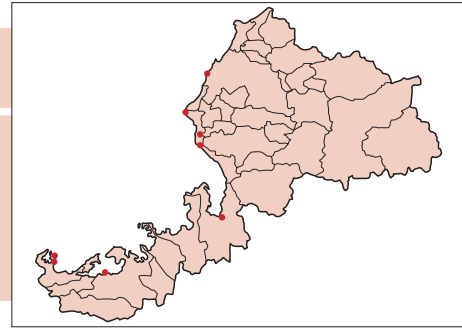
石川県、1998。石川県の昆虫。537pp。石川県。

フタイロカミキリモドキ

コウチュウ目カミキリモドキ科
Oedemeronia sexualis (Marseul)

福井県カテゴリー 要注目

環境省カテゴリー —



● 種の特性

雄の後腿節が橙黄色の美しい種である。雌は普通種のキアシカミキリモドキに似るが、橙黄色の腹部で容易に識別できる。各種照葉樹の花に集まる。

● 生息状況

暖地性の種で、四国、九州、対馬、五島列島、屋久島、琉球に分布する。

県内からは1985年に本州新記録として記録され、その後、若狭湾や越前海岸沿岸の各地で記録された。福井市鮎川が分布北限となっている。

● 存続を脅かす要因

本種が多数生息していた越前岬一帯の開発に伴う生息環境の改変が、生息を脅かす。

特に、照葉樹林が改変されると生息できなくなる恐れが大きい。

● 参考文献

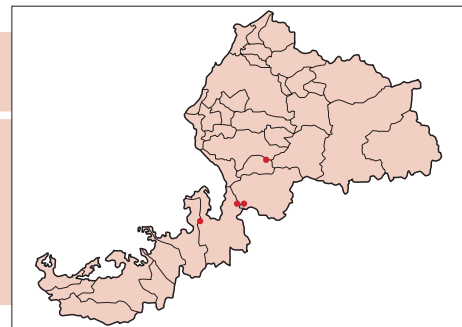
福井県．1999．福井県のすぐれた自然 動物編．452pp．福井県．

クチナガチビキカワムシ

コウチュウ目チビキカワムシ科
Salpingus morishimai Sasaji

福井県カテゴリー 要注目

環境省カテゴリー —



● 種の特性

1987年に新種として記載された。福井県ではミズナラ枯損林内に設置した昆虫採集用トラップで採集された。標高300m程の場所で採集されたが、同様に設置した他の多くのトラップには入ってこなかった。1997年に新種記載されたときは比較的高標高地の個体で記載されたため、低地での採集はないと考えられていた。

● 生息状況

福井県以外では北海道、石川県、栃木県、山梨県の高地で記録されているのみである。

福井県内では勝山市、南条町、今庄町、美浜町の落葉樹林帯で記録され、本州の南限地域である。

● 存続を脅かす要因

広葉樹枯死木の樹皮下に寄主していると考えられており、枯損木の存在が種の維持に必要である。

● 参考文献

福井県．1999．福井県のすぐれた自然 昆虫編．452pp．福井県．

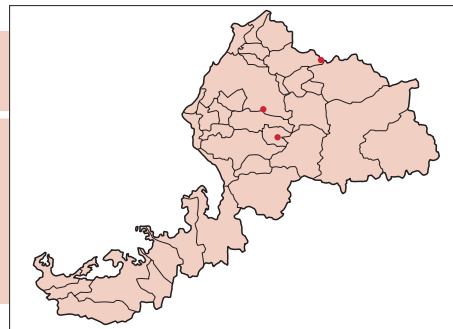
Sasaji H. 1987. Contribution to the taxonomy of the superfamily Cucujoidea (Coleoptera) of Japan and her adjacent districts, Mem.Fac.Educ.,Fukui Univ., Ser. (Nat.Sci.), (37): 23-55.

モンシロハネカクシダマシ

コウチュウ目チビキカワムシ科
Inopeplus quadrinotatus (Gorham)

福井県カテゴリー 要注目

環境省カテゴリー —



● 種の特性

体長2.3～4.5mm。著しく扁平で鞘翅がハネカクシのように短小であるが、付節式は5-5-4である。本種は、鞘翅に2対の白紋があることにより、近縁種から容易に区別できる。
樹皮下に生息し、捕食性である。

● 生息状況

本州、四国、九州、対馬に分布する希少種である。
本県では、丸岡町山竹田、今立町権現山、福井市文殊山から記録された。
丸岡町山竹田では、ケヤキ伐採木の樹皮下より得られており、分布北限である。

● 存続を脅かす要因

いずれの生息地も、落葉広葉樹の自然林が豊かに残されている地域である。そのため、伐採等による環境の改変により、生息地が失われるおそれがある。

● 参考文献

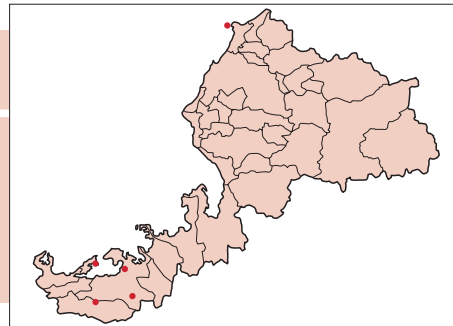
福井県．1999．福井県のすぐれた自然 動物編．452pp．福井県．

ベーツヒラタカミキリ

コウチュウ目カミキリムシ科
Eurypoda batesi Gahan

福井県カテゴリー 要注目

環境省カテゴリー —



● 種の特性

南方系の種で、主として常緑広葉樹の老木に依存している。
常緑広葉樹の洞穴を利用し、夜間に活動していて灯火への飛来も観察されている。

● 生息状況

茨城県、神奈川県以南のヤブツバキ帯に分布し、タブノキ・シイノキ等暖帯樹林地で採集されている。
福井県内では高浜町、小浜市、名田庄村、三国町で少数記録されている。

● 存続を脅かす要因

広がりのある暖帯広葉樹帯を持っている地域は神社等の社叢林に依存しているため、分布地域は極端に狭められている。これら社叢林の直接的な改変や人の出入りによる森林環境の間接的な変化が脅威となる。

● 参考文献

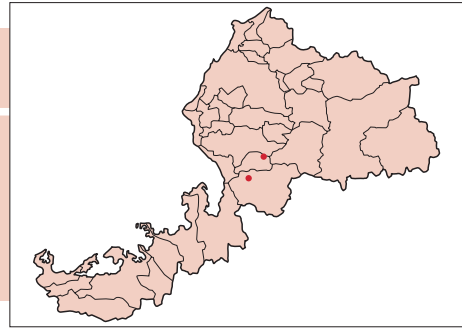
福井県．1985．福井県昆虫目録．404pp．福井県．
福井県．1998．福井県昆虫目録(第2版)．556pp．福井県．
石川県．1998．石川県の昆虫．537pp．石川県．

ヒラヤマコブハナカミキリ

コウチュウ目カミキリムシ科
Enoploderes bicolor Ohbayashi

福井県カテゴリー 要注目

環境省カテゴリー —



● 種の特性

本州に広く分布記録はあるが採集数は少ない。アカメガシワなどの空洞を利用して生息していることが発見されて記録地域も増加してきているが、依然として少ない。

カミキリムシとしては古い時代のタイプの仲間に属している。

● 生息状況

広葉樹の樹洞窟を利用しているため、採集数は少ないかも知れない。

福井県内では南条町、今庄町でのたたき網で少数記録されている。

● 存続を脅かす要因

広がりのある多様な広葉樹林帯地域は減少している。分布地域は極端に狭められていて、これら低地の多様な林の改変が脅威となる。

● 参考文献

福井県．1998．福井県昆虫目録（第2版）．556pp．福井県．

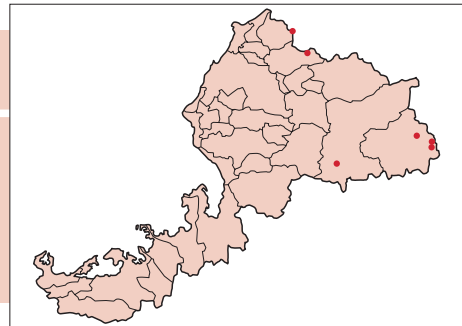
石川県．1998．石川県の昆虫．537pp．石川県．

ホクリクヒメハナカミキリ

コウチュウ目カミキリムシ科
Pidonia jasha S. et A.Saito

福井県カテゴリー 要注目

環境省カテゴリー —



● 種の特性

体長約9mm．背面は黒色，各鞘翅には肩部から後半に掛けて太い黄色縦帯があり，その後方には幅広い黄色横帯を持つ．雄は雌より黄色帯が発達し，全体に明るい．従来，ナガバヒメハナカミキリとして知られていたが，北陸地方産群は雌触角色彩や雄下面の色彩が異なるとして別種とされた．

低山から山地帯に広く分布し，個体数も多い．初夏に発生し，梅雨半ば頃には姿を消す．自然度の高くない林にも生息し，花に來集する．広葉樹の細い枯枝で成育する．

● 生息状況

本県を含む北陸地方のみに分布し，西は敦賀市周辺から北は長野県北部に至る．その分布圏の北東には同種群のトウホクヒメハナカミキリが，それ以外にはナガバヒメハナカミキリがいる．つまり，この3種は置き換え種と思われる．

本県では敦賀市周辺を含む嶺北地方の低山地から上部に広く分布していると思われる．かつてはナガバヒメと混同されていた．本種は今庄町夜叉ヶ池をタイプ産地として新種記載されたもので，種小名の *jasha* は“夜叉ヶ池”にちなんだものである．

● 存続を脅かす要因

生存力の強い種であるが，急激で徹底した伐採は，生息環境を消失することとなる．

● 参考文献

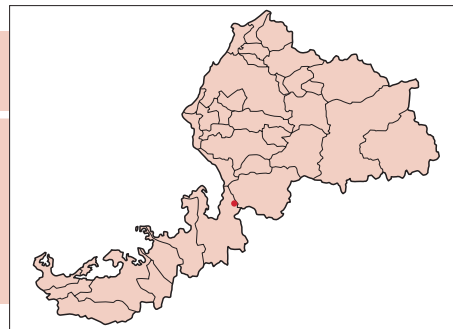
福井県．1999．福井県のすぐれた自然 動物編．452pp．福井県．

ムナコブハナカミキリ

コウチュウ目カミキリムシ科
Xenophyrama purpureum Bates

福井県カテゴリー 要注目

環境省カテゴリー —



● 種の特性

日本の大型ハナカミキリの一珍種で、生態が不明な種であるため採集場所は散見・点在している。広葉樹林の吹き上げ地点で採集されているが、採集数は連続しては得られていない。

● 生息状況

九州山地から、三重県、滋賀県、福井県にかけて分布している。福井県は分布の最北端に位置する。福井県内では1984年今庄町板取で採集された以降、記録がない。

● 存続を脅かす要因

広葉樹帯を生息場所にしていると考えられるが、生態の解明が必要である。

● 参考文献

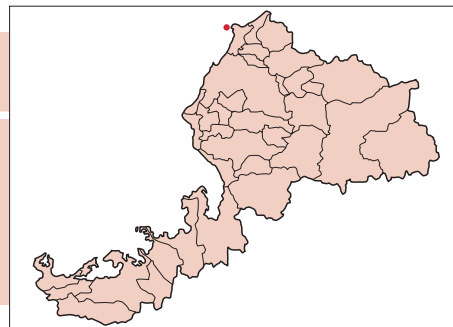
福井県．1985．福井県昆虫目録．404pp．福井県．
福井県．1998．福井県昆虫目録(第2版)．556pp．福井県．
石川県．1998．石川県の昆虫．537pp．石川県．

オガサワラチャイロカミキリ

コウチュウ目カミキリムシ科
Comusia testacea (Gressitt)

福井県カテゴリー 要注目

環境省カテゴリー —



● 種の特性

マルバヤブニッケイ、ホソバタブ等の暖帯常緑広葉樹を寄主植物としている。南方系の種であり、採集数は少ない。

● 生息状況

南西諸島の一部、日本海側の島嶼、小笠原諸島地方から分布記録がある。福井県は分布の最北端に位置する。福井県内では1974年三国町雄島で採集されているが、それ以後の記録がない。

● 存続を脅かす要因

暖帯林帯を生息場所にしていると考えられるが、福井県では暖帯林の分布が少なく、島嶼や社叢林の改変が脅威となる。

● 参考文献

福井県．1985．福井県昆虫目録．404pp．福井県．
福井県．1998．福井県昆虫目録(第2版)．556pp．福井県．
石川県．1998．石川県の昆虫．537pp．石川県．

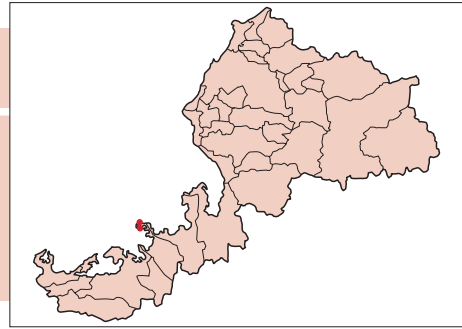
ニッポンモモブトコバネカミキリ

コウチュウ目カミキリムシ科

Merionoeda formosana septentrionalis Tamu et Tsukamoto

福井県カテゴリー 要注目

環境省カテゴリー —



● 種の特性

西南日本の海岸部や島嶼を中心に分布する珍種で、タイプ産地は京都府冠島。体長6～9mmの小型の種ではあるが、後脚腿節の先端部が瘤状に肥大し、特徴的な形態をしている。

● 生息状況

本州(西部)、冠島、四国、姫島、九州、対馬、五島列島若松島、幸島、種子島、屋久島、口永良部島、中之島に分布するが、記録は少ない。

県内では、三方町の常神と御神島から記録されているだけで、分布北東限となっている。

● 存続を脅かす要因

若狭湾沿岸地域の照葉樹林が改変されると、生息できなくなる恐れがある。

● 参考文献

福井県．1999．福井県のすぐれた自然 動物編．452pp．福井県．

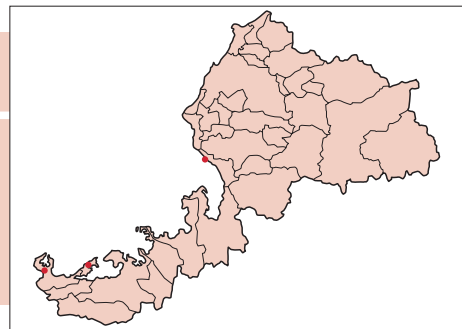
スネケブカヒロコバネカミキリ

コウチュウ目カミキリムシ科

Merionoeda hirsuta (Mitono et Nishimura)

福井県カテゴリー 要注目

環境省カテゴリー —



● 種の特性

寄主植物としてネムノキが知られている。訪花性がありアカメガシワ花で採集されている。

南方系の種であり、採集数は少ない。

● 生息状況

本州山梨県以南に分布が見られる。福井県は分布の最北端に位置する。

福井県では7月から8月中旬にかけて採集されている。分布は局所的であるが、京都府の記録は海岸に近く、福井県も海岸地域の記録である。

● 存続を脅かす要因

暖帯林帯を生息場所に行っていると考えられるが、福井県では暖帯林の分布が少なく、島嶼や社叢の暖帯林の改変が脅威となる。

● 参考文献

福井県．1985．福井県昆虫目録．404pp．福井県．

福井県．1998．福井県昆虫目録(第2版)．556pp．福井県．

石川県．1998．石川県の昆虫．537pp．石川県．

岩田隆太郎ら．1993．京都府のカミキリムシ．118pp．関西甲虫懇話会．

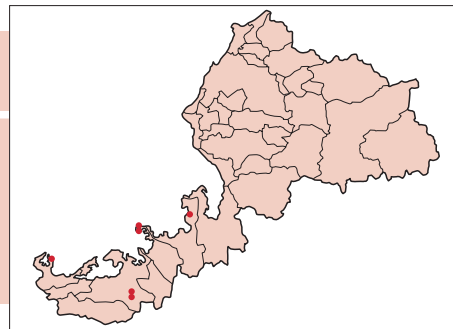
キュウシュウチビトラカミキリ

コウチュウ目カミキリムシ科

Perissus kiusiuensis kiusiuensis Ohbayashi

福井県カテゴリー 要注目

環境省カテゴリー —



● 種の特性

海岸要素が強いが、海岸より2.5km、標高150m地点での記録がある。
南方系の種であり、採集数は少ない。昆虫誘引器で採集された。

● 生息状況

本州（岐阜，愛知）以南，伊豆諸島に分布する。日本海側での北限の記録は，福井県である。
福井県では7月から8月中旬にかけて採集されている。京都府の記録は島嶼のみからであるが，福井県はやや内陸の記録である。
寄主樹種に興味を持たれる。

● 存続を脅かす要因

暖帯林帯を生息場所に行っていると考えられるが，福井県では暖帯林の分布が少なく，島嶼や社叢林の改変が脅威となる。

● 参考文献

福井県．1998．福井県昆虫目録（第2版）．556pp．福井県．
石川県．1998．石川県の昆虫．537pp．石川県．
岩田隆太郎ら．1993．京都府のカミキリムシ．118pp．関西甲虫懇話会．

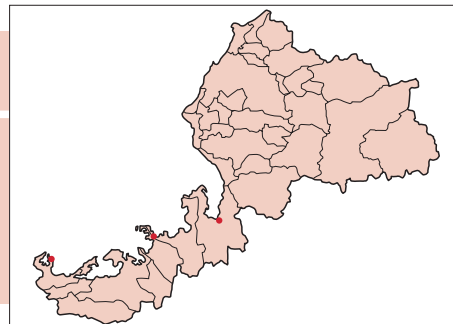
ヤノトラカミキリ

コウチュウ目カミキリムシ科

Xylotrechus yanoi Gressitt

福井県カテゴリー 要注目

環境省カテゴリー —



● 種の特性

暖帯林に生息するエノキの衰弱木や伐採木に集まるカミキリの一珍種で，採集場所は散見・点在している。
採集数は少なく，連続して得られていない。

● 生息状況

福井県以西の日本海側地方から四国・九州地方に分布している。福井県は分布の最北端に位置する。
福井県内では1976年青葉山で採集されているが，それ以後の記録は散在・点在している。

● 存続を脅かす要因

広葉樹帯を生息場所に行っていると考えられるが，生態の解明が必要である。

● 参考文献

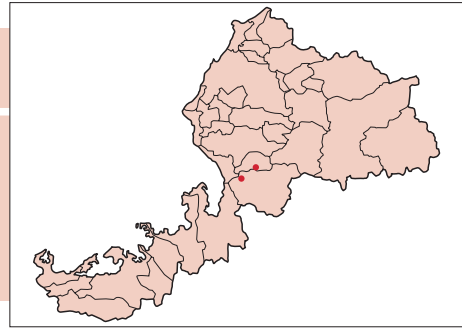
福井県．1985．福井県昆虫目録．404pp．福井県．
福井県．1998．福井県昆虫目録（第2版）．556pp．福井県．
石川県．1998．石川県の昆虫．537pp．石川県．

ヤツボシシロカミキリ

コウチュウ目カミキリムシ科
Olenecamptus octopustulatus (Motschulsky)

福井県カテゴリー 要注目

環境省カテゴリー —



● 種の特性

温帯林のブナ帯下部に生息するズミやナナカマドに寄生する。採集場所は散見・点在している。
採集数は少なく連続して得られていない。

● 生息状況

岐阜県以西に分布しているが採集例は少ない。岐阜県・福井県は最北端の記録地である。
福井県内では、1991年今庄町湯尾のナナカマド伐採木(寄主樹種の新記録種)より、羽化脱出した個体が採集されている。

● 存続を脅かす要因

広葉樹帯のバラ科植物を寄主植物として生息していると考えられるが、生態の解明が必要である。
日本海側ブナ帯下部の植生の改変が生息環境を悪化させる。

● 参考文献

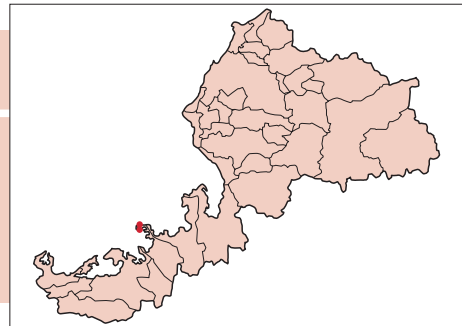
福井県．1998．福井県昆虫目録(第2版)．556pp．福井県．
石川県．1998．石川県の昆虫．537pp．石川県．

クロオビトゲムネカミキリ

コウチュウ目カミキリムシ科
Sciades (Estoliops) fasciatus fasciatus (Matsushita)

福井県カテゴリー 要注目

環境省カテゴリー —



● 種の特性

暖帯林のカシノキ・タブノキ等に寄主することが分かっている。採集場所は散見・点的で少ない。

● 生息状況

静岡県以西に分布している。福井県は最北端(35°30')の記録である。
福井県内では、1978年三方町御神島で採集されている。

● 存続を脅かす要因

暖帯樹帯の植物を寄主植物として生息していると考えられる。県内では寄主植物は少ないため分布地域も少なく、伐採などによる改変が脅威となる。

● 参考文献

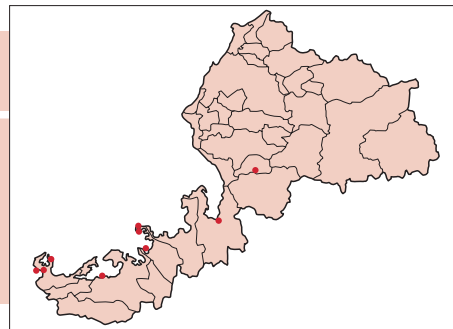
福井県．1985．福井県昆虫目録．404pp．福井県．
福井県．1998．福井県昆虫目録(第2版)．556pp．福井県．
石川県．1998．石川県の昆虫．537pp．石川県．

イチモンジハムシ

コウチュウ目ハムシ科
Morphosphaera japonica (Hornstedt)

福井県カテゴリー 要注目

環境省カテゴリー —



● 種の特性

暖帯林のイヌビワ・イタビ等に寄主することが分かっている。採集場所は散見・点在している。
東シベリアまで記録があるため、生息地は北上する可能性がある。

● 生息状況

静岡県以西に分布し、福井県には最北端(35°45')の記録がある。
福井県内では若狭地方の海岸林周辺から採集されている。

● 存続を脅かす要因

暖帯樹帯の植物を寄生植物として生息していると考えられる。寄生植物は福井県では少ないため、伐採等による改変が脅威となる。

● 参考文献

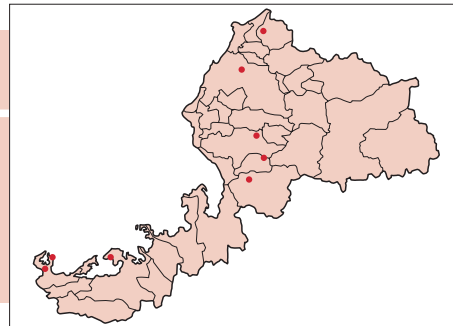
福井県．1985．福井県昆虫目録．404pp．福井県．
福井県．1998．福井県昆虫目録(第2版)．556pp．福井県．
石川県．1998．石川県の昆虫．537pp．石川県．

ナガフトヒゲナガゾウムシ

コウチュウ目ヒゲナガゾウムシ科
Xylinada striatifrons (Jordan)

福井県カテゴリー 要注目

環境省カテゴリー —



● 種の特性

広葉樹林で少数の記録がされていたが、採集方法の判明で記録が増した。シイタケ原木などの伐採木に集まる。
新鮮なナラ等の伐採木に注目すれば採集できる。

● 生息状況

和歌山県の個体で記録されたが、現在中部地方以南から記録が増加している。
福井県内では1987年金津町蓮ヶ浦のシイタケ原木集積地で多数採集され、それ以後広葉樹林のトラップでも記録された。

● 存続を脅かす要因

二次林の放置によりシイタケ原木栽培など新鮮なナラ類の材料が得られないことが脅威となる。

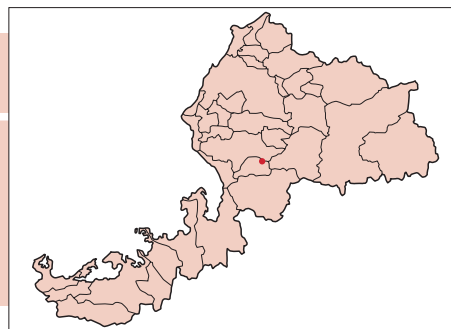
● 参考文献

福井県．1998．福井県昆虫目録(第2版)．556pp．福井県．
石川県．1998．石川県の昆虫．537pp．石川県．
京都昆虫研究会．1991．京都の昆虫．252pp．京都新聞社．

チャバネホソミツギリゾウムシ

コウチュウ目ミツギリゾウムシ科
Cyphagogus iwatensis Morimoto

福井県カテゴリー 要注目
環境省カテゴリー 情報不足

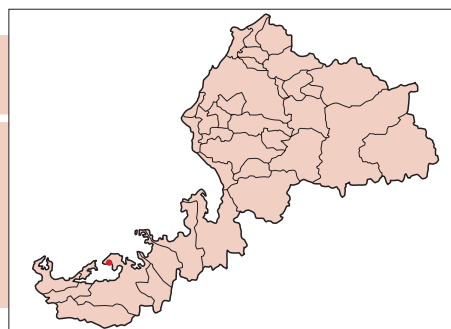


- **種の特性**
全国的にまれな種で少数が記録されているのみである。広葉樹林の衝突型トラップに入った。岩手県早池峰で記録されたが、その後長らく記録されなかった。
- **生息状況**
現在、京都府と福井県から追加記録されているだけである。
福井県内では1995年南条町牧谷の衝突型トラップで採集され、それ以後も広葉樹林内のトラップから少数が採集された。
- **存続を脅かす要因**
キクイムシ類の天敵と考えられるが、低地のナラ類の林分減少が脅威となる。
- **参考文献**
福井県．1998．福井県昆虫目録(第2版)．556pp．福井県．
石川県．1998．石川県の昆虫．537pp．石川県．
京都昆虫研究会．1991．京都の昆虫．252pp．京都新聞社．

ホソミツギリゾウムシ

コウチュウ目ミツギリゾウムシ科
Cyphagogus signipes Lewis

福井県カテゴリー 要注目
環境省カテゴリー 情報不足



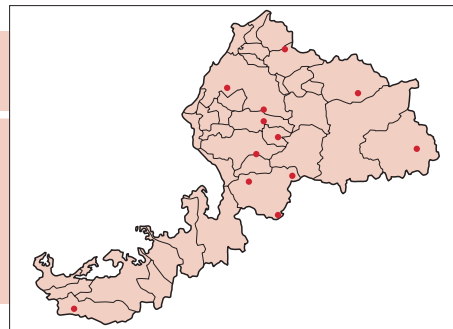
- **種の特性**
全国的にまれな種で、少数が記録されているのみである。枯損広葉樹林の衝突型トラップに入った。キクイムシの天敵として認識されている。
- **生息状況**
現在、石川県、京都府、福井県から記録されているが記録は少ない。
福井県では1966年大野市嵐谷で採集され、それ以後、小浜市堅海の広葉樹林内のトラップで記録された。
- **存続を脅かす要因**
キクイムシ類の天敵と考えられるが、シイノキ・ナラ類の林分減少が生息環境を悪化させると考えられる。
- **参考文献**
福井県．1985．福井県昆虫目録．404pp．福井県．
福井県．1998．福井県昆虫目録(第2版)．556pp．福井県．
石川県．1998．石川県の昆虫．537pp．石川県．
京都昆虫研究会．1991．京都の昆虫．252pp．京都新聞社．

タカハシトゲゾウムシ

コウチュウ目ゾウムシ科
Dinorhopala takahashii (Kono)

福井県カテゴリー 要注目

環境省カテゴリー —



● 種の特性

全国的にまれな種でサクラ・スモモの葉に幼虫が潜ることが記録されている。
サクラ類のたたき網で採集されるが、少ない。ソメイヨシノの植栽木でも採集されている。

● 生息状況

現在中部地方以南の石川県、岐阜県、福井県から記録されている。
福井県内では1965年武生市日野山で採集され、それ以後散見的に記録されている。

● 存続を脅かす要因

情報が少なく、実態がつかめていない。

● 参考文献

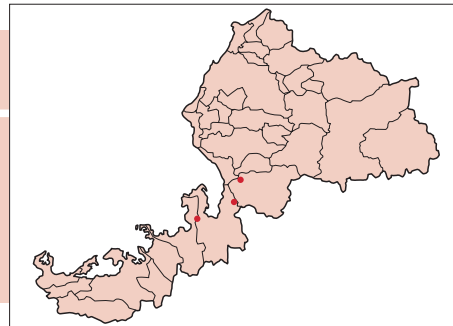
福井県．1985．福井県昆虫目録．404pp．福井県．
福井県．1998．福井県昆虫目録(第2版)．556pp．福井県．
石川県．1998．石川県の昆虫．537pp．石川県．
京都昆虫研究会．1991．京都の昆虫．252pp．京都新聞社．

キンケツツヒメゾウムシ

コウチュウ目ゾウムシ科
Phaenomerus foveipennis (Morimoto)

福井県カテゴリー 要注目

環境省カテゴリー —



● 種の特性

広葉樹林に設置した衝突型トラップやキクイムシ穿入孔に設置したトラップで採集された。
オーストラリアでは、この種は天敵としての性質と食葉性の2タイプが記録されている。

● 生息状況

岩手県以南から分布しているが、分布の記録は少数しかない。
福井県内では1990年今庄町湯尾で採集されているが、それ以後の記録は少ない。いずれもトラップでの採集記録である。

● 存続を脅かす要因

生態の解明が必要である。

● 参考文献

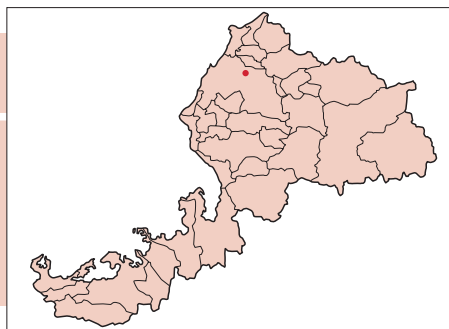
R.T.Thompson. 1996. The species of *Phaenomerus* Schonerr (Coleoptera:Curculionidae : Zygopinae) of the Australian Region. Invertebrate Taxonomy10 : 937-93 .
福井県．1998．福井県昆虫目録(第2版)．556pp．福井県．
石川県．1998．石川県の昆虫．537pp．石川県．
井上重紀.1998．福井県のナラ集団枯損．平成10年度大阪営林局業務研究発表会資料．8pp．

ワモントゲトゲゾウムシ

コウチュウ目ゾウムシ科
Colobodes ornatus Roelofs

福井県カテゴリー 要注目

環境省カテゴリー —



● 種の特性

アキグミの衰弱木や枯死木に寄生していることが最近発見されたが、採集場所は散見・点在している。採集数は少なく連続して得られていない。

● 生息状況

本州中部以南・四国・九州地方に分布している。
福井県内では河川敷で採集されているが、それ以後の記録はない。

● 存続を脅かす要因

アキグミの分布場所は海岸樹林帯や河川敷に依存しているため、近年の開発行為が分布地域を縮小している。さらに、河川敷では流量確保のための河畔林の伐採も脅威となる。

● 参考文献

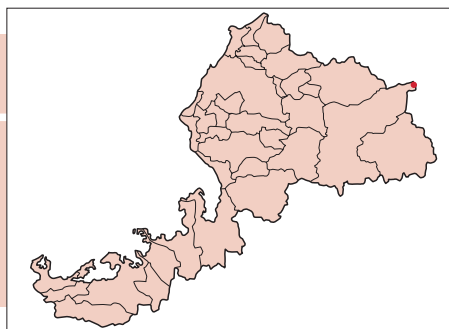
福井県．1998．福井県昆虫目録(第2版)．556pp．福井県．
石川県．1998．石川県の昆虫．537pp．石川県．

ハクサンシリアゲ

シリアゲムシ目シリアゲムシ科
Panorpa hakusanensis Miyake

福井県カテゴリー 要注目

環境省カテゴリー —



● 種の特性

黒褐色の体に黒い斑紋を散らした四枚の透明な翅を持つ高山性のシリアゲムシで、前翅長は15～17mm。7～8月に成虫が現れる。
この種の生態については、不明な点が多く、一般のシリアゲムシ類と同様に、成虫は、昆虫の死骸や腐った植物質などを食べ、幼虫は、土壌の腐植層内で育つと考えられる。

● 生息状況

本州中部山岳地帯の高所(標高1800～2700m)に生息する。
本県では、1995年8月に、大野市三ノ峰山頂近くの草原(標高約2100m)で初めて記録されたが、白山山系は本種の分布西限に当たる。

● 存続を脅かす要因

本種が生息する高山山頂付近の生態系は不安定で壊れ易いため、特に人為的な影響が本種の生息環境に悪影響を与える。

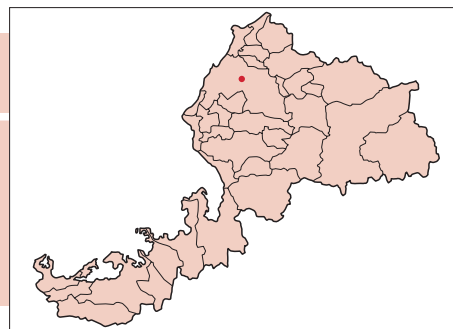
● 参考文献

日浦 勇．1993．シリアゲムシ目．原色日本昆虫図鑑(下)，175-177．保育社．大阪．
宮本正一．1965．長翅目．原色昆虫大図鑑，155-156．北隆館．東京．
下野谷豊一．1995．三ノ峰でハクサンシリアゲを採集．福井市自然史博物館研究報告，(42)：97．福井市自然史博物館．

ハマダラハルカ

ハエ目ハルカ科
Haruka elegans Okada

福井県カテゴリー 要注目
環境省カテゴリー 情報不足



● 種の特性

春に低山地の雑木林で見かけられる。黒っぽい蚊のような双翅類。体長約10mm、翅長8mm前後で、体は全体黒い。黒褐色の翅には、黄白色半透明の斑紋が12個ほどある。

幼虫は、朽ちた広葉樹の樹皮下で育つ。成虫も、樹幹や倒木の上に止まっている姿がよく見かけられる。

● 生息状況

本州、四国、九州に生息する日本固有種。日本特産の属でもある。

県内では、本種は福井市深谷での記録があるに過ぎない。

● 存続を脅かす要因

低山地広葉樹林域に広く分布する種で、今すぐ存続を脅かされる状況にはないが、自然環境の多様性の消失が、地域個体群の健全な維持に悪影響を及ぼす。

● 参考文献

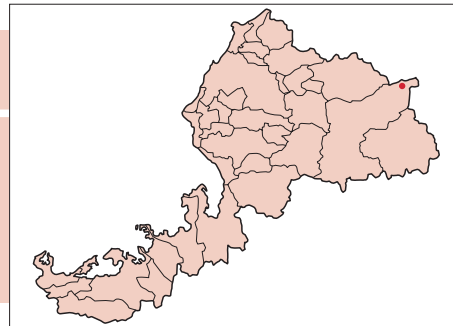
福井県自然環境保全調査研究会昆虫部会、1998福井県昆虫目録(第2版)、556pp、福井県。

伊藤修四郎、1993、双翅目、原色日本昆虫図鑑(下): 207-274、保育社、大阪。

アルプスニセヒメガガンボ

ハエ目ニセヒメガガンボ科
Protoplasia (Protanyderus) alexanderi Kariya

福井県カテゴリー 要注目
環境省カテゴリー 情報不足



● 種の特性

体長約7mm、翅長約11mm。体は一様に褐色で、透明な翅には顕著な黒褐色の斑紋がある。脚は黄褐色で、腿節末端は濃褐色。原始的な双翅類の一種である。

この種の生態については、ほとんど知られていない。夜間、灯火に集まる性質がある。生きている本種の姿は、小蛾の一種のようにも見える。

● 生息状況

本州中部の山地に分布する稀な種。

本県では、1995年8月に、大野市上小池で1個体の採集記録があるだけである。

● 存続を脅かす要因

まれな種であることもあり、生態的にもほとんどわかっていない。開発等による自然環境の多様性の消失は、本種の生存の脅威となる。

● 参考文献

伊藤修四郎、1993、双翅目、原色日本昆虫図鑑(下): 207-274、保育社、大阪。

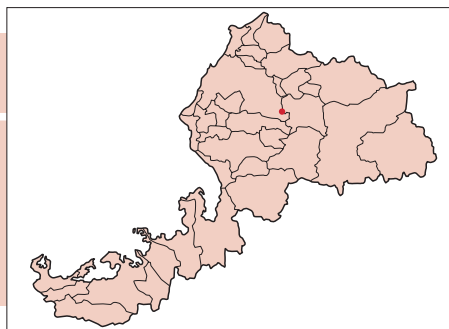
アヤヘリガガンボ

ハエ目ガガンボ科

Dolichopeza (Nesopeza) geniculata (Alexander)

福井県カテゴリー 要注目

環境省カテゴリー —



● 種の特性

体長，翅長ともに10mm前後の小型種．透明な翅の前縁に独特の黒褐色の模様を持つ顕著なガガンボである．県内に多いオオユレイガガンボとは同属の近縁種．

生態については，ほとんど知られていない．

● 生息状況

日本中に広く分布するが，個体数は少ない．

本県におけるこのガガンボの採集記録は，1994年6月に福井市一乗城山で1個体があるに過ぎず，かなりまれな種と考えられる．

● 存続を脅かす要因

まれな種であることもあり，生態的にもほとんどわかっていない．開発等による自然環境の多様性の消失は，本種の生存の脅威となる．

● 参考文献

高橋三雄．1965．双翅目ガガンボ科．原色昆虫大図鑑 ，167-172．北隆館．東京．

ウスキシマヘリガガンボ

ハエ目ガガンボ科

Nipponomyia kuwanai (Alexander)

福井県カテゴリー 要注目

環境省カテゴリー —



● 種の特性

体長，翅長ともに10mm前後．外見は，淡い黄褐色のガガンボ．透明な翅には，前縁に顕著な黄褐色の模様がある．

生態については，ほとんど知られていない．成虫は秋期に採集される．

● 生息状況

本州の山地に生息するが，分布は局地的とされる．

本県では，福井市深谷だけで採集されているに過ぎない．

● 存続を脅かす要因

低山地の広葉樹林域で採集されている．生息環境の改変や広葉樹林の人工林化などによる里山の自然環境における多様性の消失は，本種の存続の脅威となる．

● 参考文献

伊藤修四郎．1993．双翅目．原色日本昆虫図鑑(下)：207-274．保育社．大阪．

西治 敏．1998．福井市深谷のガガンボ．福井虫報．(22)：23-28．福井昆虫研究会．

高橋三雄．1965．双翅目ガガンボ科．原色昆虫大図鑑 ：167-172．北隆館．東京．

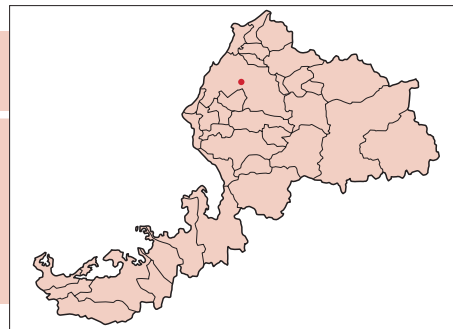
ヒメハスオビガガンボ

ハエ目ガガンボ科

Pedicia (Pedicia) gaudens Alexander

福井県カテゴリー 要注目

環境省カテゴリー —



● 種の特性

体長20～23mm，翅長19～20mmの大型種で，灰黒色の胸部と尾端部のみ黒くなった橙黄色の腹部を持つ．褐色がかった透明な翅には，前縁脈と横脈に沿って幅の広い褐色の模様がある．顕著な外観の美しいガガンボ．4月下旬～5月上旬にかけて，低山地の河川源流域の林で成虫が見られる．

● 生息状況

本州と九州の山地に分布するが多くない．
本県では，福井市深谷だけで記録されている．

● 存続を脅かす要因

本種の生息域となる河川源流域の自然環境改変は，本種の地域的な絶滅を容易に引き起こすと考えられる．

● 参考文献

西治 敏．1998．福井市深谷のガガンボ．福井虫報．(22)：23-28．福井昆虫研究会．
高橋三雄．1965．双翅目ガガンボ科．原色昆虫大図鑑：167-172．北隆館．東京．

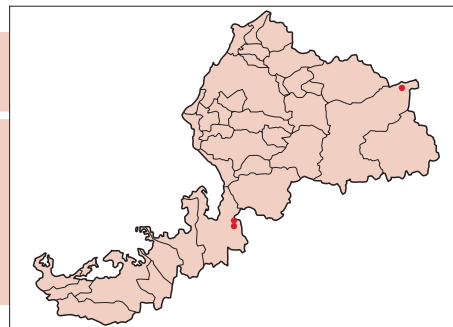
キバラガガンボ

ハエ目ガガンボ科

Limnophila (Eutonia) satsuma (Westwood)

福井県カテゴリー 要注目

環境省カテゴリー —



● 種の特性

赤褐色の大型ガガンボ．体長は雌で36～40mm，雄で27～30mm．翅長は雌23～28mm，雄21～23mmで，ミカドガガンボに匹敵する日本最大級の種．褐色の翅には，淡い黒色の模様がある．ブナ，ミズナラ林域の，湿原の周りや河川沿いの林で姿が見られる．

● 生息状況

本州，四国，九州の山林に生息するが少ない．
本県では，敦賀市池ノ河内と大野市上小池に分布することが知られており，どちらも良好な自然環境が保たれている場所である．池ノ河内では，湿原の周りの林でよく見かけられるが，湿原内には少ない．しかし，ここには体長20mmほどの近似種が生息している．

● 存続を脅かす要因

ブナ，ミズナラ帯の，原始的な自然の残る地域で採集されている．開発などによる生息地の自然環境の改変は，この大型ガガンボの生息に必要な生態系の微妙なバランスを崩す恐れが高い．

● 参考文献

高橋三雄．1965．双翅目ガガンボ科．原色昆虫大図鑑：167-172．北隆館．東京．

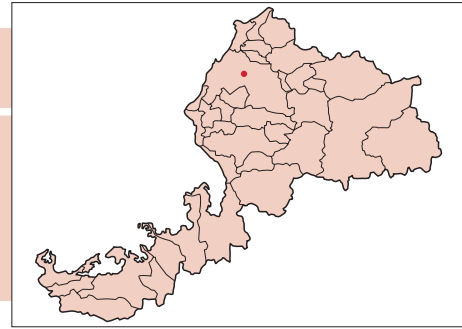
クモガタガガンボの一種

ハエ目ガガンボ科

Chionea sp.

福井県カテゴリー 要注目

環境省カテゴリー —



● 種の特性

真冬に、山地の積雪の上に現れる無翅のガガンボの一種で、チビクモガタガガンボ (*Chionea gracilistyla*) に近縁。体は黄褐色で、体長4.5mm前後。長い脚には長剛毛を無数に生ずる。雪の上を歩くこの虫の姿は、クモかザトウムシのようにも見える。

● 生息状況

1998年2月に、福井市深谷で初めて発見された種で、他の地域からの記録はまだない。深谷では、厳冬期に雪の上を活発に歩く姿がまれに発見される。標高150mの広葉樹林域で採集されたが、同様の環境は各地に広く存在するため、今後の調査によっては、広く分布している可能性がある。

● 存続を脅かす要因

この種がどのような生活史を持っているのか、ほとんど知られていない。里山を含む低山地自然環境の多様性の消失は本種の生存の脅威となる。

● 参考文献

西治 敏．1998．福井市深谷のガガンボ．福井虫報．(22)：23-28．福井昆虫研究会．

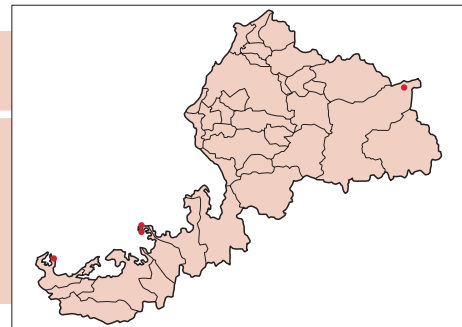
トワダオオカ

ハエ目力科

Toxorhinchites (Toxorhinchites) towadensis (Matsumura)

福井県カテゴリー 要注目

環境省カテゴリー —



● 種の特性

体長約10mm、翅長約8mmで、日本産の蚊の中の最大種。雌雄ともに吸血性はなく、花蜜などを吸う。幼虫は樹洞内のたまり水に発生し、他種のボウフラを捕食する。

● 生息状況

北海道から屋久島まで広く分布し、自然度の高い地域で発見される。県内では、大野市小池、三方町常神、御神島、高浜町音海で記録されているが、これらの地域は、人の手のあまり入らない自然のよく残された地域である。

● 存続を脅かす要因

幼虫の生育場所から推測されるように、本種は、古い樹木の残る原生的な自然環境を必要とする。わずかに残されたそのような地域の人為的改変は、本種の存続を脅かす要因となる。

● 参考文献

原 淳．1965．双翅目力科．原色昆虫大図鑑 173-178．北隆館．東京．

伊藤修四郎．1993．双翅目．原色日本昆虫図鑑(下)：207-274．保育社．大阪．

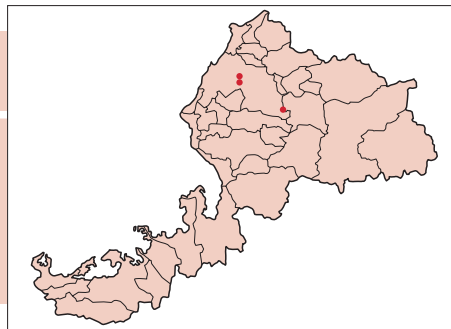
オオバヒメアマカ

ハエ目アマカ科

Philorus kuyaensis Kitakami

福井県カテゴリー 要注目

環境省カテゴリー —



● 種の特性

体長 6 ~ 11mm, 翅長 8 ~ 15mm の、一見、ガガンボによく似た大型のアマカ。

春から初夏にかけて山地溪流周辺に現れ、ガガンボなどを捕食する。幼虫は腹面に吸盤を持ち、急流中の岩石に吸着して生活している。

● 生息状況

本州、四国、九州に分布が知られている。

県内では、福井市の深谷と一乗城山で記録されているに過ぎないが、各地の山地溪流域に広く生息していると思われる。しかし、個体数は多くない。

● 存続を脅かす要因

河川の源流域、溪流域における自然林の伐採や道路工事、護岸工事などによる河川環境の変化が、本種の地域的な絶滅を引き起こす可能性は高い。

● 参考文献

枝重忠夫．1965．双翅目アマカ科．原色昆虫大図鑑　：193-194．北隆館．東京．

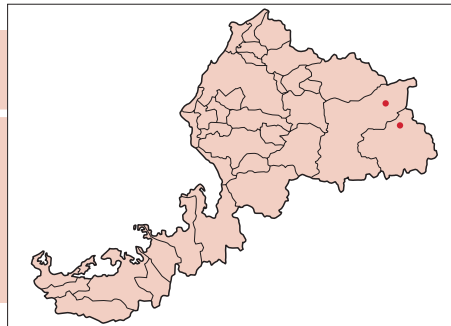
ヒゲブトルリミズアブ

ハエ目ミズアブ科

Beris petiolata Frey

福井県カテゴリー 要注目

環境省カテゴリー —



● 種の特性

体長 8 ~ 9 mm, 翅長 7 mm 前後。胸部は青藍色ないし青緑色の光沢があり、小盾板の後縁には顕著な棘が 8 本突き出している。腹部は紫褐色。透明な翅は、前縁よりの部分が広くすす色で、その中ほどに、黒い斑紋がある。雄では左右の複眼が相接し、後脚の付節第 1 節は、特に太くなっている。

生態に関しては、ほとんど不明である。

● 生息状況

本州中部の山地に分布するが、生息はまれ。

本県では、大野市中洞と、和泉村角野前坂で得られている。どちらも標高約 500m の広葉樹林域である。

● 存続を脅かす要因

奥越の比較的自然度の高い広葉樹林域で採集されている。自然林の伐採などによる生息環境の自然の多様性の消失は、本種を含め、多くの希少な生物種の存続を脅かす。

● 参考文献

宮武睦夫．1965．双翅目ミズアブ科．原色昆虫大図鑑　：195-196．北隆館．東京．

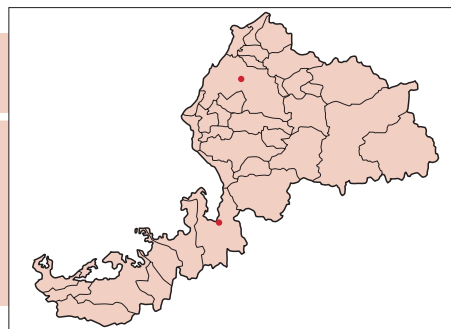
オオヒゲナガハナアブ

ハエ目ハナアブ科

Chrysotoxum grande Matsumura

福井県カテゴリー 要注目

環境省カテゴリー —



● 種の特性

太った蜂のような外観の美しい大型ハナアブ。体長16～18mmで、翅長は15～16mmある。体は、暗褐色の地に、腹部には明瞭な橙黄色の縞模様がある。顔面は橙黄色。透明な翅は翅脈が黄色。雌では、先端部がすす色がかかる。

幼虫、成虫を通じたこの種の生態については、ほとんど知られていない。

● 生息状況

北海道、本州、四国、九州およびサハリンに分布が知られ、5～10月に成虫が現れる。分布域は広いが、決して多くない。

県内では、福井市大安寺と敦賀市中池見で記録されており、まれな種である。

● 存続を脅かす要因

比較的自然度の高い低山地で採集されている。生息地における自然環境の多様性の消失は、本種の生存の脅威となる。

● 参考文献

枝重忠夫．1965．双翅目ハナアブ科．原色昆虫大図鑑：207-218．北隆館．東京．

福井県（大阪ガス提出、福井県発行）．1996．敦賀LNG基地建設に係る環境影響評価書．649pp．福井県．

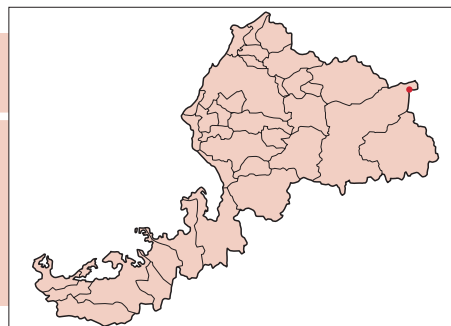
モトドマリクロハナアブ

ハエ目ハナアブ科

Cheilosia motodomariensis Matsumura

福井県カテゴリー 要注目

環境省カテゴリー —



● 種の特性

体長13～14mm、翅長12mmほどの黒いハナアブ。光沢のある黒い体には褐色や黄白色の長毛を密生する。透明な翅は、中央部に不明瞭な褐色紋がある。

● 生息状況

北方系のハナアブで、サハリン、北海道、本州の山林内で採集される。

県内では、大野市上小池の標高1000m余りの所にあるブナ林で記録された。

本県は、この種の分布の南西限に近いものと思われる。

● 存続を脅かす要因

この種の生態については、不明な点が多い。上小池地域など、奥越に分布するブナ、ミズナラ林域の自然環境の消失は、本種の生存の脅威となる。

● 参考文献

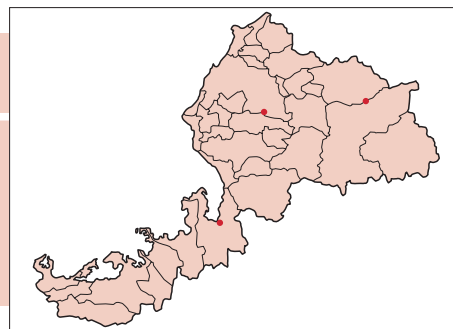
枝重忠夫．1965．双翅目ハナアブ科．原色昆虫大図鑑：207-218．北隆館．東京．

スズキナガハナアブ

ハエ目ハナアブ科
Spilomyia suzukii Matsumura

福井県カテゴリー 要注目

環境省カテゴリー —



● 種の特性

スズメバチにそっくりの大型ハナアブ。体長20mm前後，体は黒褐色で，胸部と腹部に黄色の斑紋や縞模様がある。黄色い顔面と模様の入った黄褐色の複眼を持つ。また，2枚の翅は，スズメバチ類のように褐色に色づく。

本種の生態はほとんど知られていない。

● 生息状況

北海道，本州，四国に分布するが，多くない。自然度の高い山林で採集される。

県内では，大野市南六呂師，文殊山，敦賀市中池見で記録されている。

● 存続を脅かす要因

人の手があまり入らない，原生的な自然環境を必要とする種と考えられ，伐採などによる，自然林の消失は，本種の存続に大きな悪影響を及ぼす可能性がある。

● 参考文献

枝重忠夫．1965．双翅目ハナアブ科．原色昆虫大図鑑：207-218．北隆館．東京．

福井県(大阪ガス提出，福井県発行)．1996．敦賀LNG基地建設に係る環境影響評価書．649pp．福井県．

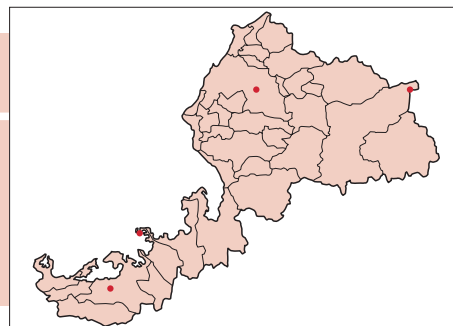
福井県自然環境保全調査研究会昆虫部会．1985．福井県昆虫目録．404pp．福井県．

ミカドハマダラミバエ

ハエ目ミバエ科
Staurella mikado (Matsumura)

福井県カテゴリー 要注目

環境省カテゴリー —



● 種の特性

体長8mm前後，翅長7～8mmの大型ミバエの一種。背面から見ると，黒褐色の体の中央部分，胸部から腹部にかけて幅の広い乳黄色の縦条が目立つ。透明な翅には黒褐色の大きな縞模様があり，先端部分は乳白色。深紅の複眼は，青や緑の干渉色を現し美しい。

本種の生態などについては，ほとんど知られていない。

● 生息状況

北海道，本州，九州から知られているが，ややまれな種である。

県内でのこの種の記録は，1938年，福井県博物学会発行の原色福井県昆虫図譜に記された小浜市口名田村が最初で，その後，大野市上小池，福井市足羽山，三方町御神島にも分布することが知られた。どの場所も，人の手のあまり入らない自然度の高い地域である。

● 存続を脅かす要因

原生的な自然環境を必要とする種であり，自然度の高い環境の改変は本種の存続を脅かすと考えられる。

● 参考文献

福井県博物学会．1938．原色福井県昆虫図譜．42pp．72pls．福井県博物学会．

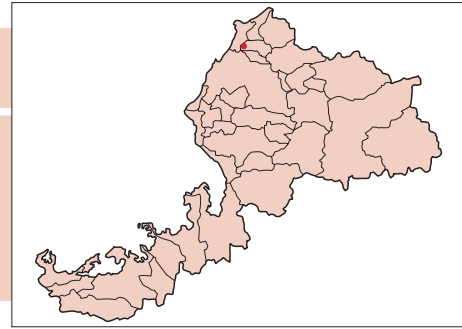
伊藤修四郎．1965．双翅目ミバエ科．原色昆虫大図鑑：221-224．北隆館．東京．

ハイイロボクトウ

チョウ目ボクトウガ科
Phragmataecia castaneae (Hübner)

福井県カテゴリー 要注目

環境省カテゴリー —



● 種の特性

はねの全体が褐色味を帯びた灰色で、ボクトウガ科の種としては特異な色彩斑紋をしていて、他の種とは容易に区別できる。幼虫はヨシを食するが、ヨシ原のあるところ全てには分布しておらず、かなり限定された環境のヨシ原にのみ生息する。成虫は7月頃羽化し灯火にも飛来する。

● 生息状況

広域分布種でシベリア東部からヨーロッパ、アフリカの一部、インド～マレーシアに分布。国内では北海道、本州、四国、九州の平地に生息する。県内では三国町池見の九頭竜川河川敷からの記録がある。さらに新たな地域から見つかる可能性は高い。

● 存続を脅かす要因

確認されている生息地は安定した状況にあるが、ヨシ原とその周囲の改変が脅威となる。

● 参考文献

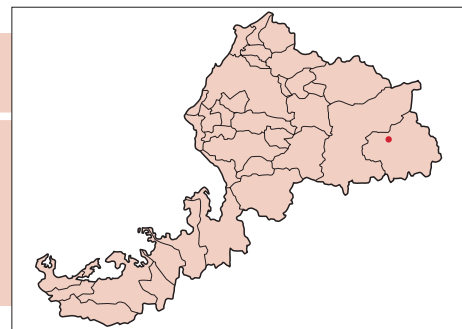
福井県．1999．福井県のすぐれた自然 動物編．452pp．福井県．
井上寛ほか．1982．日本産蛾類大図鑑．講談社．東京．

ムモンアカシジミ

チョウ目シジミチョウ科
Shirozua jonasi Janson

福井県カテゴリー 要注目

環境省カテゴリー —



● 種の特性

日本のチョウ類としては特異な半肉食性の種で、初齢幼虫はアブラムシなどの分泌物を食し、2齢からはミズナラ（ブナ科）などの葉も食べるが、主にアブラムシやカイガラムシを食して成長する。年1回、7月下旬から発生し夕刻に発生木やその周辺の梢上を緩やかに飛翔する。また、発生木から遠くへ離れることも少ない。

● 生息状況

国外では中国北部、アムール、ウスリ、朝鮮に、国内では北海道、本州に分布する。生息地では特定の発生木に依存するためか、分布は局所的で個体数も少ない。県内では和泉村貝皿からの記録を見るだけで、貝皿ではミズナラから越冬卵、幼虫も確認されている。

● 存続を脅かす要因

和泉村では発見当初から村の「自然風物保護に関する条令」で保護対象（第3条に基づく「保護物件」）に指定され、採集禁止等の保護策がとられている。本種は自然度の高いブナ、ミズナラ林に生息するため、伐採など生息環境の変化が脅威となる。

● 参考文献

福井県．1999．福井県のすぐれた自然 動物編．452pp．福井県．
川副昭人ほか．1976．原色日本蝶類図鑑．保育社．大阪．
西村義信．1980．福井県よりムモンアカシジミとクロシジミ発見．だんだら(1)：14-15．福井むしの会．